

仙台市文化財調査報告書第164集

# 南小泉遺跡

第21次発掘調査報告書

1992年3月

仙台市教育委員会文化財課

仙台市文化財調査報告書第164集

# 南 小 泉 遺 跡

第21次発掘調査報告書

1992年3月

仙台市教育委員会文化財課

## 序 文

日頃より仙台市の文化財保護行政に多大のご協力を賜り、  
殊に感謝にたえません。

南小泉遺跡は、仙台市内の遺跡の中でも、昭和の初めより、  
弥生・古墳時代の遺跡として注目を集めてきた遺跡です。

また、仙台市の市街地の南東部の拠点として、都市計画整備に伴い、宅地化が急速に進んでいる地域でもあるために、  
発掘調査のメスが入る機会も多く、当市による調査も回数を  
重ね、21回目の調査報告書となりました。

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡に伴う多くの遺物  
の出土があり、また、平安時代や中世の溝跡など、新たな知  
見も加わり、遺跡の性格が複合遺跡としてますます再認識さ  
れております。

この報告書が皆様方の歴史研究の一助として広く活用され、  
文化財に対するご理解と保護に役立ちますことを念じて  
おります。

最後になりましたが、調査ならびに報告書の刊行にご指導、  
ご協力下さいました皆様に対し、深く感謝申し上げます。

1992年3月

仙台市教育委員会

教育長 東海林 恒 英

## 例　　言

1. 本書は、武山興産株式会社による共同住宅建設に伴う南小泉遺跡の第21次発掘調査の報告書である。
2. 本報告書の土色は、「新版標準土色表」(小山・佐原:1970)に基づいている。
3. 本報告書に使用した建設省国土地理院発行の地形図は、図中に示した。
4. 本報告書の座標は任意の座標を用いており、調査区南北基準線は、磁北から $12^{\circ}20'$ 東偏している。図注の「北」は磁北を表す。
5. 本文の執筆・編集は、金森安孝・稻葉俊一が担当した。
6. 出土した須恵器については、渡邊泰伸氏のご助言を賜った。記して謝意を表したい。
7. 本報告書は、次の通り分担して作成した。

本文執筆…………… I・IV (稻葉)、II・III・V・VI (金森)

遺物実測・トレース・拓影…稻葉、神成清二、赤井沢千代子、伊藤晋也、尾形陽子、小国而整理・図表作成…………… 松愛、小佐野章子、菅家婦美子、佐藤栄子、佐藤裕子、菅井百合子、津島久子、日比野園子、洞口れい子、増田瑞枝、武藏美代子、山田沢子、吉田りつ子、渡辺純子

遺物写真……………稻葉

遺構トレース……………小佐野、菅家、増田

8. 本調査で検出された遺構については、次の遺構略号を使用した。

SB: 堀立柱建物跡 SD: 溝跡 SI: 壁穴住居跡・壁穴遺構 SK: 土坑

SX: 性格不明遺構 P: ピット

使用した遺構略号のうち、SD-1、SK-10は調査中に遺構が消失し、欠番である。

9. 本調査において出土した遺物については、次の略号を付して登録した。

B: 弥生土器 C: 土師器 (非クロクロ) D: 土師器 (クロクロ) E: 須恵器 F: 丸瓦

G: 平瓦 K: 石器・石製品 I: 陶器 J: 磁器 P: 土製品

10. 遺物観察表中の( )内の数値は推定値である。

11. 土師器の内面調査で、スクリーントーンは黒色処理を表している。

12. 本調査に係る各種実測図・写真及び出土遺物は、仙台市教育委員会が一括保存している。

# 目 次

序文	
例言	
目次	
I 調査経緯と調査要項	1
1 調査経緯	1
2 調査要項	2
II 遺跡の環境	3
1 遺跡の位置と地理的環境	3
2 周辺の遺跡と歴史的環境	4
III 調査方法と基本層位	10
1 調査方法	10
2 基本層位	10
IV 普及活動	11
1 現地説明会並びに発掘体験	11
2 体験学習	12
3 まとめ	13
V 発見遺構と出土遺物	14
1 表土層の出土遺物	17
2 掘立柱建物跡	24
3 柱穴列	25
4 溝跡	26
5 穂穴住居跡	37
6 積穴遺構	55
7 土坑	58
8 性格不明遺構	63
VI 出土遺物について	71
1 土師器	71
1) 非クロコ土師器	71
2) クロコ土師器	76
2 須恵器	77
3 石製模造品	78
4 弥生土器	79
VII 遺構の変遷	80
VIII まとめ	82
参考・引用文献	82
写真図版	83

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第25図 SI-2 出土遺物実測図(4)	42
第2図 第21次調査の位置とこれまでの調査区	7・8	第26図 SI-3 壑穴住居跡実測図	44
第3図 建設予定地と調査区配置図	9	第27図 SI-3 出土遺物実測図(1)	45
第4図 基本層位模式図	10	第28図 SI-3 出土遺物実測図(2)	46
第5図 調査区遺構配置図(1)	15・16	第29図 SI-3 出土遺物実測図(3)	47
第6図 調査区遺構配置図(2)	18	第30図 SI-3 出土遺物実測図(4)	48
第7図 表土層出土遺物実測図(1)	19	第31図 SI-5・6 壑穴住居跡、SK-9 土坑実測図	49
第8図 表土層出土遺物実測図(2)	20	第32図 SI-6 出土遺物実測図	50
第9図 表土層出土遺物実測図(3)	21	第33図 SI-7 壑穴住居跡実測図	51
第10図 表土層出土遺物実測図(4)	22	第34図 SI-9 壑穴住居跡実測図	52
第11図 表土層出土遺物実測図(5)	23	第35図 SI-7・8・9 出土遺物実測図(1)	53
第12図 SB-1 挖立柱建物跡・SA-1 柱穴列実測図	24	第36図 SI-7・8・9 出土遺物実測図(2)	54
第13図 SA-1 出土遺物実測図	25	第37図 SI-4 壑穴遺構実測図	56
第14図 溝跡断面図	28	第38図 SI-1・4・10 出土遺物実測図	57
第15図 調査区東側壁断面図	29	第39図 土坑実測図(1)	59
第16図 溝跡出土遺物実測図(1)	32	第40図 土坑実測図(2)	61
第17図 溝跡出土遺物実測図(2)	33	第41図 SK-1・5・8・9・11・15 出土遺物実測図	62
第18図 溝跡出土遺物実測図(3)	34	第42図 SX-1 出土遺物実測図	63
第19図 溝跡出土遺物実測図(4)	35	第43図 弥生土器実測図(1)	64
第20図 溝跡出土遺物実測図(5)	36	第44図 弥生土器実測図(2)	65
第21図 SI-2・8 壑穴住居跡、SK-16 土坑実測図	38	第45図 弥生土器実測図(3)	66
第22図 SI-2 出土遺物実測図(1)	39	第46図 弥生土器実測図(4)	67
第23図 SI-2 出土遺物実測図(2)	40	第47図 弥生土器実測図(5)	68
第24図 SI-2 出土遺物実測図(3)	41	第48図 遺物集中出土状況図	68

## 挿 表 目 次

第1表 南小泉遺跡次数別調査成果一覧表	5・6	第7表 土師器高环分類表	73
第2表 普及活動の記録	13	第8表 土師器甕分類表	74
第3表 SB-1 挖立柱建物跡柱穴観察表	25	第9表 土師器壺分類表	75
第4表 SA-1 柱穴列柱穴観察表	25	第10表 ロクロ土師器分類表	76
第5表 登録遺物一覧表	69・70	第11表 石製品模造一覧表	78
第6表 土師器环分類表	72	第12表 弥生土器発見表	79

## 写真図版目次

- 写真1 遺跡航空写真  
写真2 調査区全景（調査前・東より）  
写真3 調査区全景（東より）  
写真4 調査区西半部（北東より）  
写真5 SA-1柱穴列西1住穴（東より）  
写真6 SA-1柱穴列西1住穴断面（南より）  
写真7 SA-1柱穴列西2住穴（西より）  
写真8 SA-1柱穴列西2住穴断面（南より）  
写真9 SA-1柱穴列西3住穴（西より）  
写真10 SA-1柱穴列西3住穴断面（南より）  
写真11 SI 2 穴住居跡（北西より）  
写真12 SI-2 穴住居跡遺物出土状況（西より）  
写真13 SI-2 穴住居跡 土器・小型遺物出土状況（東より）  
写真14 SI 2 穴住居跡遺物出土状況（南西より）  
写真15 SI-2 穴住居跡遺物出土状況（東より）  
写真16 SI-2 穴住居跡 青玉出土状況（西より）  
写真17 SI-2-8 穴住居跡-SK-16 土坑断面（南より）  
写真18 SI 3 穴住居跡（北西より）  
写真19 SI-3 穴住居跡南東部遺物出土状況（西より）  
写真20 SI-3 穴住居跡住穴1遺物出土状況（東より）  
写真21 SI 3 穴住居跡住穴2検出状況（西より）  
写真22 SI-3 穴住居跡住穴2遺物出土状況（西より）  
写真23 SI-3 穴住居跡（西より）  
写真24 SI-5・6 穴住居跡-SK-8 土坑（東より）  
写真25 SI-7 穴住居跡（東より）  
写真26 SI-7 穴住居跡土器・杯（丹塗り）出土状況（西より）  
写真27 SI-9 穴住居跡遺物出土状況（南より）  
写真28 SI-9 穴住居跡（西より）  
写真29 SI-1 穴住居跡検出状況（西より）  
写真30 調査区東部（北より）  
写真31 SI-4 穴住居跡（北より）  
写真32 SI-4 穴住居跡断面（西より）  
写真33 調査区西半部 SD-2 溝跡検出状況（東より）  
写真34 SD-2 溝跡西半部（東より）  
写真35 調査区北トレンチ SD-3・4 溝跡（西より）  
写真36 SD-6 溝跡断面（東より）  
写真37 SD-7 溝跡断面（南より）  
写真38 SD-7 溝跡（北より）  
写真39 SD 9・10 溝跡断面（南より）  
写真40 SD-9・12 溝跡合流部断面（北より）  
写真41 SD-12 溝跡断面（北より）  
写真42 SD-23 溝跡断面（南より）  
写真43 SD-23 溝跡断面（調査区南東角・南より）  
写真44 SX-1 性格不明遺構断面（西より）  
写真45 調査区北西トレンチ全景（SK-1土坑・東より）  
写真46 SK-1 土坑断面（南より）  
写真47 SK 2 土坑（南より）  
写真48 SK-2 土坑・SK-9・10 溝跡断面（南より）  
写真49 SK-4 土坑遺物出土状況（西より）  
写真50 SK 4 土坑（南より）  
写真51 SK-5 土坑（東より）  
写真52 SK-5 土坑断面（東より）  
写真53 SK-6 土坑全貌・SK 7 土坑検出状況（東より）  
写真54 SK-6・7 土坑（東より）  
写真55 SK-6 土坑断面（南より）  
写真56 SK-7 土坑断面（北より）  
写真57 SK 8 土坑（北より）  
写真58 SK-11 土坑（北より）  
写真59 SK-12 土坑断面（南より）  
写真60 SK 17 土坑（南より）  
写真61 B-19 区遺物・壁出土状況（北より）  
写真62 D-9 区遺物出土状況（北より）  
写真63 D-22 区遺物出土状況（西より）  
写真64 体験学習事前指導風景  
写真65 体験学習風景  
写真66～78 遺物写真(1)～(3)

## I. 調査経緯と調査要項

### 1. 調査経緯

南小泉遺跡の第21次調査は、1990年10月21日、仙台市青葉区木町通一丁目8番28号 武山興産株式会社代表取締役武山忠勝氏より、仙台市教育長宛に当該地での共同住宅建設に関わる「開発行為事前協議願書」が提出されたことに起因する。

当該地は南小泉遺跡として周知されている遺跡の範囲内にあったため、当市教育委員会の埋蔵文化財担当課である文化財課との協議も行なわれ、

(1)当該地の発掘届を提出すること、(2)工事着手前に発掘調査を実施すること、(3)調査は仙台市教育委員会が実施すること、(4)調査に要した費用は開発者側の負担とすること、(4)調査の詳細について追って協議すること、を条件に事前協議が成立した。

発掘届は、1989年10月12日に当市教育長宛に提出されており、この時点で、調査を1991年4月以降とすることが申請者と当市教育委員会との間すでに確認されていた。

この間に、当教育委員会は、地下に埋設する給排水管の設置については、極力地下構造を損なう面積を減ずるように設計段階で検討することを申し入れ、開発者側の了承が得られた。これにより、発掘調査は、建物部分を主たる調査区とし、北側の受水槽と排水管、擁壁工事部分で掘削が深く及ぶ部分にはサブトレーンチを設定することとした。

調査についての具体的協議は、1991年4月中旬から5月上旬にかけて行ない、調査期間を5月末から9月に決定した。調査地は、敷地面積に占める建設部分の面積が大きく、調査によって生ずる堆土量が膨大であることが想定されるため、表土については重機による掘削と同時に現場外へ搬出し、さらに発生する堆土置場と調査事務所用地として、北側に隣接する畠地約250m<sup>2</sup>を借地することとした。

仙台市と開発者との調査委託契約は、1991年4月に締結され、調査期間は報告書の作製を含め、1991年5月から1992年3月とした。この契約に基づき、野外調査は1991年5月27日から開始し、9月25日に終了した。報告書の作製にかかる整理作業は、1991年11月に開始し、1992年3月25日に終了した。

なお、調査期間中の1991年6月26日には仙台市立遠見塚小学校の6年生93名、7月3日には仙台市立若林小学校の6年生90名が現場を訪れ、実際に発掘調査を体験している。また、近年、郡山遺跡で発掘調査を体験している仙台市立郡山中学校の郷土クラブの生徒5名も夏休み期間中の3日間、現場で調査を体験学習している。

また、8月10日には現地説明会を開催し、約140名の市民の参加を得ている。また、説明会終

了後には95名の参加を得て発掘体験を実施した。

## 2. 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（仙台市遺跡登録番号 C-102）
調査名	南小泉遺跡第21次発掘調査
調査地点	仙台市若林区遠見塚一丁目46地内
対象面積	1,884m <sup>2</sup>
調査面積	1,100m <sup>2</sup>
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課
担当職員	金森安孝・工藤信一郎・稻葉俊一・神成浩志（遺物整理のみ）
調査期間	1991年5月27日～1991年9月25日
整理期間	1991年11月18日～1992年3月25日
調査参加者	足立信一・伊勢みつ・伊藤貞子・伊藤晋也・伊藤照雄・伊藤はるよ・遠藤智恵・岡安唯一・小島登喜子・小沼佳代子・川村秋子・菊地つね子・熊容久美子・佐々木直子・佐藤愛子・佐藤みのり・佐藤よし子・宍戸良子・七宮清・菅井百合子・関口國生・鳥羽きみえ・永沢幸枝・服部美智子・日比野園子・洞口れい子・本田孝・峯岸安好・宮沢晴美・武藏美代子・山田沢子・吉田アキヨ・吉田りつ子・渡辺純子
整理参加者	赤井沢千代子・尾形陽子・小松愛・小佐野章子・菅家輝美子・佐藤栄子・佐藤裕子・津島久子・増田瑞枝（調査参加者で重複する者を除く）
調査協力	小沢長五郎

## II. 遺跡の環境

### 1. 遺跡の位置と地理的環境

南小泉遺跡が位置する仙台市東部は、幅が約10kmに及ぶ「宮城野海岸平野」が、北は宮城郡七ヶ浜町から南は亘理郡山元町まで40kmにわたって三日月形に広がっている。この沖積平野



(国土地理院1/25,000「仙台東北部」より調整)

No.	遺跡名	種別	立地	年代	No.	遺跡名	種別	立地	年代
1	南小泉遺跡	集落・砦	自然堤防	古墳・古墳・古墳・平安・近世	15	飯 落 古 墓	円 墳	神 権 平 野	古墳
2	造見原古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	16	今 犬 遺跡	集落・館	自然堤防	弥生・古墳・奈良～近世
3	若林城跡	古墳・城館	自然堤防	古墳・中世～近世	17	高 田 遺跡	聚落・水門	自然堤防	縄文・弥生・平安～江戸
4	仙台東郊条里	条 里	冲積 平野	奈良?	18	日 田 館 遺跡	城 館	自然堤防	古墳(中期)
5	勝林四分寺跡	寺 院	冲積 平野	奈良・平安	19	仙 内 大 岩 山 古 墓	円 墳	自然堤防	古墳
6	津美里分山小跡	寺 院	冲積 平野	奈良・平安	20	北 日 田 遺跡	城	自然堤防	縄文・弥生・奈良～近世
7	中在家東遺跡	河 川 隅	冲積 平野	弥生・古墳・平安～近世	21	郡 山 遺跡	官 衛・台地	自然堤防	縄文・弥生・古墳～近世
8	押 田 遺跡	河 川 隅	冲積 平野	弥生・古墳・平安～近世	22	白 金 古 墓 遺跡	古 墓	自然堤防	弥生・古墳
9	法領塚古墳	古 墓	冲積 平野	古墳(後)	23	大野田古墳群	円 墳	自然堤防	古墳
10	吉 稲 園 遺跡	居住・集落	冲積 平野	弥生・古墳・江戸	24	富 宮 遺跡	水 閘・包 壁	後 作 面 地	田石器・唐文・弥生～近世
11	朝 塚 古 墓	古 墓	現	冲積 平野	古墳	25	大 井 伸 滝 機	穴	丘陵斜面 古墳(後)
12	沖 野 城 遺跡	城	自然堤防	中世	26	西 山 滝 機	機	丘陵斜面	古墳(後)
13	神 雷 遺跡	官 衛・包含式	自然堤防	縄文・弥生・古墳・平安・平安	27	茂ヶ崎城跡	城 館	丘陵	中世
14	藤 田 新 田 遺跡	集落・水田	海	弥生・古墳・平安	28	金 司 八 堀 古 墓	円 墳	自然堤防	古墳(後)
					29	下 田 遺跡	集落・古墳	丘 壁	縄文～平安

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

は、奥羽山脈に水源を発する七北田川・名取川・阿武隈川の運搬物によって形成され、流域には、扇状地・自然堤防・後背湿地・旧河道など沖積地特有の地形を形成している。また、沿岸部には、幅2kmにわたって4列の浜堤が形成されている。

「宮城野海岸平野」の形成層は、上部から順に深沼層（層厚0～5m…砂丘堆積層）・霞ノ目層（層厚1～5m…氾濫原堆積層）・福田町層（層厚0.5～10m…湖沼・湿地堆積層）・岩切層（層厚10～30m…浅海堆積層）から成っている。沖積地も近年急速に都市化が進んでいるが、段丘地帯と対照的に水田や畑地が今が多く残された、近郊農業地帯を形成している。

南小泉遺跡は、下町段丘の東端から1.5kmほど東の「宮城野海岸平野」中央西寄りに発達した広範な自然堤防上に立地している。沖積平野の内陸部では、霞ノ目層が表層と成っており、本遺跡はその上部に形成されている。標高は10m前後で、遺跡の立地する自然堤防の北・東・南の3方向には、後背湿地が広がっている。遺跡は、東西1.5km・南北0.9kmの広さで、住宅地が大部分を占めており、残っている水田や畑地も急速に宅地化されてきている。

## 2. 周辺の遺跡と歴史的環境

南小泉遺跡の発見の契機は、昭和14年から16年にかけての霞ノ目飛行場拡張工事に際し、弥生時代及び古墳時代の多くの遺構・遺物が出土して以来、仙台市の弥生時代・古墳時代を代表する遺跡として知られている。遺跡の本格的調査は、昭和52年の範囲確認調査に始まり、以来21次を数える発掘調査が実施されている。

これまでの発掘調査地点とその調査概要は、第2図と第1表に示した通りで、遺物は、弥生時代前期以降、近世までの各時期、各種出土しているが、弥生時代の遺構としては、昭和14年から16年にかけての霞ノ目飛行場拡張工事の際に、15基以上の合口土器棺の検出と、12次調査で溝1条が検出されているに過ぎなかった。また、南小泉遺跡周辺の広瀬川北岸の沖積地には、藤田新田遺跡と共に隣接する下飯田遺跡、そして、中在家南遺跡、高田遺跡などの遺跡がある。藤田新田遺跡は、弥生時代から平安時代にかけての遺物が出土しており、古墳時代前期と平安時代の集落跡が見つかっている。また、下飯田遺跡からは、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落跡が発見されており、その連続性が認められている。中在家南遺跡は、自然堤防と旧河道にわたって形成しており、自然堤防上からは中期の土壙墓4基と土器棺墓1基が検出され、旧河道からは弥生時代中期から中世に至る各時期の農具等の木製品が出土している。また、高田遺跡からは、弥生時代の遺物包含層が確認され、河川跡から多量の弥生時代の土器・石器・木製品が出土している。

南小泉遺跡は、古墳時代の集落遺跡として、前期末ないし中期初頭に位置付けられ、遺跡内

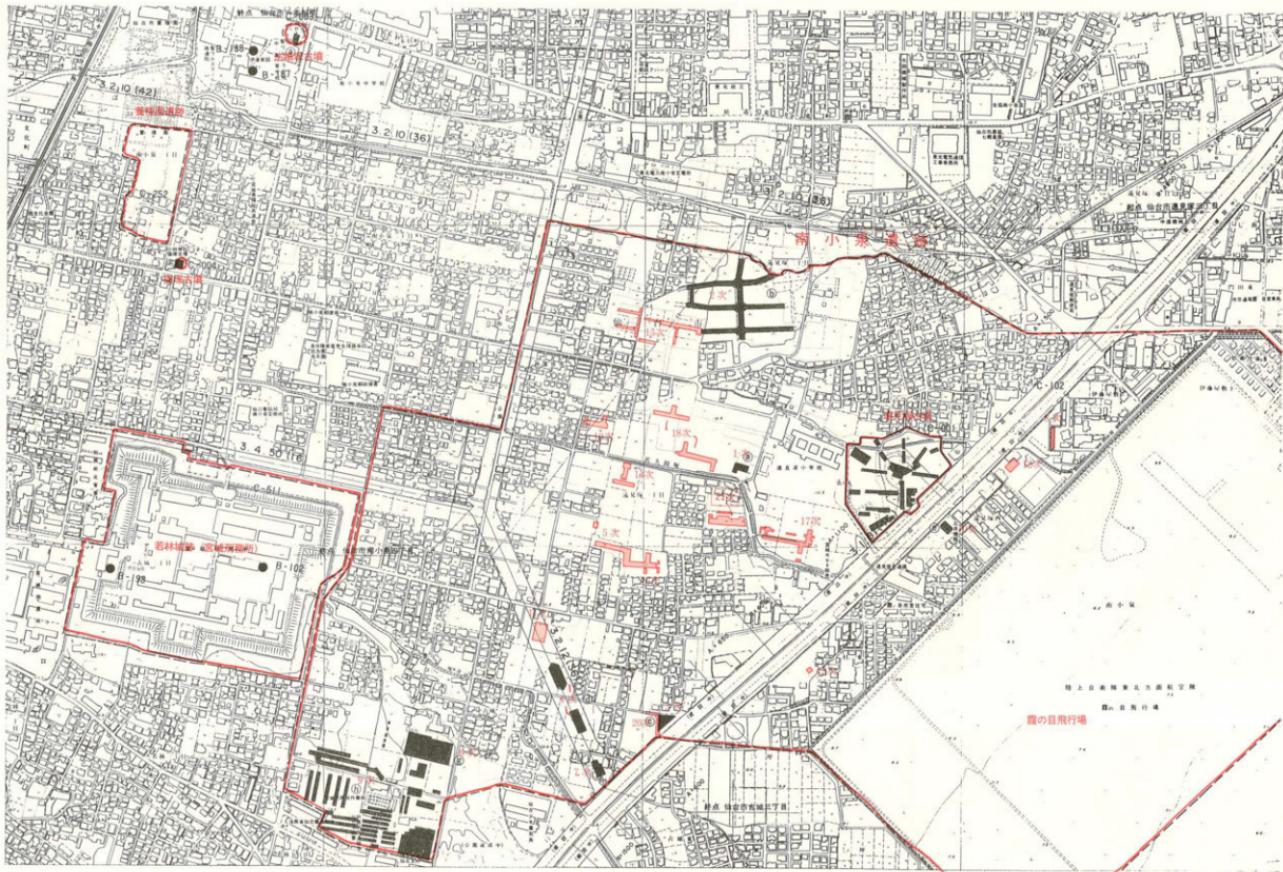
第1表 南小泉遺跡次別調査成果一覧表

調査次別(調査年)	遺構時期	検出遺跡	出土遺物	文献
(昭和14年～16年) 東北隅の井戸跡は不明	赤生時代中期 古墳時代	住居跡？ 古代土管柱(15基以上)。 住居跡。	赤生土器(楕円形底式)。石器(石斧・石ノミ・石臼等)。石鏡、石刀、多頭・石斧・石鎌・鉄石・鍛錆・石竹)。土師器(埴輪式・南小泉式)。石製機造品。	1
第1次(昭和35年)	平安時代 不明	溝状遺構。 小規模遺構。	赤生土器(楕円形底式)。土師器(南小泉式・貴移ノ入式)。須恵器。瓦冠蓋。瓦。石器(削片)。石製品。石製機造品。漆製品。	2
第2次(昭和35年)	平安時代	——	赤生土器。土師器(南小泉式)。須恵器。	3
第3次(昭和35年)	平安時代	住居跡(1軒)。	土師器(楕円形ノ入式)。須恵器。	4
第4次(昭和56年)	古墳時代中期	住居跡(5軒)。上机。上坑状遺構。 梯状遺構。溝跡。	赤生土器(人足式・十三塚式)。土師器(南小泉式・貴移ノ入式)。瓦 底式。陶器(中・近世)。瓦(古代)。上型品(十五、頭口等)。石器(石鏡、スクリューバイオード)。石製品(貴玉、小玉、鉢形器、砥石、鏡等)。石製機造品。鐵製品(鋸、刀子、鏃、劍等)。網目型(中型鏡)。	5
	平安時代中期 中世	住居跡(10軒)。土坑。溝跡。 梯状柱建物跡(4軒)。上机。	——	6
	不 明	溝跡。ビット。	——	7
第5次(昭和56年)	不 明	壁穴状遺構。土坑。溝跡。	土師器(南小泉式・貴移式・貴移ノ入式)。	8
第6次(昭和56 ～57年)	平安時代以前 平安時代	溝跡。 住居跡(2軒)。梯状柱建物跡(1軒)。 土坑。	赤生土器(大堀式)。土器器(南小泉式・御園式・口分舟下型式・貴移 ノ入式・墨書き土器合)。赤燒土器。須恵器。上型品(十五)。陶器(中 世・近世)。瓦(古代)。上型品(十五玉等)。石製品(石臼等)。石器(石鏡等)。鐵製品(鋸、刀子、鏃等)。網目型(六瓣等)。網目型(中型鏡)。	9
	近世 不 明	梯状柱建物跡。土坑。井手跡。溝跡。	——	10
	不 明	梯状柱建物跡。土坑。井手跡。溝跡。	赤生土器(楕円形底式)。土器器(南小泉式・引田式・貴移ノ入式)。須恵器。 陶器(近世)。瓦(古代・近世)。上型品(明口)。石器(石鏡等)。石製品(船形器、石臼等)。鐵製品(鋸、灯、火鉢等)。須恵器(須体)。	11
第7次(昭和52年)	平安時代以前 平安時代	土坑。小切状遺構。溝跡。 作居跡(2軒)。上机。燃焼不明遺構。 ビット。	赤生土器(楕円形底式)。土器器(南小泉式・引田式・貴移ノ入式)。須恵器。 陶器(近世)。瓦(古代)。上型品(明口)。石器(石鏡等)。石製品(船形器、石臼等)。鐵製品(鋸、火鉢、火鉢等)。須恵器(須体)。	12
第8次(昭和52年)	——	土坑。	赤生土器。土師器(南小泉式)。	13
第9次(昭和57年)	平安時代中期 中世	住居跡(5軒)。 梯状柱建物跡？。土坑。溝跡。ビット。	土師器(南小泉式)。須恵器。土器器(土器・活底初期)。瓦(古代)。石製品(石臼、石鉢)。金銀製品(中型鏡)。漆器。	14
	朝鮮～江戸時代 不 明	梯状柱建物跡(2軒)。井手跡。 土坑。溝跡。	——	15
第10次(昭和57年)	古墳時代中期 不 明	作居跡(5軒)。 梯状柱建物跡？。土坑。溝跡。ビット。	赤生土器(楕円形底式・十三塚式)。土師器(南小泉式・御園式・口分舟下型式)。貴 移ノ入式。墨書き土器合)。須恵器。土器器(土器・活底初期)。瓦。土器器(上巻)。瓦(火拂、火鉢、火鉢等)。石製機造品。板鏡。鐵製品(刀子、鉗、鏃等)。網目型(熱、掉葉、中國紋)。青(江戸工)。灰化土。砂 粒粘土。	16
第11次(昭和58年)	古墳時代後期 古墳時代中期 平安時代中期 中世	作居跡(1軒)。梯状柱建物跡(2軒)。土坑。 梯状柱建物跡(3軒)。上机。溝跡。瓦。	赤生土器(楕円形底式)。土師器(南小泉式・引田式・貴移ノ入式)。須恵器。土器器(火 鉢等)。石製品(活底器、石臼等)。土師器(中・近世)。瓦(古代)。上型品(明口)。石器(石鏡等)。石製機造品。板鏡。鐵製品(刀子、 鉗、鏃等)。網目型(熱、掉葉、中國紋)。青(江戸工)。灰化土。砂 粒粘土。	17
	朝鮮～江戸時代 不 明	土食器。土坑。溝跡。	——	18
第12次(昭和59年)	生糞時代中期 古墳時代中期 奈良時代中期 不 明	梯状柱建物跡？。土坑。溝跡。ビット。 住居跡(1軒)。土坑。溝跡。ビット。 井手跡。ビット。	赤生土器(楕円形底式)。天王山式(併行)。土師器(南小泉式・御園式・口分舟下型式)。須 恵器。陶器器(中世・近世)。瓦(近世)。上型品(明口)。土器器(火拂、火鉢、火鉢等)。石製品(石臼等)。鐵製品(刀子、 鉗、鏃等)。網目型(熱、掉葉、中國紋)。青(江戸工)。灰化土。砂 粒粘土。	19
	古墳時代中期 奈良時代中期 不 明	梯状柱建物跡(1軒)。溝跡。	土師器(南小泉式)。須恵器。石器(削片)。石製機造品。鐵製 品(鐵)。須器。	20
第13次(昭和59年)	古墳時代中期 不 明	住居跡(1軒)。壁穴(曾々あり)。溝跡。	土師器(南小泉式)。須恵器。向風鏡。石器(削片)。石製機造品。鐵製 品(鐵)。須器。	21
第14次(昭和61年)	古墳時代中期 平安時代	住居跡(4軒)。溝跡(4軒)。土坑(3 基)。河川跡(1軒)。	土師器(南小泉式)。須恵器。土器器(土鏡)。石器(石斧・前石)。石器 (砂利磨擦器・石製機造品・磁石)。鐵製品(刀子・鉗)。古鏡。瓦(山瓦、 御正、金箔瓦)。陶器(美濃白陶器・美濃灰釉丸瓦・斑燒鐵製器)。	22
	中 世	住居跡(3軒)。溝跡(1軒)。土坑(3 基)。梯状柱建物跡(1軒)。梯状遺構(3 ヶ所)。	——	23
	近 世	梯状柱建物跡(4軒)。井手跡(2軒)。 土坑(1基)。	——	24
第15次(昭和65年)	古墳時代中期 不 明	住居跡(3軒)。壁穴(1基)。性格不明 遺構(1基)。溝跡(3軒)。	土器器(南小泉式)。須恵器。石製品(砂輪車・石製機造品)。瓦。火拂。 石器(削片)。	25
第16次(昭和65年)	古墳時代中期 中 世	住居跡(9軒)。壁穴(1基)。土坑(5 基)。溝(2基)。 梯状柱建物跡(11軒)。梯状柱建物跡(5 基)。土坑(4基)。土壙(1本)。梯狀跡(1基)。梯狀(1基)。	赤生土器(吉木底式・楕円形底式・十一塚式・天王山式)。土師器(南 小泉式・引田式・貴移ノ入式)。須恵器(吉須ノ平底)。土器器(口 分舟下型式)。石器(石鏡等)。石製品(磁石・前石)。土器器(火拂、火 鉢等)。鐵製品(刀子・鉗)。銅製品(金具・掉葉)。中國鏡。瓦(古代、 近世)。陶器(山茶鏡・耳器鏡・土器質土器器)。乳序(5c代)。漆器 馬齒。骨片。灰化土。	26
	近 世	梯状柱建物跡(1軒)。梯狀跡(1軒)。 土坑(2基)。	——	27

調査次数(調査年)	地盤時期	検出遺構	出土遺物	文献
第17次(昭和63年)	古墳時代中期 中世	住居跡(15軒)。土坑(2基)。 柱立建物跡(3軒)。溝跡(2条)。	縄文土器(人木10式～漆模式)。你生土器(青木丸式・柳形圓式・十二 字式)。土器群(南小泉式～住社式・表杉ノ人式)。無差齒(5cm～半齿)。 土器品(石器・陶器・玉器)。石器(スクレーパー・石斧・石錐・敲打器)。 石製品(石製模造品・管状・石斧・研石・磨石)。鉄製品(剪・刀子)。	17
	近世	柱立建物跡(4軒)。土坑(1基)。溝跡(1基)。	無差齒(金具・費文鏡?)。和製鐵劍(1)。中国瓦。瓦(古代・近世)。陶 器器(瓦質土器・土削土器)。馬頭。唐津(中世～近世)。	
	不明	土坑(7基)。古墳時代中期以前。溝跡(1条)。		
第18次(昭和68年)	新石器時代後期 古墳時代後期	井沢川跡(1条)。 複合段川跡(4条)。	秀生土器(柳形圓式以降・十三字式・天下山式)。土器群(南小泉式～住 社式・分合下垂式～表杉ノ人式)。無差齒(5cm～半齿)。石器群(スクレ ーパー)。石製品(石製模造品・成形鋸切刃)。瓦(古代・近世)。陶 器器(瓦質土器)。	17
	中世	牛耕跡(1軒)。土坑(1基)。溝跡(4 条)。鐵製鋸切刃(2枚)。		
	近世	牛耕跡(1軒)。土坑(2基)。溝 跡(6条)。柱穴(1条)。		
第19次(平成元年)	縄文時代中期 古墳時代中期	台形壠。	縄文土器(大羽A)。土器群(南小泉式・表杉ノ人式)。波浪器。石器 (斜片石器)。石器群(石製模造品)。鐵製品(鍔・釘)。平瓦。陶器器(土 削質土器)。	18
	世 紀	性別不明遺構(2基)。		
	不明	井干跡(1基)。 柱立建物跡(3軒)。Dc 多數。		
第20次(平成2年)	古墳時代前期 平安時代 不明	牛耕跡(1軒)。 住居跡(3軒)。柱立建物跡(1軒)。 斜片石器(1件)。溝跡(7条)。土坑 (6条)。性別不明遺構(1基)。	土器群(塔蓋式・表杉ノ人式)。波浪器。石器(有角石斧・石斧片・石 劍)。鉄製品(矛刃狀・鐵條)。土製品(燒鍊單)。陶器。	19
	平安時代 不明	牛耕跡(7軒)。土坑(3基)。 溝跡(15条)。土坑(4基)。性別不明 遺構(1基)。獨立住社跡(1軒)。 柱穴(1条)。溝穴(3条)。房 跡(1条)。土坑(3条)。溝跡(1条)。	秀生土器(倒卵式)。石器(石器・倒方石器)。土器群(塔蓋式・南 小泉式・住社式・表杉人式)。	
	近世	溝跡(5条)。土坑(5基)。	美濃器(5cm～半齿)。石製品(石製模造品・管 長・小玉)。鐵製品(劍)。中國器。瓦(古代)。陶器器。	20
第21次(平成3年)	古墳時代中期 平安時代 近世	牛耕跡(3軒)。土坑(3基)。 溝跡(15条)。土坑(3条)。溝跡(1条)。	秀生土器(倒卵式)。石器(石器・倒方石器)。土器群(塔蓋式・南 小泉式・住社式・表杉人式)。	
	不明	溝跡(1条)。土坑(3条)。		
	不明	溝跡(1条)。土坑(3条)。		

## 文献

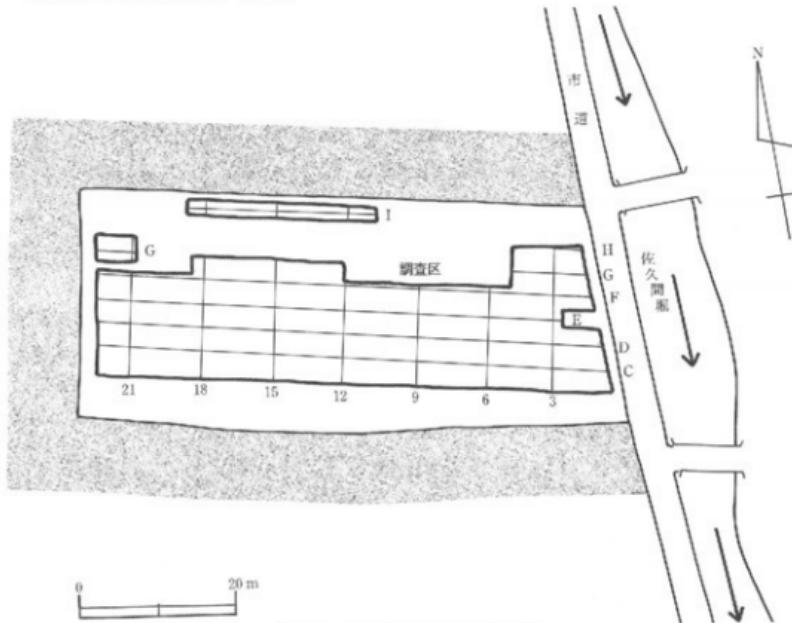
- 伊東信雄「仙台市内の古代遺跡」仙台市史3(昭和25年)
- 仙台市教育委員会 第13集 南小泉遺跡－範囲確認調査報告書一(昭和53年3月)
- 南小泉遺跡調査団 南小泉遺跡発掘調査報告書一(昭和54年3月)
- 仙台市教育委員会 第28集 年報2(昭和56年3月)
- 仙台市教育委員会 第35集 南小泉遺跡--都市計画街路第1次調査報告…(昭和57年3月)
- 仙台市教育委員会 第41集 年報3(昭和57年3月)
- 仙台市教育委員会 第55集 南小泉遺跡--青葉女子学園地内調査報告…(昭和58年3月)
- 仙台市教育委員会 第52集 南小泉遺跡--都市計画街路第2次調査報告…(昭和58年3月)
- 仙台市教育委員会 第57集 年報4(昭和58年3月)
- 宮城県教育委員会 南小泉遺跡(昭和58年3月)
- 仙台市教育委員会 第60集 南小泉遺跡--倉庫建設関係調査報告…(昭和58年3月)
- 仙台市教育委員会 第68集 南小泉遺跡--都市計画街路第3次調査報告…(昭和59年3月)
- 仙台市教育委員会 第80集 南小泉遺跡--第12次発掘調査報告…(昭和60年3月)
- 仙台市教育委員会 第81集 南小泉遺跡--第13次発掘調査報告…(昭和60年3月)
- 仙台市教育委員会 第109集 南小泉遺跡--第14次発掘調査報告…(昭和62年3月)
- 仙台市教育委員会 第131集 南小泉遺跡--第15次発掘調査報告…(平成元年3月)
- 仙台市教育委員会 第140集 南小泉遺跡--第16・17・18次発掘調査報告…(平成2年3月)
- 仙台市教育委員会 第141集 南小泉遺跡--第19次発掘調査報告…(平成2年3月)
- 仙台市教育委員会 第153集 南小泉遺跡--第20次発掘調査報告…(平成3年3月)
- 仙台市教育委員会 第164集 南小泉遺跡--第21次発掘報告…(平成4年3月)



第2図 第21次調査区の位置とこれまでの調査区

には、全長110mを誇る遠見塚古墳、埴輪を有する若林城内古墳、後期の法領塚古墳、猫塚古墳等の古墳がある。しかし、7世紀後半頃から、広瀬川対岸の郡山低地に官衙遺跡とその付属寺院からなる郡山遺跡が造営され、この地も律令政府の直接的支配を受けるようになる。この時期の市内の集落の中心地域は郡山低地に移り、南小泉遺跡での住居跡の減少に対し、郡山低地での多数の住居跡が検出されている。8世紀初頭、郡山遺跡が廃されるのと前後して多賀城が造営されると、南小泉遺跡の北側に近接して隙奥国分寺・同尼寺が建立される。同地区周辺は、隙奥國の中心となり、奈良時代末から平安時代になると南小泉遺跡にも住居跡が再び増加する。また、この時期の遺跡としては、本遺跡に隣接する神棚遺跡があり、硯・鉄滓・多量の須恵器等が出土しており、郡・郷等に関連した施設と考えられる掘立柱建物跡が検出されている。なお、南小泉遺跡の東側には、条里型土地割が認められており、「二ノ坪」・「三ノ坪」・「尼坪」などの地名も残っている。中世の遺跡としては今泉城跡・沖野城跡があり、南小泉遺跡内からもこの頃の掘立柱建物跡や堀跡が検出されている。さらに江戸時代初頭に若林城が築城されると南小泉遺跡の西半部は、同城の城下町としての性格を周辺地域とともに有するようになる。

以上のように、南小泉遺跡は弥生時代以来、広瀬川北岸の中心的遺跡として周辺遺跡と相互に関連し、営まれた遺跡である。



第3図 建設予定地と調査区配置図

### III. 調査方法と基本層位

#### 1. 調査方法

今回の調査地点は、南小泉遺跡のほぼ中央部、遙見塚古墳の西南西200mに位置する地点である。調査地点の現況は、西側が東側に比して0.5mほど高い段差を有する標高11~12m前後の畠地であり、対象面積は1,884m<sup>2</sup>である。この内、共同住宅建設によって掘削を受ける850m<sup>2</sup>と、給排水管・フェンス工事等によって地下に影響を受ける部分100m<sup>2</sup>に調査区を設定した。

表土の排除はバックホーによって行い、遺構の検出作業を行いながら一部調査区を拡張し、最終的には約1,100m<sup>2</sup>を調査した。排土は、ダンプカーによって調査区外に搬出した。

測量の基準は、調査区の南東隅の任意の点を原点(A, 0)とし、調査区を横断する線と、これに直交する線を略南北・東西基準線とした。南北基準線は、磁北から12°20'東に偏している。測量に当たっては、基準線に沿った原点からの距離を北に3m毎にA、B、C、………、西に1、2、3、………で表わし、遺構実測図の造り方に用いた他、基準線で3m方形に区画されるグリッドを遺構外出土遺物の取り上げの単位とした。

#### 2. 基本層位

南小泉遺跡の立地する地域は、これまでの調査では一般的にはシルト質の土壤が主体をなしている。本調査区の堆積状況でもシルト質土壤が調査区全域に分布するが、調査区西側から中央部(D~E・12~20区)にかけては、一部砂礫層が遺構検出面(II層上面)に表出している。調査区の東側は、基準線8ライン付近を境として西側と段差があり、40~60cmほど西側より低くなっている。調査地点における基本層位は次の2層に大別された。

第I層 畑の耕作土からなる表土である。近年まで耕作を受けていた黒褐色粘土質シルトのIa層と、近世の耕作土とみられる灰黄褐色粘土質シルトのIb層からなる。Ia層は調査区全体にほぼ10~30cmの層厚で分布するが、Ib層は調査区の東側(8ラインの東側)で厚く堆積し、5~40cmほどの層厚である。

第II層 10YR5/6 黄褐色砂質シルトの遺構検出面である。調査区の西半部ほど砂質が強くなり、砂礫層中に土師器が集中して出土した範囲は埋没河川跡であった可能性が高い。



第4図 基本層位模式図

## IV. 普及活動

仙台市教育委員会では、遺跡の発掘調査と同時に、市民の共有財産である埋蔵文化財を有効に活用して、文化財に対する理解を深める為に、社会教育並びに学校教育の場を通して、普及・啓発活動に努めてきた。

今回の調査は、南小泉遺跡において21次を数える調査であるが、今後とも本遺跡内において開発行為に伴う発掘調査が予想されており、地域住民・一般市民の文化財への理解と協力が求められている。そこで、今回は学校教育との連携という観点も踏まえ、本遺跡内に隣接する遠見塚小学校・若林小学校の6年生を対象とした発掘体験学習と、仙台市教育委員会としては初めての試みである、一般市民対象の発掘体験を現地説明会の後に行った。

### 1. 現地説明会並びに発掘体験（一般市民対象）

今回の現地説明会は、一般市民対象の発掘体験企画が新聞等で大きく取り上げられたこともあり、約140名の参加者があった。特に、当日は発掘体験の問い合わせの電話が朝から殺到し、親子連れで多数参加したことが特徴的であった。

現地説明会は、初めに担当調査員から調査経過の概略・遺構・遺物等の説明を行い、それと同時に調査事務所内において、土器洗い・ネーミング・接合等の作業を見学し、発掘調査後の遺物整理作業についても理解してもらえるように努めた。約1時間にわたる現地説明会終了後、引き続き発掘体験を行った。

発掘体験は、調査区の東側のSD-7溝跡で実施した。参加人数は、当初20名程度を予定していたが、新聞等での報道もあり、最終的には100名近い人数に上った。実施方法は、道具・場所の制約から屋外の班と調査事務所内班の2班に分け、2つの班をローテーションしながら行なつた。屋外では、更に、遺構検出（草けずりを使う）と遺構の掘り下げ（移植べらを使う）の2班に分けて行い、土器等の遺物を取り上げるだけでなく、野外調査の一連の作業を体験、理解してもらうように努めた。また、その際に郡山中学校の郷土クラブの生徒にも参加してもらい、道具の使い方等の説明に協力してもらった。なお、郡山中学校の郷土クラブの生徒は、夏休み中に本調査区において、発掘体験および本遺跡についての学習をしている。調査事務所内では、遠見塚古墳と南小泉遺跡のこれまでの調査結果や土器・窯穴住居など考古学に関する一般的知識、および整理作業についてもわかりやすく調査員が説明した。時間は、各々約20分程度の短い時間であったが、ほとんどの参加者が初めての発掘調査であり、初めて土器に触れたことに大変感動していたようであった。

今回の試みは、一般市民の方々に発掘調査の仕事を実際に体験してもらい、埋蔵文化財への理解と関心を深めてもらうことをねらいとした。今回、そのねらいは多くの市民に参加してもらったことで、少なからず達成できたのではないかと考える。しかし、発掘体験の実施に当たっては、以下のような反省点があった。

- ① 参加人数の問題（参加者が20名を超えると2～3名の調査員では、指導・管理が十分に行えない。）
- ② 作業時間の問題（諸注意などを行なうと、20分程度の短い時間では、十分な作業が行えない。）
- ③ 安全面での考慮（事故が起きた場合の保険や家族への連絡方法等についての準備が不十分であった。）

今後は、以上の反省を踏まえ、市民対象の発掘体験という企画を現地説明会で検討していくたい。

## 2. 体験学習（学校教育関係対象）

今回は、一般市民を対象とした活動のほかに、学校教育との連携を重視した活動として、社会科教育・郷土学習の一環としての埋蔵文化財の活用を働きかけた。その結果、6月26日に遠見塚小学校・7月3日に若林小学校両校の6年生を対象に体験学習を実施した。なお、体験学習を行う前には、学習効果が上がるよう事前指導（若林小学校）を行い、その後、調査結果を踏まえ事後指導（遠見塚小学校）を行った。

事前指導では、調査員が仙台市内から出土した各時期の遺物や各遺跡のスライド、発掘調査器材を持ち込み、約2時間にわたり仙台市内の遺跡の概要や発掘方法、道具の使い方、調査に当たっての諸注意などの話をした。

体験学習当日は、調査区西側から中央部にかけてのSD-2溝跡で実施した。両校とも約100名近い児童が対象であるため、調査事務所と屋外の2つのグループ（各々約50名程度）に分け、2つのグループをローテーションしながら行なった。調査事務所内では、南小泉遺跡から出土した土器に直接触れてもらいながら、これまでの調査結果について説明をした。また、本遺跡のある若林区内の町名の由来なども説明し、古代の歴史に限らず、地域の歴史学習として児童に分かりやすいように努めた。屋外では、再度、道具の使い方や諸注意を話した後、さっそく作業に移った。当初は、掘る人と土を集め人に分かれて、各々交替する予定であったが、場所に余裕があったことや道具も十分足りたことから、児童一人で全て行うことになった。その結果、20分という短い時間であったが、体験学習に参加したほとんどの児童は初めての経験にも

かかわらず、集中して作業を行ない、数多くの遺物を見つけることができた。また、単に遺物を見つけることに一喜一憂するだけでなく、遺物を取り上げる際には細心の注意を払いながら慎重に作業を行うことも学習した。

事後指導では、豎穴住居と体験学習を行ったSD-2溝跡から出土した遺物を実際に提示し、スライドを使いながら調査結果について説明した。その後、平成3年度の仙台市内の遺跡紹介ビデオを使い、他の遺跡の調査結果についての話をした。

また、今回の活動では体験学習のほかに、三条中学校から土器の貸し出しの申し入れがあり、同校の1、2年生を対象に本遺跡から出土した土器を使った社会科の授業が行われた。その結果、授業を担当した教師からは、「実物を使った授業は、生徒に興味関心を持たせるのに有効であった」という評価と、「今後も授業で使いたい」という要望があった。

今回の体験学習を振り返ると、「また、機会があれば発掘したい」・「もっと昔のことを勉強したい」という感想を持った児童が多かった。このことから多くの児童が、体験学習を通して、文化財への興味・関心を少なからず持ってくれたのではないかと考える。しかし、準備段階での時間不足や作業時間の制約など、今後検討していかなければならない問題点もあった。今後はこれらの問題点を改め、多くの方々の理解と協力のもとに、更に学校教育と連携を図り、多くの児童・生徒が文化財への興味・関心を高め、郷土の歴史を身近に感じられる活動を広く定着させていきたい。

### 3. まとめ

以上のように今回の調査では、一般市民ならび学校教育を対象に積極的な普及活動を行った。特に今回は、発掘調査を実際に体験してもらうことを重点に取り組み、その結果、多くの方々に文化財への興味・関心を持っていただいたと考える。このことは、「体験」することの有効性ならび重要性を我々に感じさせてくれた。今後は、更に問題点を改め、多くの方々に文化財を理解していただける体験的な活動の充実を図っていきたい。

第2表 普及活動の記録

## V. 発見遺構と出土遺物

第21次調査では、掘立柱建物跡1棟・柱穴列1列・溝跡22条・竪穴住居跡7軒・竪穴遺構3基・土坑16基・その他の遺構1基・ピットを検出した。

出土した遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦、土製品、古銭、金属製品、石製品、石器、自然遺物がある。

掘立柱建物跡は、調査区の北東部で一部を検出した。出土遺物はないが、龍泉窯系の青磁片（J 1・3）を出土する SI-1 竪穴遺構に切られている。

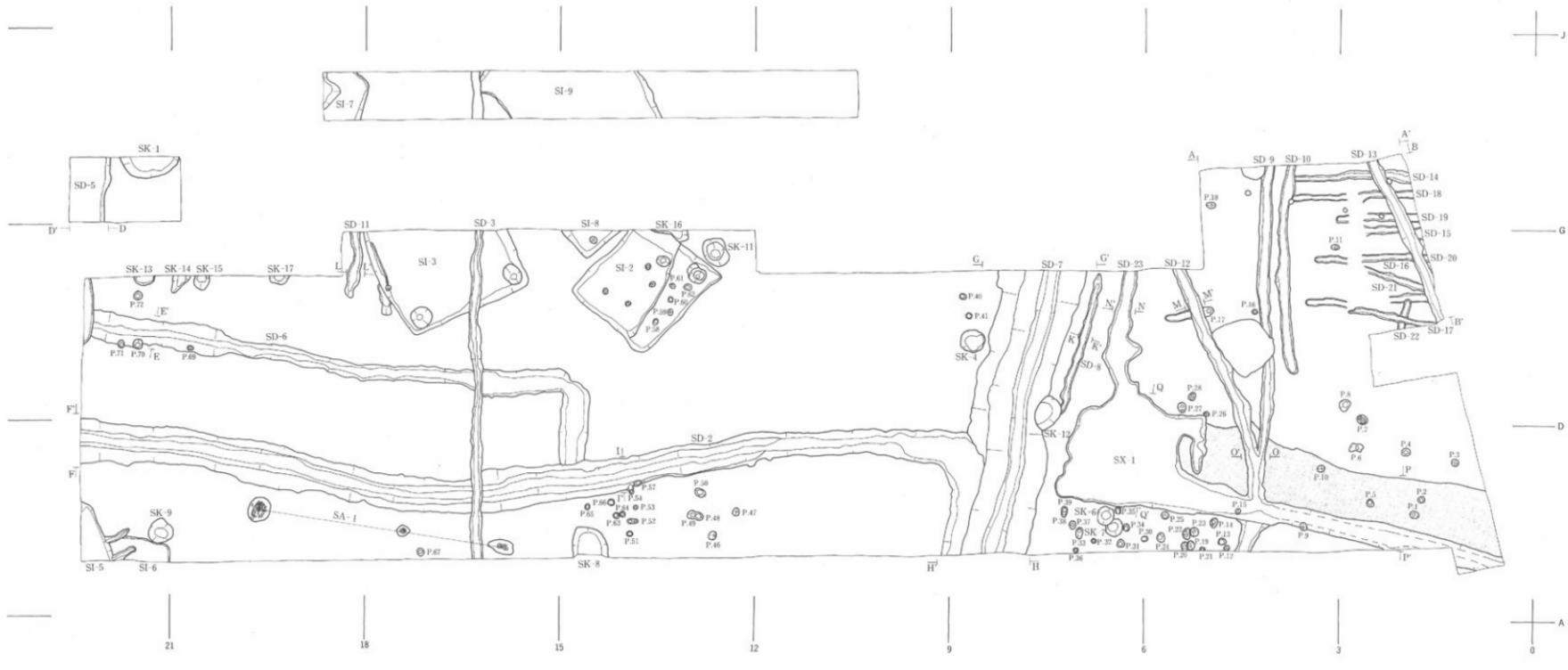
SI-4 からも、龍泉窯系の青磁片（J 11）を出土しており、これらは13世紀の遺構であろう。柱穴列は、調査区南西部で河原石を詰め込んだ柱穴3基の柱列を検出したが、柱間が不定で間隔も広く、建物となるか、塀などの遮蔽施設となるかは不明である。西1柱穴から出土した高台付鉢（I-11）は、器壁が厚く、高台の断面も長方形を呈し、常滑産で第II段階後半、13世紀前半の特徴を有している。同時に出土した甕（I-12）は、体部にタタキ目を有し、白石窯系の製品で13～14世紀とみられる。在地産とみられる甕（I-13・14）も出土している。

検出した溝跡を規模でみると、SD-2・6・7・23が深さ、長さともに大きく、SD-9・10・12・13 がそれに続き、その他の溝跡は幅も狭く、浅く、長さも短いものである。

SD 7 溝跡は、調査区を南北に流れ、東西に段差を付けて区画する。断面形が V 字形で、今回調査で検出した中で最大規模の溝である。12～13世紀の常滑産の甕（I-9）と、溝の肩部出土の13～14世紀の白石窯系の甕（I-10）が一緒に出土しており、口径の広い灰釉陶器長頸瓶（I-17）も出土している。

溝跡の変遷は、遺構の重複からは、SD-6 が最も古く、内黒処理を施したロクロ土師器壺（D-2）を出土している。この溝跡を切る SD-2 からは、多くの遺物を出土しているが、ロクロ土師器の高台付壺を出土しているのが特徴である。SD 6 も SD 2 も、東流した後に南流しており、平安期の区画溝とみられる。SD-6 は、東側で溝が途切れしており、区画内への進入口の可能性がある。SD-2 の屈曲部付近からは馬齒を出土しており。区画内を「屋敷地」とみると「鬼門」の方角に当たり、宗教的な遺棄かもしれない。SD-2 以南の区画内では、明瞭な基本層（II層）を検出せず、整地や盛り土された可能性が強く、土師器などの出土も多い。

調査区東部、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した溝跡 SD-9・10・12・13・23 は、いずれも南北方向で、堆積土1層に灰白色火山灰が混入しており、ロクロ土師器を出土する。SD-23 は、南西角で東に直角に屈曲し、区画溝であろう。SD-9・12 と、SX-1 性格不明遺構の下流で合流する。SX-1 は、堆積状況から SD-9・12・23 が埋没以降も湿地として残っていたものとみられる。



第5図 調査区遺構配置図(1)

これらの溝に切られる SD-14・15・16・17 は、幾分北偏する東西方向のやや深い小溝状遺構である。また、この小溝群よりも古い SD-18・19・20・21 は、東西方向の浅い小溝状遺構である。出土遺物はないが、古代の遺構であろう。

SI-10 壁穴遺構は、これら的小溝群に切られる古墳時代の遺構である。出土遺物に須恵器がある。

7軒の壁穴住居跡は、いずれも古墳時代中期南小泉式期から引田・住社式期にかけての住居で、調査区西側にまとまって検出したが、重複関係の認められたのは2軒だけである。SI-5が SI-6 よりも新しい。

SI-2 には燎の痕跡があり、SI-5 には新旧 2 本の煙道が残る。いずれも東壁中央に設けられている。SI-3・9 は、西壁に焼土の集中する部分があって、燎の存在した可能性もある。

SI-2・3 からは大量の土師器を出土している。いずれも完形となる遺物は少なく、住居廃絶の時期に投棄したものとみられる。SI-2 からは、石製模造品の出土が多く、壺の出土がない。SI-3 からは高壺の出土が多いのが特徴である。

SI-7 からは、赤彩された土師器壺を出土している。

土坑では、SK-1・4・8・9・15 から土師器を出土しており、古墳時代の遺構である。SK-16 からはロクロ土師器を出土している。SK-5 からは、磁器片 (J-5) を出土し、江戸時代の遺構である。SK-3 は、I b 層下部からの掘り込みで、江戸時代以後の遺構である。

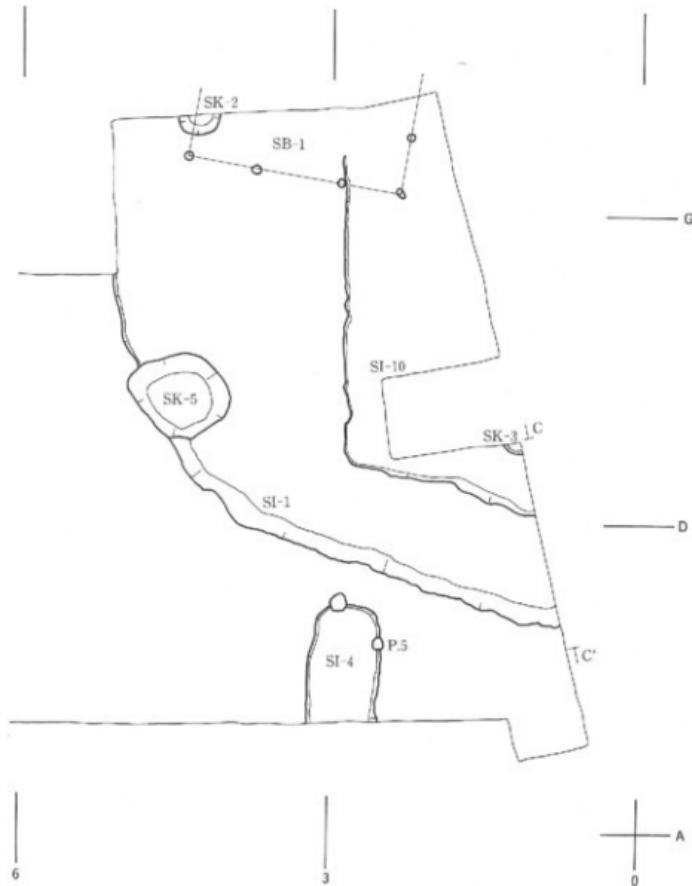
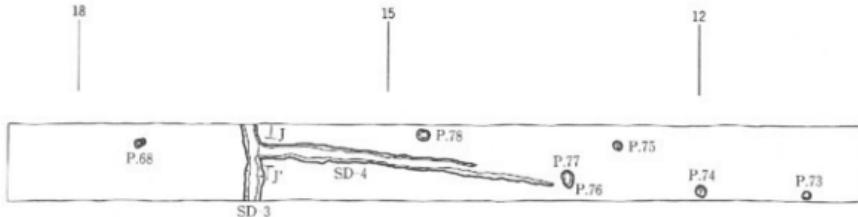
## 1. 表土層の出土遺物

現代の耕作土である I a 層、および近世の耕作土である I b 層から、次の各種の遺物が出土している。

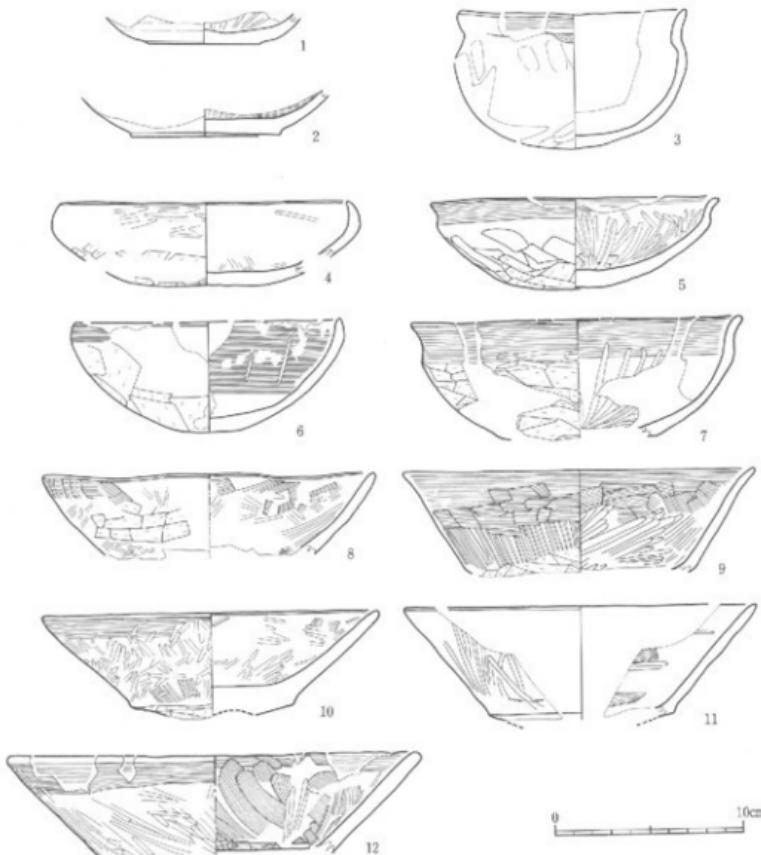
弥生土器は、甕 (B-24・30・59・72・81・86・94)、壺 (B-17・18・22・29・31・71・73・75)、鉢 (B-32・61・77・78・87・92)、蓋 (B-19・46) の23点が出土し、特に SK-9 土坑周辺から多く出土している。

土師器は、非ロクロの壺 (C-7・27・107~109・110)、高壺 (C-78・85・93・103・104・106・111~113)、甕 (C-76・77・83・90・102)、瓶 (C-105)、ロクロ使用の壺 (D-8・13・20) の計24点が出土している。特に、調査区西側 SD-2 溝跡と SD-6 溝跡にはさまれた地区と、調査区中央 SD-2 溝跡南側、II 層上面で多く出土している。

その他、須恵器は甕 (E-10) と甕 (E-8) があり、平瓦 (G-7・9・10)、陶器 (I-1・3・5・6・15)、磁器 (J-4・12)、石製模造品 (K-30・34~36・38・49)、石錠 (K-31) が出土している。

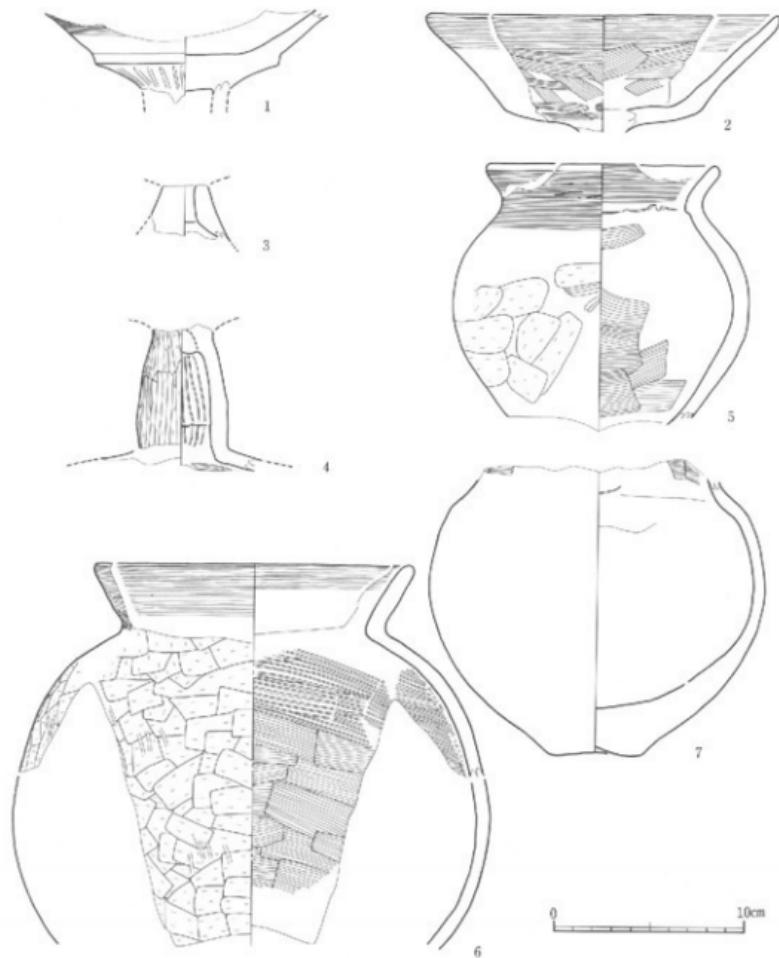


第6図 調査区遺構配置図(2)



第7図 表土層出土遺物実測図(1)

図号	発見場所	地 区	外 周 長 度			内 部 評 価			法 業 (cm)		保存状況	整備状況	可視範囲
			口 端 離	底 面	底 壁	口 端 部	体 部	底 部	口 径	厚 度			
1	土砂堆	坪	F-13+14区	—	ロクロナゲ 直筋形凹り	—	ミガキ シガキ	—	1.65~ (5.8)	1/4	D-8	—	
2	土砂堆	坪	SD-2上側	—	ロクロリゲ 直筋形凹り	—	ロクロナゲ ヘラミガキ 黒色処理	—	2.4~ (7.8)	標準2/3	D-13	—	
3	土砂堆	坪	D-22区	ココナゲ ナツ	ナツ （磨滅しており不規則）	—	—	—	—	1/2	C-110	—	
4	土砂堆	坪	D-19+16区	ミガキ	ヘラケツリ ヘラツリズ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	12.0 6.4	—	1/4	C-107	89-13
5	土砂堆	坪	D-31区	ロコナゲ	ケヅリ ケヌヌ	ロコナゲ	ケヅリ-ミガキ ケヅリ-ミガキ	ミガキ	15.7 4.9~	—	口端部 二重底	C-7	—
6	土砂堆	坪	B-19+39区	高砂利混 高砂利混	黑色處理 黑色處理	—	ロコナゲ-ミガキ	—	—	1/2	C-108	69-14	
7	土砂堆	坪	B-19+20区	ロコナゲ-ミガキ	ヘラケツリ	—	ロコナゲ-ミガキ ヘラケツリ	ミガキ	17.0 6.3~	—	1/5	C-129	69-16
8	土砂堆	高砂	C-11区	ロコナゲ-ミガキ	ヘラケツリ	—	ヘラケツリ-ミガキ ヘラケツリ	ミガキ	17.0 4.5~	—	頭部	C-104	69-15
9	土砂堆	西坪	—	ミガキ	ミガキ	—	ヘラケツリ-ミガキ ヘラケツリ	ミガキ	—	—	坪部	C-103	69-17
10	土砂堆	西坪	D-22区	ロコナゲ-ミガキ	ヘラケツリ	ヘラケツリ-ミガキ ヘラケツリ	ヘラケツリ-ミガキ ヘラケツリ-ミガキ	ミガキ	17.8 5.6~	—	平均的	C-75	69-19
11	土砂堆	西坪	H-15区	ミガキ	—	—	ヘラケツリ-ミガキ ヘラケツリ-ミガキ	ミガキ	17.6 5.0~	—	頭部	C-113	—
12	土砂堆	高坪	D-22区	ロコナゲ	ミガキ	—	ロコナゲ-ミガキ ロコナゲ-ミガキ	ミガキ	22.6 5.7	—	坪部	C-111	69-18



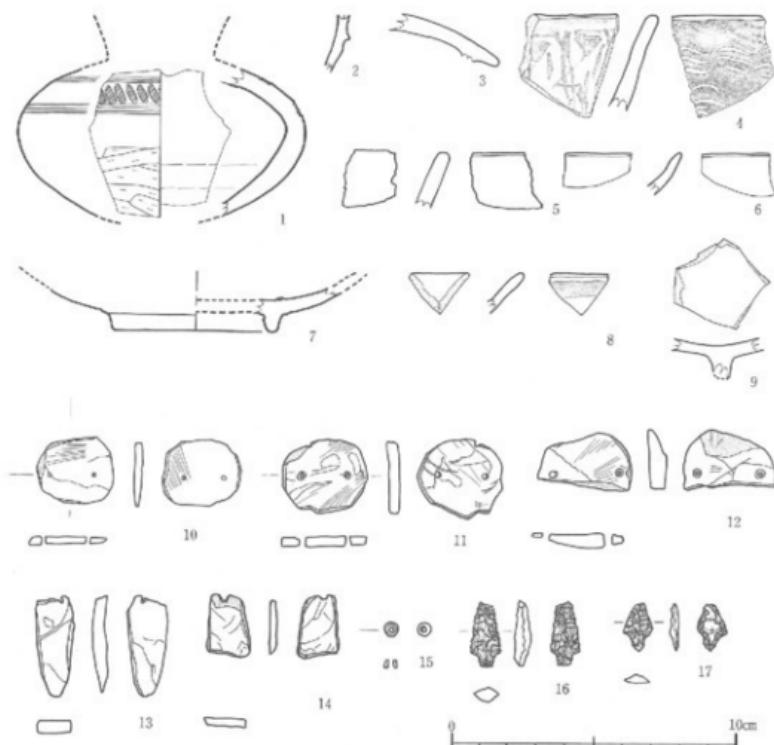
物種 名別	種類	地 区	内 部 調 査				外 部 調 査				径 量 (cm)	深 さ	半 幅 率 (%)	半 周 率 (%)
			口 縁 部	体 部	附 着	口 縁 部	体 部	底 部	口 縁 部	底 部				
1. 土器類 高井	D-21 区	—	ココナデ	ヘラナデ	—	—	ココナデ	ヘラナデ	—	—	4.7~	—	底部1/3	C-93 60-20
2. 土器類 高井	SD-2 台面	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	0.23	6.2~	—	C-95 —
3. 土器類 高井	C-D-2-B-13 区	（断滅により不明）	（断滅により不明）	（断滅により不明）	（断滅により不明）	（断滅により不明）	（断滅により不明）	（断滅により不明）	（断滅により不明）	（断滅により不明）	3.1~	—	—	—
4. 土器類 高井	IV区 D-21 区	ヘラナデ	ヘラナデ	リサナデ	ヘラナデ	リサナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	7.8~	—	—	C-116 69-21
5. 土器類 小堀	SD-2 台面	ヨコナデ	ヘラナデ	リサナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	リサナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	リサナデ	12.32	14.2~	—	C-93 79-7
6. 土器類 便	D-22 区	リサナデ	リサナデ	ヘラナデ	リサナデ	リサナデ	ヘラナデ	リサナデ	リサナデ	ヘラナデ	16.33	26.3~	—	1/4 C-90 29-2
7. 土器類 便	B-18-19 区	（断ヘラナデ断面に15mm）	—	（断ヘラナデ断面に15mm）	—	（断ヘラナデ断面に15mm）	—	（断ヘラナデ断面に15mm）	（断ヘラナデ断面に15mm）	（断ヘラナデ断面に15mm）	—	14.6~	4.60	1/2 C-77 29-3

第8図 表土層出土遺物実測図(2)



第9図 表土層出土遺物実測図(3)

留 標 記	種 別	基形	地 区	外 面 調 査			内 面 調 査			寸 法 (cm)	口 径 幅 度 高 さ 色 様	残 存 状 況	登 録 番 号	写 真 番 号
				口 縁 部	体 部	底 部	口 縁 部	体 部	底 部					
1 北原石 裏	SK-4上	ココナデ	SK-4上	ココナデ	ヘラナデ	ココナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	18.8	25.2	36.6	留標2-1	C-102 10-7
2 北原石 裏	C-15区	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	—	33.0~	39.1	1/3	C-26 10-24
3 土砂砂	裏	C-11区	ミガキヘラナ	ミガキヘラナ	ミガキヘラナ	ミガキ	ヘラナ	ヘラナ	ヘラナ	24.2	24.0~	38.0	1/4	C-105 10-1



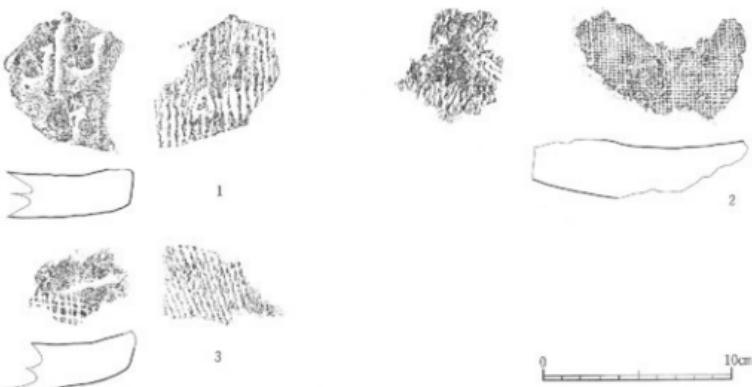
番号	種別	器形	地 区	外 周 長 度			内 周 長 度			通量(cm)	残存	新規%	参考
				口縫幅	体 部	底 細	口縫幅	体 部	底 細				
1	石器	鋸	E-P-16 区	—	—	—	口縫幅	体 部	底 細	口縫幅 最大径 5.15	5.3~	—	E-10
2	石器	鋸	E-6 区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	E-8

番号	種別	器形	地 区	口径	底径	高さ	色 調	特 徴	產地	年代	新規%	備考	写真図版	
3	陶器	鉢	C-D-16 区	—	—	—	Y-SV7/1 黄褐色 5-X-1/100 オリーブ	—	相馬?	—	1-15	73-1		
4	陶器	鉢	E-8・9 区	—	—	—	10Y-2/オーライグ	—	相馬?	—	1-1	73-10		
5	陶器	丸付	E-8・9 区	—	—	—	10Y-2/1 黒褐色	—	唐津系?	—	1-6	73-3		
6	陶器	天目碗	E-8・9 区	—	—	—	5YR2/1 黑褐色	—	?	—	1-3	73-2		
7	陶器	鉢	D-11・12 区	—	—	—	2.5-Y-9/1 黄白色	豆青色等多色有	豆青色等多色有	—	—	—	73-6	
8	磁器	碗	C-D-5・6 区	—	—	—	10Y-2/オーライグ	—	相馬系	—	1-5	73-4		
9	磁器	皿	F-13・14 区	—	—	—	7.5Y-2/1 オーライグ	高台内無施	—	—	1-12	73-4		

番号	種別	器形	地 区	調 整	接 線 (cm)			石 材	残 存	登録No	写真図版
					長×短	厚さ	孔 径				
10	石製板造品	有孔円板	E-6 区	擦痕	2.7×2.3	0.3	0.1	完形	K-35	75-5	
11	石製板造品	有孔円板	A-6 区	擦痕	3.6×2.5	3.5	0.2~0.25	完形	K-38	75-11	
12	石製板造品	有孔円板	F-16-17 区	擦痕	3.2×(2.1)	0.6	0.2~0.3	1/2	K-30	75-12	
13	石製板造品	有孔板	4 区	—	3.6×1.4	0.5	(0.1)	一部欠	K-49	76-8	
14	石製板造品	有孔板	F-16-17 区	(2.0)×1.5	0.3	(0.2)	—	1/2	K-36	76-10	
15	石製板造品	臼	B-8 区	外径0.5	高さ0.3	0.15~0.2	—	空形	K-34	76-6	

番号	種別	器形	地 区	法 量 (cm)			石 材	残 存	登録No	写真図版
				長	幅	厚				
16	剥片石器	石器	B-12 区	(2.3)×11×6.6	—	—	基部・先端部欠	—	K-31	76-18
17	剥片石器	石器	B-D-3区	(1.65)×1.0×0.35	—	—	先端部欠	—	K-52	76-20

第10図 表土層出土遺物実測図(4)



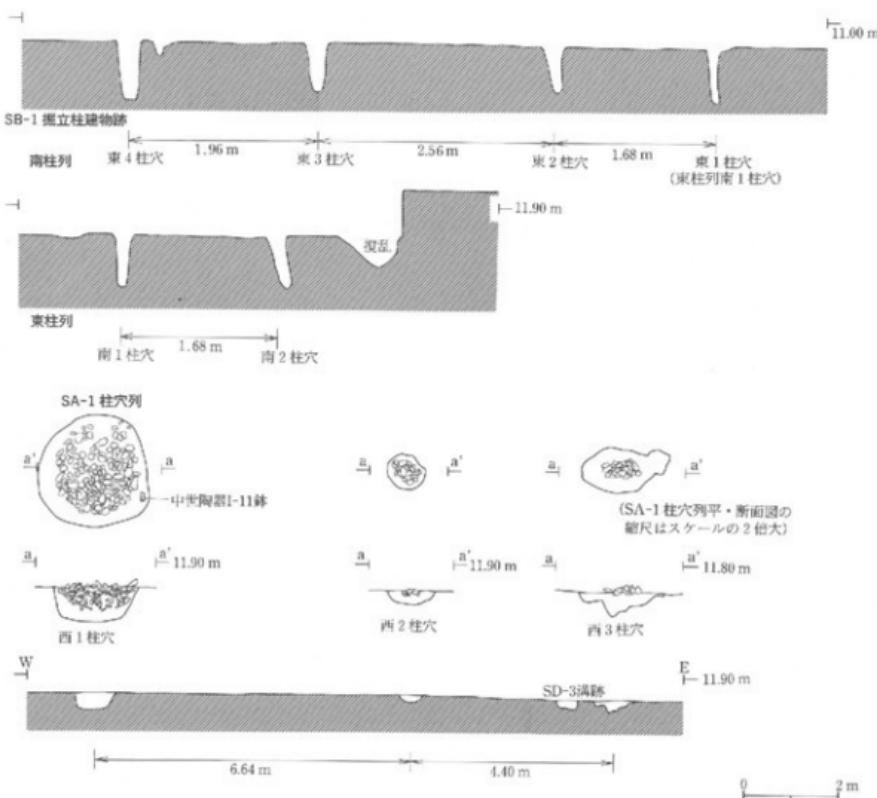
遺物No	種別	地区	凸 製 塊	凹 製 塗	法 縦 (cm)			残 有	登録No	写真回数
					上径	面高	底径			
1	平瓦	P-G-71E	縹 甲 き 目	布 目				一部	G-5	74-7
2	平瓦	表 探	縹印き目+一部ナメ	布 目				一部	G-7	74-12
3	平瓦	P-G-71E	縹 甲 き 目	布 目				一部	G-10	74-11

第11図 表土層出土遺物実測図(5)

## 2. 掘立柱建物跡

### SB-1 掘立柱建物跡

調査区の北東拡張部で I b 層を除去し、東西 3 間・南北 1 間分が検出されたが、建物の規模については調査区外に延びるものと考えられ、全体は不明である。東西総長は 620cm(柱間寸法 168~256cm、平均 206cm)、南北柱間寸法 176cm を計る。南 1・東 2 柱穴と南 1・東 3 柱列との間隔が他の柱間より広く、1.3~1.5 倍ほどである。南柱列の方向は W-2°-N である。柱穴は直径 20~26cm の円形で、確認面からの深さは 46~61cm、掘り方埋土は黒褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。SI-1 穹穴遺構を切っている。



第12図 SB-1 掘立柱建物跡・SA-1 柱穴列実測図

柱穴位置 註記	S1・E1	S1・E2	S1・E3	S1・E4	S2・E1
形 状	円 形	円 形	円 形	円 形	円 形
上端の直径	20cm	24cm	26cm	24cm	20cm
深 さ	58cm	51cm	53cm	61cm	46cm
埋 土	2.5Y 3/2 黒褐色粘土質シルト				

第3表 SB-I 堀立柱建物跡柱穴観察表

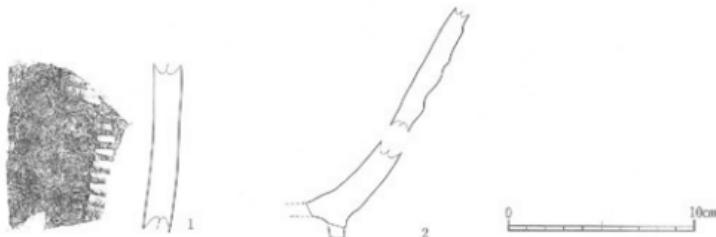
### 3. 柱穴列

#### SA-1 柱穴列

調査区の南西部で、東西2間の柱穴列を検出した。全体の規模は不明であるが、検出した柱穴列の総長は11.2m(柱間寸法460~660cm)で柱穴列の方向はW2°Nである。柱穴は不整の円形ないし橢円形を呈し、長軸長60~114cm、短軸長50~98cm、深さ14~42cmの規模で、5~10cm大の円礫を詰めている。掘り方埋土はにぶい黄褐色ないし暗褐色の砂質シルトで、西1柱穴からは、13世紀前半の常滑産の高台付鉢(I-11)、13~14世紀頃の白石窯系の壺(I-12)、上面からは古代の平瓦(G-5)、須恵器を出土している。

柱穴位置 註記	W1	W2	W3
形 状	不整円形	不整円形	不整橢円形
上端の直径	110×98cm	60×50cm	114×60cm
深 さ	38cm	14cm	42cm
埋 土	10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト	10YR4/3 暗褐色 砂質シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト

第4表 SA-1 柱穴列柱穴観察表



遺物No	種別	断面	直径	底径	深度	色調	文様・特徴	产地	年代	登録No	備考	写真提供
1	陶器	甕	W1柱穴				叩き痕	在地	13世紀	I-12	白石窯系	73-18
2	陶器	甕	W1柱穴					在地	13世紀	I-11	箱田焼後半	—

第13図 SA-1出土遺物実測図

## 4. 溝跡

### SD-2 溝跡

調査区西辺から40mほど東に流れ、SD-3 溝跡付近で緩やかに南に蛇行し、さらに東流し、調査区中央東寄りで南に鍵型に曲がり、4.5mほどで調査区外へ流れる。方向は西から W-22°-N、SD-3 溝跡付近で E-4°-S と方向を変え、東側で南に屈曲し N-26°-E ほどを計る。SD-3・SD-7 溝跡に切られ、SD-6 溝跡を切っている。上端幅は98~210cm、底面で18~60cm、深さは39~77cm と場所によって落差が大きく、東ほど検出面からの深さは浅くなるが、底面はほぼ平準である。断面形は西側では V 字型を、東側では舟底型を呈す。弥生土器は、壺 (B-69)、壺 (B-69・80)、鉢 (B-57・74・79)、蓋 (B-58・63・76) の 9 点、土師器の高环 (C-56・79・80・81)、ロクロ土師器の坏 (D-1・9・10・11・12・14・16・17・18・21)、高台付坏 (D-3~5・15)、甕 (D-6)、須恵器横瓶 (E-14)、平瓦 (G-1~4・6・8)、石製品模造品 (K-21・48)、石器 (K-47・58)、馬齒を出土している。

### SD-3 溝跡

調査区中央やや西側を南北に流れ、調査区北側のトレンチで SD-4 溝跡と T 字形に交差する。SD-2・SD-6 溝跡、SI-3・SI-9 穫穴住居跡を切っている。方向は N-12°-W で、検出長は22m である。上端幅は40~52cm、底面で8~32cm、深さ16cm 前後で、底面はほぼ平準である。断面形は台形を呈し、弥生土器甕 (B-82)、土師器甕 (C-121) を出土している。

### SD-4 溝跡

調査区北側のトレンチで、SD-3 溝跡から T 字形に東に延びるように検出した。SI-9 穫穴住居跡を切っている。方向は N-15°-E で、検出長は8.4m である。上端幅は32~54cm、底面で16~36cm、深さ 6 cm 前後で、底面は平準である。断面形は台形を呈し、出土遺物はない。

### SD-5 溝跡

調査区の北西角で検出した南北方向に流れる溝跡である。SD-6 溝跡を切っている。方向は N-12°-W で、検出長は8.6m である。上端幅は32~190cm、底面で30~158cm、深さ13~19cm 前後で、底面はほぼ平準で、南側に緩やかに傾斜する。断面形は舟底形を呈し、須恵器坏 (E-7) を出土している。

### SD-6 溝跡

調査区西辺から22.5mほど東流し、南に L 字型に曲がって 3 m ほどで SD-2 溝跡に切られるよう途切れる。SD-2 溝跡と同様に SD-3 溝跡付近で緩やかに方向が変化し、大体の方向は W-21°-N から W-17°-N、屈曲して N-17°-E である。上端幅は一定せず50~142cm、底面で12~100cm、深さは12~57cm で、底面の標高は20cm 程度の凹凸はあるがほぼ平準である。断

面形はV字型ないし舟底型を呈す。弥生土器甕（B-70）、ロクロ使用の土師器坏（D-2）、石鐵（K-50・56）を出土している。

#### SD-7 溝跡

調査区中央やや東を南北に流れる。SD-2 溝跡、SK-12 土坑を切っている。方向は N-23°-E で、検出長は13.2m である。上端幅は330～360cm、底面で40～60cm、深さは120cm 前後で、溝跡の東西で標高が30～40cm ほどの段差がつき、東側が一段低くなってしまい、底面はほぼ平準である。断面形は段を有するV字型（漏斗型）を見し、須恵器甕（E-2・16）、常滑產の12～13世紀の中世陶器（I-9）や、東海産の灰釉陶器長頸瓶（I-17）を出土している。

#### SD-8 溝跡

調査区の中央やや東側で検出した。SK-12 土坑を切っている。方向は N-27°-E で、検出長は6.3m である。上端幅は24～48cm、底面で12～28cm、深さ 6 cm 前後で、底面は平準である。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-9 溝跡

調査区の東側、SD-01 竪穴遺構の底面で検出した。南流して SD-12 溝跡と合流し、さらに SD-23 溝跡に合流する。SK-3 土坑に切られている。方向は N-12°-W で、検出長は13.0m である。上端幅は36～76cm、底面で16～40cm、深さ25cm 前後で、底面はほぼ平準で、緩やかに南に傾斜する。断面形は台形を呈し、須恵器高坏（E-4）を出土している。

#### SD-10 溝跡

調査区の東側、SD-01 竪穴遺構の底面で検出した。SD-9 溝跡に並行するが途切れる。方向は N-10°-E で、検出長は9.4m である。上端幅は32～64cm、底面で20～48cm、深さ14cm 前後で、底面は平準である。断面形は台形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-11 溝跡

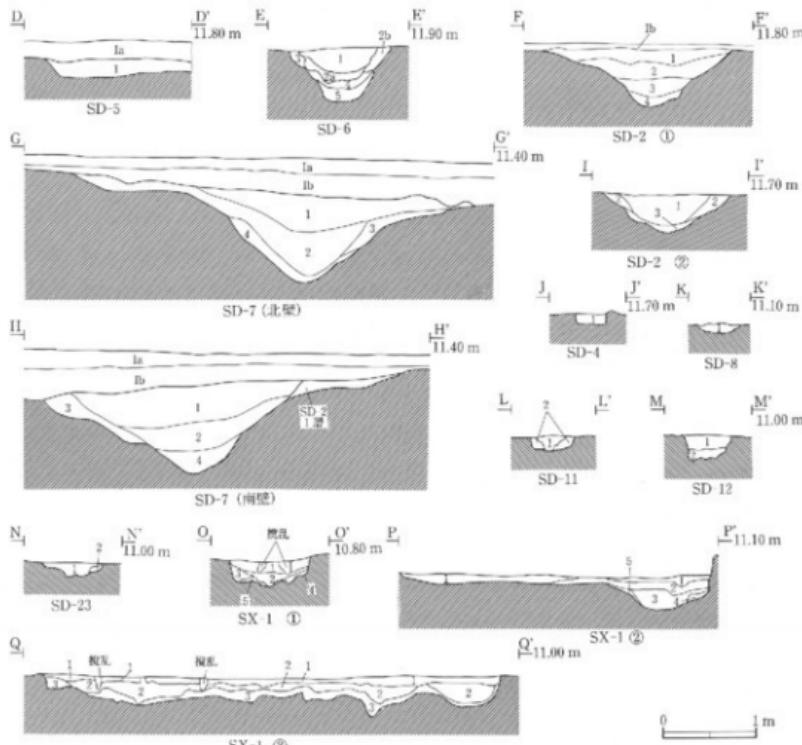
調査区の西寄りで検出した。方向は N-18°-E で、検出長は3.2m である。上端幅は34～56cm、底面で14～36cm、深さ 9 cm 前後で、底面は平準である。断面形は台形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-12 溝跡

調査区東側で検出した。SD-9 溝跡と合流し、さらに SD-23 溝跡に合流する。方向は N-10°-W で、合流後は N-12°-E で、検出長は11m である。上端幅は44～84cm、底面で24～48cm、深さ33cm 前後で、底面は平準で、緩やかに南に傾斜する。断面形は台形を呈し、土師器の高坏（C-72・73・74）・甕（C-125）、石製模造品（K-23・45・56）を出土している。

#### SD-13 溝跡

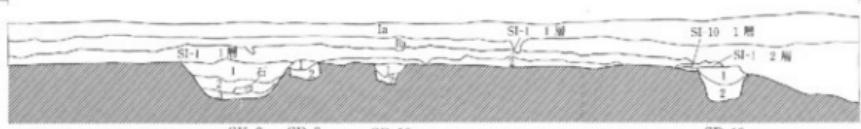
調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-14・15・16・17・18・19・20・21 溝跡を



部位 No.	土色	土質	その他の	部位 No.	土色	土質	その他の
SD-2 ①				SD-8			
1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物、遺物を含む		1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物シルトを斑状に含む	
2 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	若干の遺物を含む	SD-11				
3 10YR4/2 暗黄褐色	砂質シルト	砂質を含む	1 10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物を含む。シルト C 層は二部にわざる。		
4 10YR4/2 暗黄褐色	砂質シルト	表面に酸化鉄斑状	2 10YR3/3 黑褐色	砂質シルト	黒褐色(地表下)を大量に含む		
SD-2 ②				SD-12			
1 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	小砂礫まじり	1 10YR3/4 黒褐色	粘土質シルト	灰白色火成灰を含む		
2 10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	小砂礫まじり	2 10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。画面に細粒砂の斑状		
3 10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭酸カルシウムにむしろ火成灰	SX-23				
SD-4				1 10YR4/3 こぶい黄褐色	シルト	灰白色火成灰を普遍的に含む	
1 10YR3/2 暗褐色	砂	褐色の砂を含む	2 10YR4/4 暗褐色	シルト	画面に酸化鉄の基盤		
SD-5				SX-1 ①			
1 a 茶褐色 シルト	耕作土		1 10YR4/3 こぶい茶褐色	粘土質シルト	酸化鉄を含む		
1 10YR2/2 黑褐色	シルト	黄褐色が斑状に含む	2 10YR4/3 こぶい茶褐色	粘土質シルト	酸化鉄を多く含む		
SD-6				3 10YR4/2 灰茶褐色	粘土質シルト	酸化鉄を含む	
1 10YR2/1 黒色	シルト	砂粒を多少含む	4 10YR4/2 暗黄褐色	粘土質シルト	画面に酸化鉄が累積		
2a 10YR2/2 黑褐色	シルト	シルトを多少含む	5 10YR4/2 黑褐色	粘土質シルト	画面に酸化鉄が累積		
2b 10YR2/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質を多少含む	SX-1 ②				
3 10YR4/3 こぶい茶褐色	砂	黒褐色の砂を多少含む	1 10YR4/3 E-JV-茶褐色	粘土質シルト	酸化鉄を少額含む		
4 10YR4/3 暗褐色	砂質シルト	炭酸カルシウム・透水性の砂	2 10YR4/3 E-JV-茶褐色	粘土質シルト	酸化鉄を含む		
5 10YR4/2 暗褐色	砂質シルト	砂質	3 10YR4/2 暗黄褐色	粘土質シルト	全体に酸化鉄を含む		
SD-7				4 10YR4/6 茶褐色	砂質シルト	酸化鉄を多額に含む	
1 a HTII-2-② 黑褐色	粘土質シルト	耕作土	5 10YR4/3 こぶい茶褐色	粘土質シルト	酸化鉄を含む		
1 b 10YR4/2 暗褐色	粘土質シルト	遺物を少量含む	SX-1 ③				
1 10YR4/3 こぶい茶褐色	粘土質シルト	遺物を少量含む	1 10YR4/3 こぶい茶褐色	砂質シルト	砂と灰白色火成灰を含む		
2 10YR4/3 こぶい茶褐色	砂質シルト		2 10YR4/4 茶褐色	粘土質シルト	炭酸カルシウムを含む		
3 10YR4/3 こぶい茶褐色	砂質シルト	砂の層か?	3 10YR4/4 茶褐色	粘土質シルト	炭酸カルシウムを含む		
4 10YR4/3 こぶい茶褐色	砂質シルト						

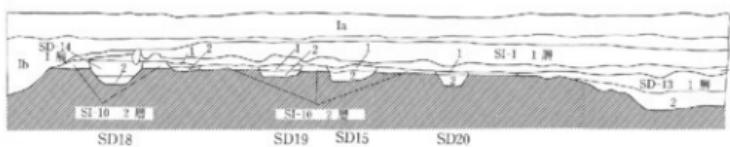
第14図 溝跡断面図

A



A' 11.40 m

B



B' 11.40 m

C



C' 11.20 m

0 2 m

剖位 No.	土 色	土 質	そ の 他
I a	10YR2/4/7 黄褐色	耕作土	
I b	10YR3/2 黄褐色		
SK-2			
1	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトを多く含む
2	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトを少量含む
3	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	灰黄色粘土質シルトと酸化鉄を微量に含む
SK-3			
1	10YR2/1 黑褐色	粘土質シルト	下層に2枚がまき上げられている
2	10YR2/2 灰黃褐色	粘土質シルト	
SI-10			
1	10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	
SD-9			
1	10YR4/6 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	
SD-10			
1	10YR6/8 明黄色	粘土質シルト	
2	10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰・灰水物を含む
SD-13			
1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰をブロック状・マンガンを多く含む
2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰と褐色粘土質シルトを層次に含む
SD-14			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR4/3 にい瀬褐色	粘土質シルト	
SD-15			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	遺物を少量含む
2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
SD-18			
1	10YR4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	
2	10YR4/3 にい瀬褐色	粘土質シルト	
SD-19			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR4/3 にい瀬褐色	粘土質シルト	
SD-20			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	

第15図 調査区東側壁断面図

切っている。方向は N-13°-W で、検出長は 7.8m である。上端幅は 48~68cm、底面で 20~36cm、深さ 44cm 前後で、底面は平準で、緩やかに南に傾斜する。断面形は台形を呈し、ロクロ土師器の甕 (D 7)、石製模造品 (K-24) を出土している。

#### SD-14 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD 10・13 溝跡に切られる。方向は E-9°-S ないし W-3°-S で、検出長は 5.3m である。上端幅は 16~52cm、底面で 12~28cm、深さ 10cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は台形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-15 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-13 溝跡に切られる。方向は E-9°-で、検出長は 2.6m である。上端幅は 20~40cm、底面で 4~24cm、深さ 15cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-16 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-13 溝跡に切られる。方向は W-27°-N で、検出長は 2.8m である。上端幅は 24~40cm、底面で 12~24cm、深さ 14cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-17 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-13 溝跡に切られ、SD-22 溝跡を切っている。方向は W-23°-N で、検出長は 3.6m である。上端幅は 24~40cm、底面で 12~28cm、深さ 20cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-18 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-10・13 溝跡に切られる。方向は W-9°-N で、検出長は 5.6m である。上端幅は 20~40cm、底面で 16~32cm、深さ 10cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-19 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-13 溝跡に切られる。方向は W-9°-N で、検出長は 3.8m である。上端幅は 28~40cm、底面で 20~32cm、深さ 6 cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-20 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-13 溝跡に切られる。方向は W-9°-N で、検出長は 5.2m である。上端幅は 24~36cm、底面で 12~24cm、深さ 18cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は台形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-21 溝跡

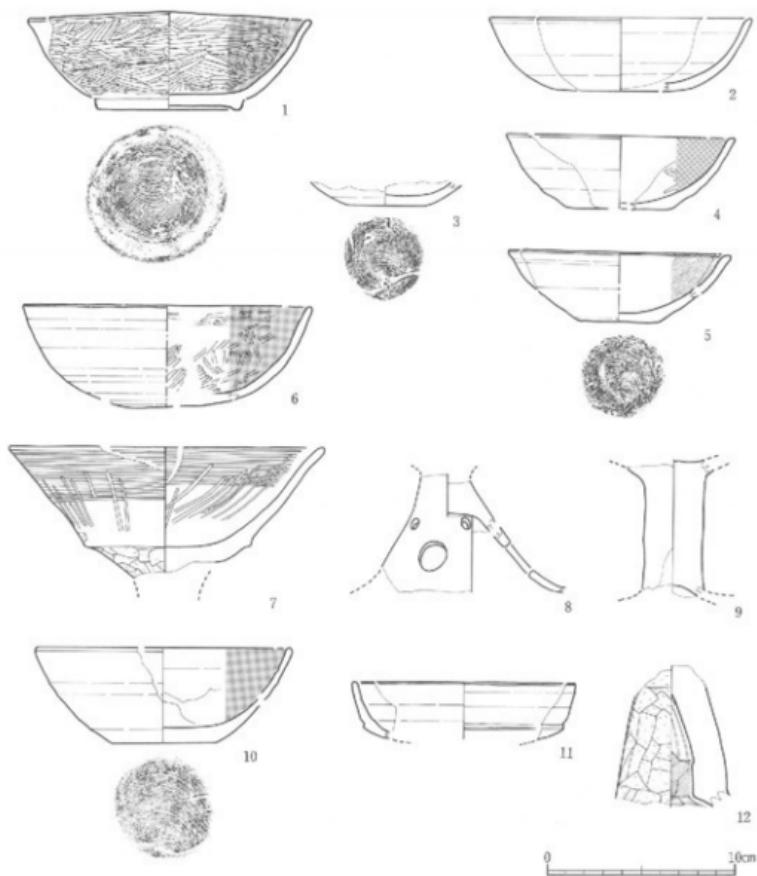
調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-13 溝跡に切られ、SD-22 溝跡を切っている。方向は E-7°-S で、検出長は 5.5m である。上端幅は 28~40cm、底面で 24~32cm、深さ 11cm 前後で、底面は平準で、緩やかに東に傾斜する。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

#### SD-22 溝跡

調査区東端、SI-1 竪穴遺構の底面で検出した。SD-17 溝跡に切られ、SD-21 溝跡を切っている。方向は N-25° E で、検出長は 1.4m である。上端幅は 28~36cm、底面で 16~24cm、深さ 15cm 前後で、底面は平準である。断面形は舟底形を呈し、出土遺物はない。

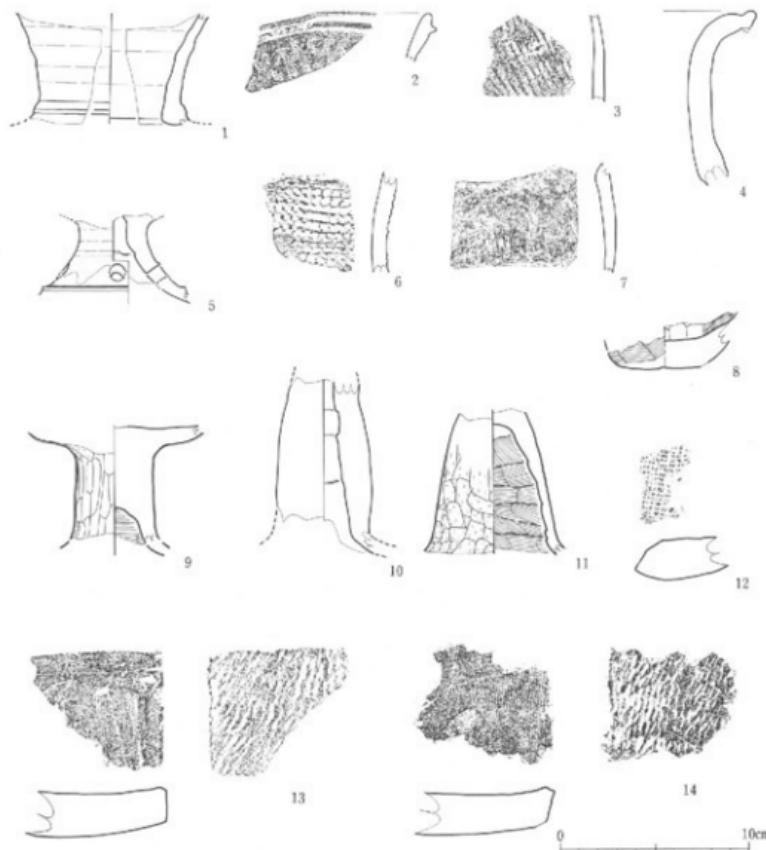
#### SD-23 溝跡

調査区東側で検出した。南流していったん上端幅が広がったのち、また幅が狭まり東流する。幅が広がった部分は、SX-1 性格不明遺構とした。SD-9・12 溝跡を合流する。方向は N-18°-E、W-25°-N で、検出長は南北に 10.6m、東西に 20.2m である。上端幅は 54~70cm で広がった部分では 5~6 m を計り、底面で 38~50cm、深さ 15cm 前後で、底面は溝状を呈する部分では平準であるが、北から南、そして東に緩やかに傾斜する。広がった部分の底面は凹凸が著しく、酸化鉄が固く集積していた。断面形は舟底形ないし台形を呈し、土師器甕 (C-116) を出土している。



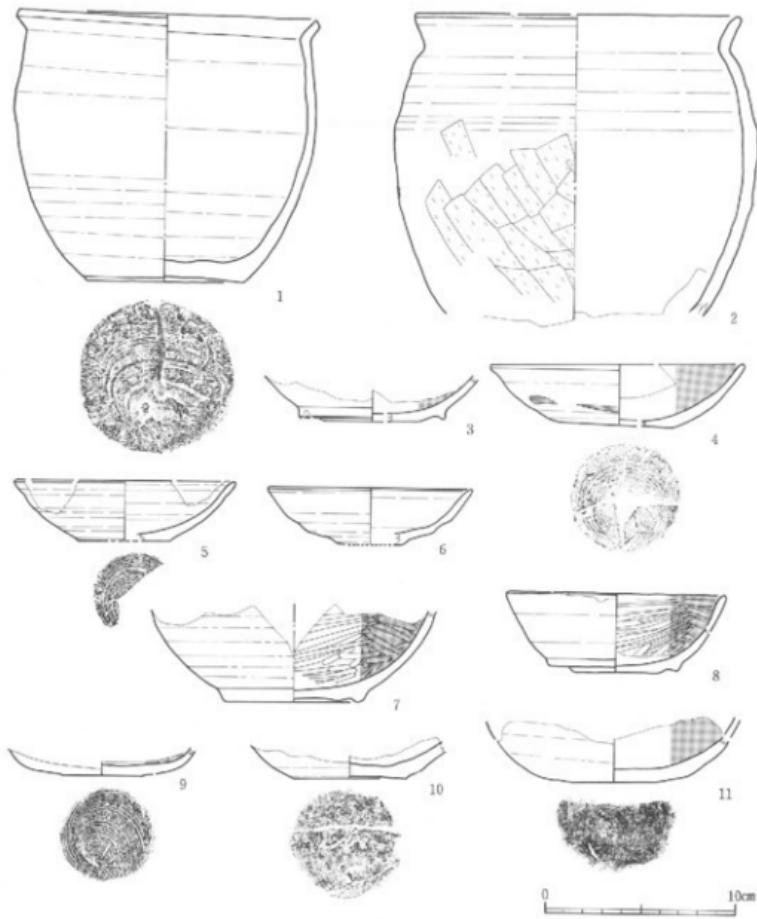
番号	種別	形状	焼成・部位	外観調査		内面調査	径量(cm)	残存	危険度	下限基準
				口縁部	全体					
1	土器部	瓦片	SD-2 下層	クロロナデミガキ	回転み切ち	ロクロロナデミガキ 黒色 鮎型	(15.0) 3.2	7.4	2/3	D-15
2	土器部	瓦	SD-2	クロロナデ	回転み切ち	ロクロロナデ	(14.0) 3.9~	—	1/6	D-17
3	土器部	瓦	SD-2 下層	クロロナデ	回転み切ち	—	1.0~ (4.2)	20.0	D-21	
4	土器部	瓦	SD-2	クロロナデ ナグ	—	ロクロロナデ	(12.0) 3.9~ (5.4)	—	1/4	D-18
5	土器部	瓦	E-12 下層	クロロナデ	回転み切ち	ロクロロナデ	—	3.9~ (4.5)	1/3	D-20
6	土器部	瓦	SD-2	クロロナデ	—	ロクロロナデ	(14.0) 5.2~	—	1/4	D-16
7	土器部	瓦片	SD-2	ココナデ	—	ロクロロナデ 黒色 鮎型	16.0 7.2~	—	C-66	D-12
8	土器部	瓦片	SD-2 1層	不	不	—	—	—	C-75	22.16
9	土器部	瓦片	SD-2	—	—	—	—	—	C-60	—
10	土器部	瓦	SD-6	クロロナデ	回転み切ち	ロクロロナデ	(13.0) 3.1 3.5~5.7	2/3	D-2	
11	瓦器部	瓦	SD-5	クロロナデ	ロクロロナデ	(11.0) 3.0~	—	—	E-7	08-1
12	土器部	瓦片	SD-2 1層	ヘラシズマ	ナゲテ	—	7.6~	—	C-61	22.15

第16図 溝跡出土遺物実測図(1)



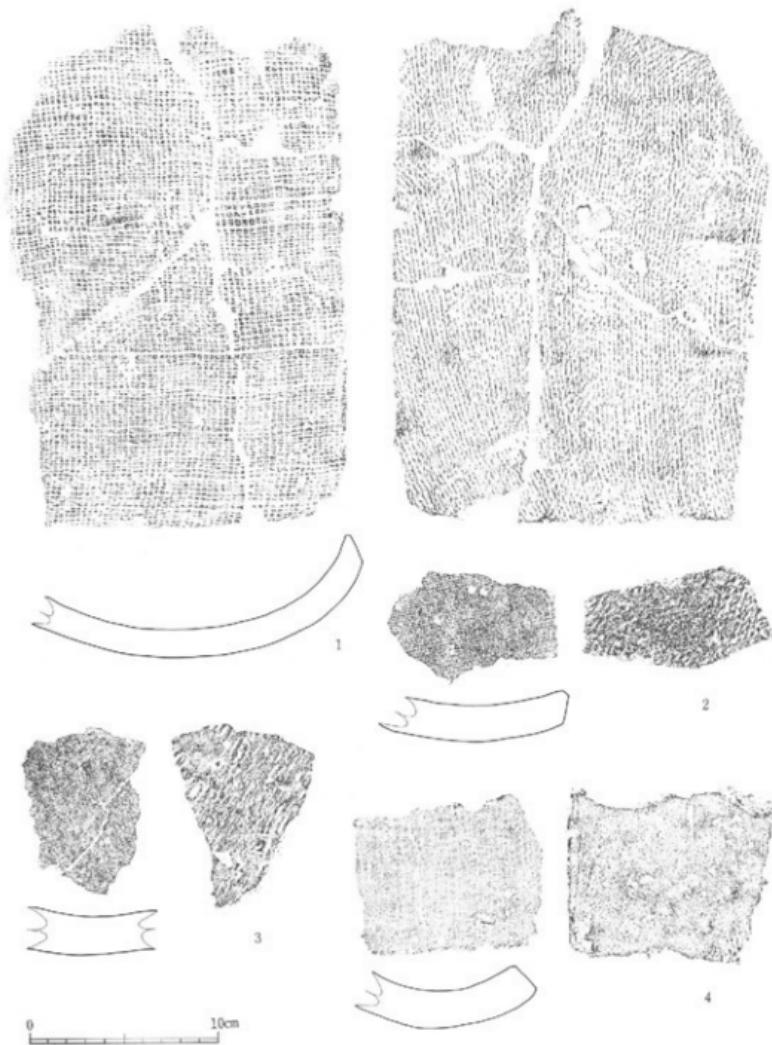
第17図 溝跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	形状	遺物・部位	外観調査			内部調査			寸法(cm)			現存	発見No.	発掘場所
				口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	口径	器高	底径			
1	灰陶器	長筒形	SD-71脚 ロフリチテ	口縁部 ロフリチテ	—	—	口縁部 ロフリチテ	—	—	5.8~	—	—	脚部	E-17	73-16
2	灰陶器	甕?	SD-71脚	—	—	—	—	—	—	—	—	—	小脚片	E-2	68-3
3	灰陶器	甕?	SD-7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	小脚片	E-16	—
4	陶器	甕?	SD-72脚	—	—	—	—	—	—	—	—	—	脚部	E-9	73-14
5	灰陶器	甕形	SD-9	ロフリチテ	ナフテ	ロフリチテ	ロフリチテ	ナフテ	ロフリチテ	5.8~	—	—	器底	E-4	58-9
6	土器底	甕?	SD-12	—	棒子タタキ	—	—	—	—	—	—	—	一部	C-125	—
7	土器底	甕形	SD-2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一部	E-14	—
8	土器底	甕?	SD-23	—	ヘナナフ	不明	—	持アテ	不明	3.0~	4.5	—	底部	C-116	—
9	土器底	甕形	SD-12	ケツリミミガキ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	6.95~	—	—	器底	C-73	—
10	土器底	甕形	SD-12	不	糊	ナフテ	ナフテ	ナフテ	ナフテ	9.4~	—	—	器底	C-72	68-21
11	土器底	甕形	SD-12	不	糊	不	不	持アテ	糊	8.42~	—	—	脚部	C-74	—
12	瓦	平瓦	SD-2	(凸面)	ケツリ→ナフ	(凹面)	在	在	在	(H)	8.9~	2.1	一部	G-8	74-10
13	瓦	平瓦	SD-2	(凸面)	糊印き目	(凹面)	在	在	在	(H)	7.05~	0.9~	一部	G-6	74-3
14	瓦	平瓦	SD-10	(凸面)	糊印き目	(凹面)	在	在	在	(H)	6.3~	0.9~	一部	G-9	74-5



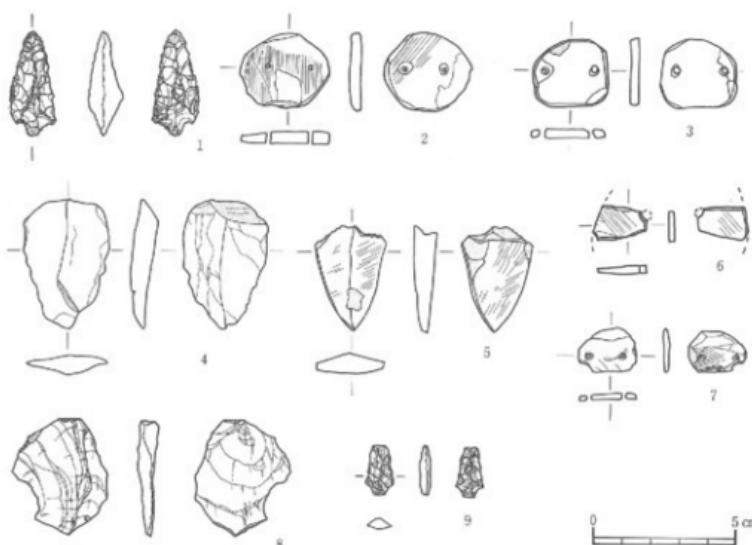
品目	種別	施行	埋蔵・位置	外向試験		内面調査			測量 (cm)			現存	参考 No.	写真添付
				口縁部	体部	口縁部	体部	底部	口径	口縁	脚部			
1 瓢箪形 壺	壺	SD-15	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁部 凹凸不規則 口内斜面	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	16cm	14.5cm	8.3cm	一部欠	D-7	72-13
2 リクダ	壺	SD-2	ロクロナデ	ヘラクナデ	—	リクダ	リクダ	—	17.5cm	16.5cm	—	1/4	D-6	72-18
3 土瓶型 壺	壺	SD-2	—	ロクロナデ	高台付	—	ロクロナデ	内面褐色沾染	9.3cm	7.3cm	—	底部のみ	D-4	—
4 土瓶型 壺	壺	SD-2.2層	ロ	ロクロナデ	内面褐色斑	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	11.7cm	5.5cm	3.4cm	一部欠	D-1	72-10
5 土瓶型 壺	壺	SD-2.1層	ロ	ロ	内面褐色斑	ロ	ロ	ロ	11.5cm	5.5cm	3.4cm	一部欠	D-9	72-13
6 リクダ	壺	SD-2.2層	ロ	リクダ	—	リクダ	リクダ	リクダ	10.5cm	5.5cm	3.4cm	1/2	D-11	—
7 リクダ	壺	SD-2	ロ	リクナデ	—	リクナデ	リクナデ	リクナデ	9.5cm	5.5cm	3.4cm	1/2	D-3	72-9
8 二重頭 壺	壺	SD-2.1層	ロ	クロナデ	—	高台付	—	—	7.4cm	4.2cm	6.3cm	—	D-5	72-14
9 二重頭 壺	壺	SD-2.2層	ロ	リクナデ	口縁部切り	ロ	リクナデ	リクナデ	—	—	—	底部のみ	D-14	—
10 保手付 壺	壺	SD-2	ロ	ロ	内面褐色斑	ロ	ロ	ロ	2.15cm	6cm	6cm	底部	D-10	—
11 二重頭 壺	壺	SD-5	ロ	リクナデ	—	高台付	—	—	—	—	—	底部	D-12	—

第18図 溝跡出土遺物実測図(3)



品名	種類	調査・測定位	凸凹測量	凹凸測量	法面 (cm)			残存	色鉛 No.	写真番号
					上部	側面	底面			
1	平瓦	SD-25號	凸 0.0 8.0	凹 0.0 8.0	11.0	側面 10.0~	底面 1.0~	2/3	G-1	74-1
2	平瓦	SD-2	凸 0.0 8.0	凹 0.0 8.0	11.0~	2.0			G-4	74-6
3	平瓦	SD-2	凸 0.0 8.0	凹 0.0 8.0	7.0~	2.0			G-2	74-2
4	平瓦	SD-2	一箇調査 8.0, ケズリ	右 0.0	11.0~	2.0			G-3	74-4

第19図 溝跡出土遺物実測図(4)



畫面No	種別	图形	構造・部位	圓數	法 長×廣			(cm)	石材	殘存	登記No	寫真版	
					厚	乳樣							
2	石製標品	有孔円盤	SD-2	標底	3.0×2.6	0.4	0.15		光形	K-21	75-7		
3	石製標品	有孔円盤	SD-13	標底	2.6×2.4	0.3	0.15~0.2		光形	K-24	75-8		
4	石製標品	彎形木製品	SD-12		(4.5)×3.0	0.7			未完成	K-23	75-13		
5	石製標品	鉤形	SD-22下端	標面	(0.8)×2.5	0.8				2/3	K-48	76-11	
6	石製標品	有孔円盤	SD-12	標底	(1.7)×(1.2)	0.2	(0.25)			1/4	K-56	75-16	
7	石製標品	有孔円盤	SD-12	標底	2.0×1.5	0.2	0.15			一部欠	K-45	75-15	

植物 No	種別	形態	測量	法量 (cm)	石材	編號	標本 No	寫真圖版
1	石蓀	石蓀	SD-6	3.7×1.9×1.2		K-50	76-16	
8	石蓀	剥片石器	SD-2	4.1×3.4×0.7		K-58	76-14	
9	石蓀	石蓀	SD 21號	(1.7)×0.9×0.4	其記	其記	K-47	76-19

第20図 滝跡出土遺物実測図(5)

## 5. 穫穴住居跡

### SI-2 穫穴住居跡

【平面形・遺存状況・重複】東壁の中央付近は耕作による削平で壁の大半が失われているが、平面形は比較的整った方形を呈す。SK-16 土坑に切られる。

【規模・方向】南北軸長は4.3m、東西軸長は4.8m、面積20.3m<sup>2</sup>を計る。方向は、南壁が E-33°-N、西壁が N-30°-W である。

【堆積土】住居廃絶後の堆積土は4～23cmほど残り、住居内の堆積土の大部分は褐色ないし暗褐色の砂質シルトである。

【壁・床面】西壁と北壁はほぼ垂直に立ち上がるが、その他の壁はやや外傾している。炭化物を含む焼土が住居の3/4の範囲に分布しており、床面と考えられる。床面は平坦で、住居の北半部全面に貼床か認められる。貼床は灰黄褐色の砂質シルトで2～4cm前後の厚さである。

【柱穴】住居の南東角で不整楕円形の柱穴1基を検出した。直径は70～90cm、深さは45cmである。

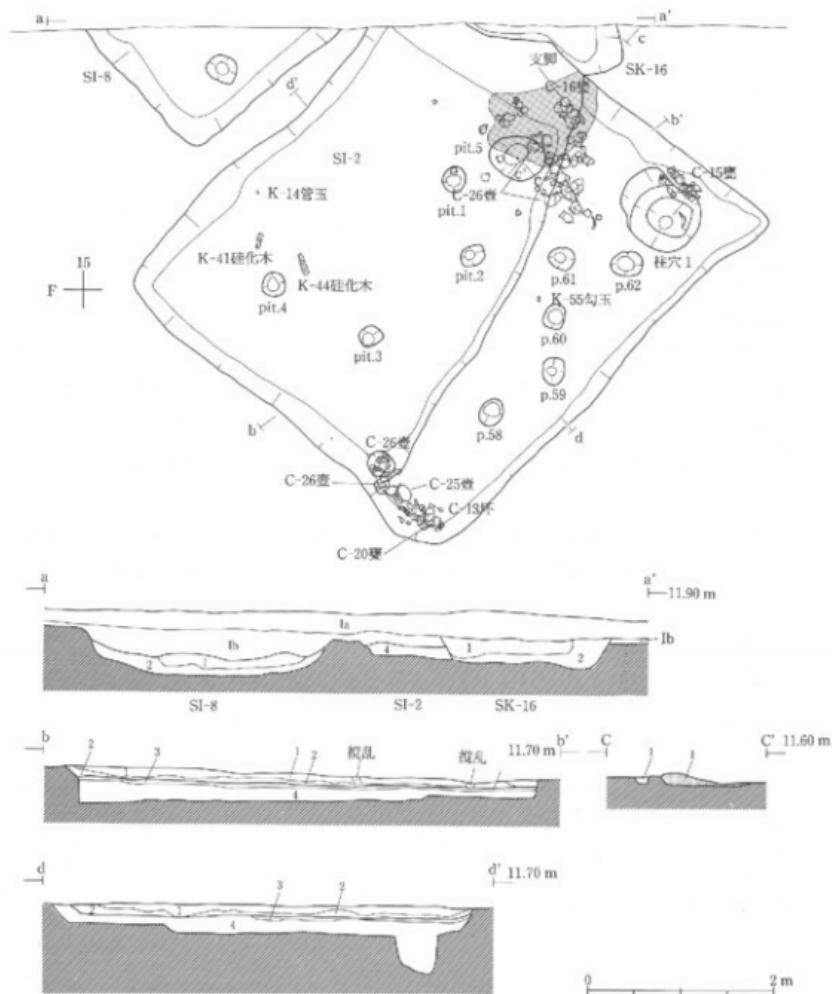
【カマド】東壁のほぼ中央で大半は削平を受けてはいたものの、カマドの袖部の一部と支柱石を検出した。カマド痕跡の約1mで範囲の床面が焼けている。SK-16 土坑に切られているためか、煙道は検出できなかった。

【周溝】検出しなかった。

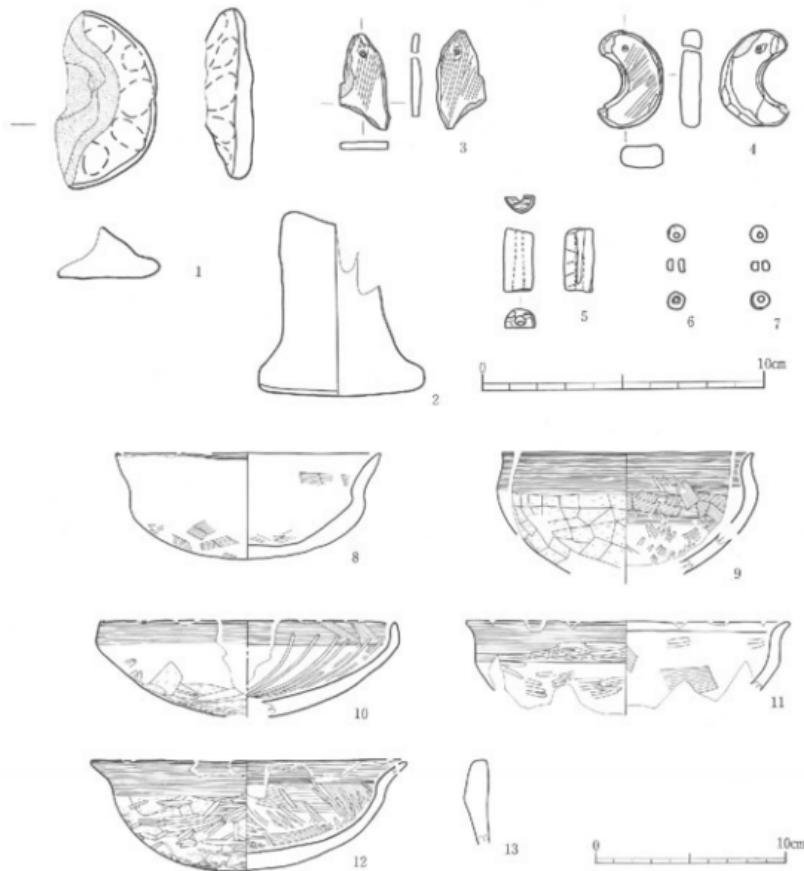
【その他の施設】住居に伴うピットはNo.1～5である。

【住居掘り方】住居の北半分を5～20cmほど一段深く掘り凹める掘り方を検出した。

【出土遺物】検出面と堆積土中から大量の土師器と、初期須恵器壺の破片(E-11)を出土している。一括出土の土師器の壺(C-13)・壺(C-15・20)・壺(C-16・25)の他、弥生土器の壺(B-41・55)、壺(B-21)、鉢(B-25)、土師器の壺(C-10～12・14)、壺(C-17～19・21・22・26・84・123)、鉢(C-67)、甌(C-23)、小玉(K-10a・10b)、管玉(K-14)、勾玉(K-55)、石製模造品(K-13)、土製品(P-2・5)などがある。



第21図 SI-2・8堅穴住居跡、SK-16土坑実測図



遺物 No.	種別	形態	層位	外観調査			内部調査			出露 (cm)	既 分	登録 No.	写真図版
				口縁部	体部	底面	口縁部	体部	底部				
1 土製品	不明	2層	断面直角 (10 cm 断面) 10cm	—	(底面5箇所、側面5箇所) にあり	—	—	—	—	1.3~	0.2	1/2	P-5 67-19
2 土製品	不明	2層	断面直角 (10 cm 断面) 10cm	—	—	—	—	—	—	6.75~	5.8	—	P-2 67-18
3 土製品	环	2層	表面より不規、ヘラグ、一面とぎり 一端ヨコフタ、凹面により不規、2枚を	—	—	—	(2.17)	5.6	—	—	—	1/2	C-13 67-4
4 土製品	环	2層	ココナデ ヘラケズリ	ココナデ	ヘラケズリ	—	ココナデ	ヘラケズリ	ココナデ	(15.4)	6.9~	—	1/6 C-14 71-1
5 土製品	环	2層	ココナデ ヘラケズリ	ココナデ	ヘラケズリ	—	ココナデ	ヘラケズリ	ココナデ	(15.5)	(5.1)	—	1/4 C-12 71-2
6 土製品	环	2層	ココナデ ヘラケズリ	—	ヘラケズリ	—	ココナデ	ヘラケズリ	ココナデ	(16.8)	6.2~	—	1/3 C-11 67-2
7 土製品	环	4層	ココナデ ヘラケズリ	—	ヘラケズリ	—	ココナデ	ヘラケズリ	ココナデ	(16.8)	5.9	—	1/2 C-10 67-1
8 土製品	环	3層	ココナデ ヘラケズリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	小遺片 C-67 67-3

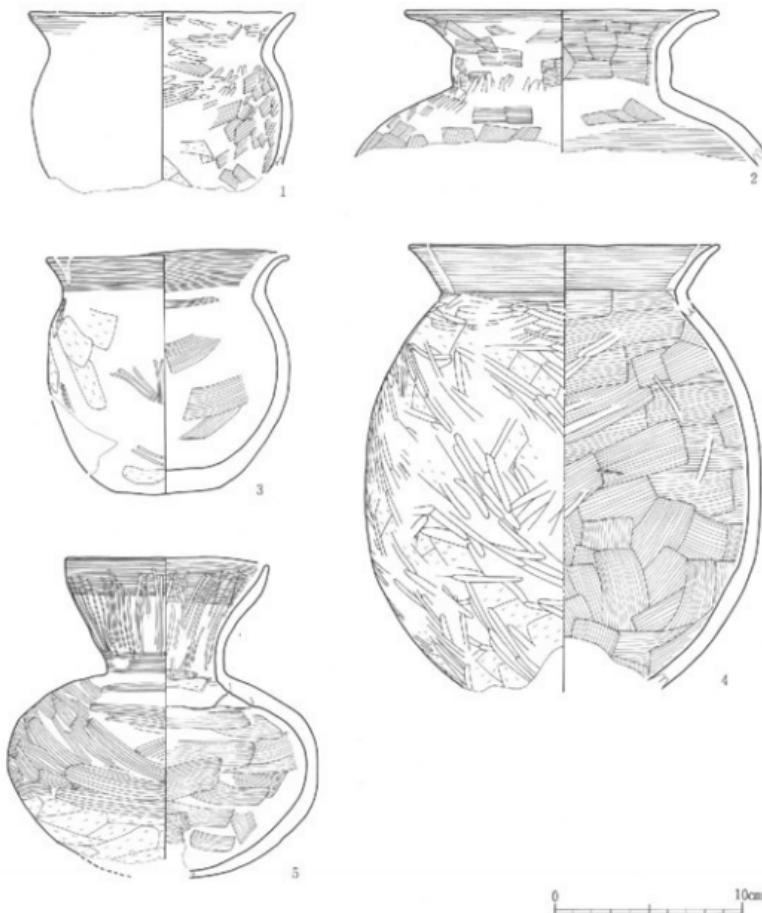
遺物 No.	種別	形態	層位	調査	法 量 (cm)			石材	残存	登録 No.	写真図版
					長×幅	厚さ	孔径				
3 石製標高品	有孔劍形	2層	擦痕	(3.0)×1.7	0.3	0.1	—	1/2	K-13	76-9	
4 石製標高品	勾玉	2層	擦痕	3.4×1.5	0.7	0.15~0.25	—	光形	K-55	76-1	
5 石製標高品	管玉	2層	擦痕	2.2×1.1	(0.4)	0.3	—	1/2	K-14	76-2	
6 石製標高品	小玉	2層	—	0.6×0.4	0.2	0.2	—	光形	K-10a	76-4	
7 石製標高品	小玉	2層	—	0.6×0.3	0.2	0.1	—	光形	K-10b	76-5	

第22図 SI-2出土遺物実測図(1)



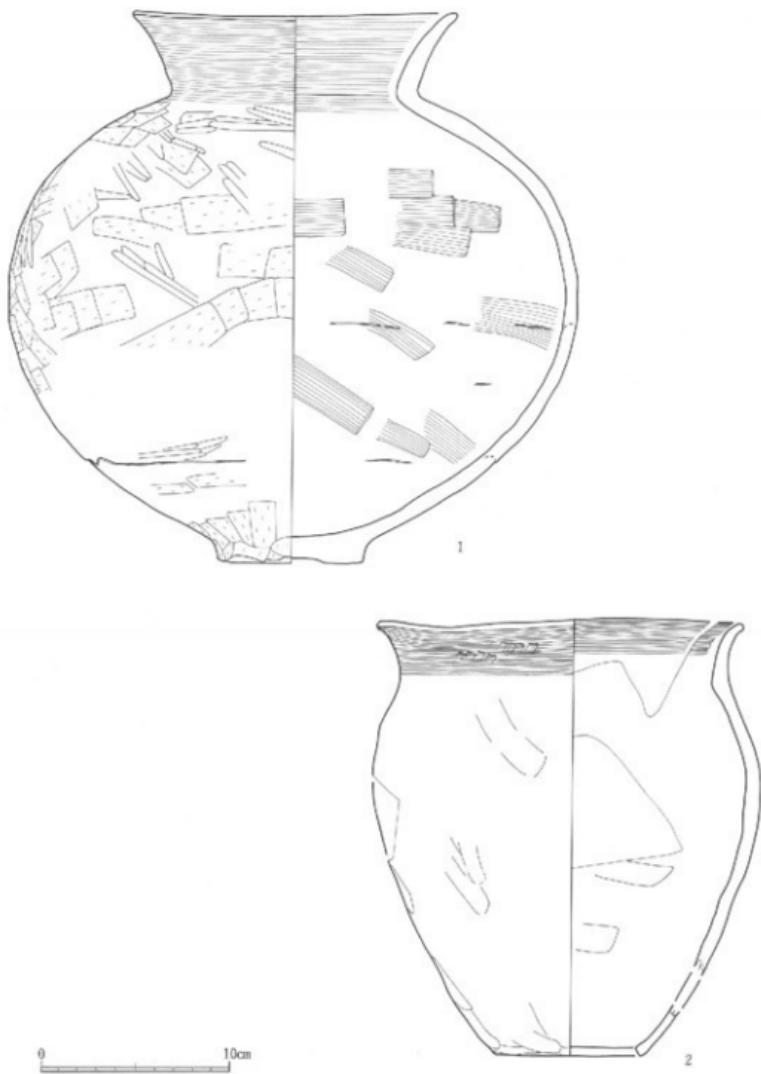
編號	種別	形態	層位	外測量			内測量			法華 (cm)			現 存	登錄 No.	写真 番号
				口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	C径	周長	既往			
1	土師器	瓶	柱穴 1	ヨコナラ・ハセナラ・シマナラ	ヘタヌード	—	ヘタヌード	体部	底部	20.6	7.9~	—	□直	C-22	71-20
2	土師器	壺	2 層	ヨコナラ	—	—	ヨコナラ	ヘタヌード	—	—	—	—	高直1/4	C-81	87-11
3	土師器	甕	2 層	ヨコナラ	ヘタヌード	—	ヨコナラ	ヘタヌード	—	—	—	—	—	—	—
4	土師器	甕	2 層	ヨコナラ	ヨコナラ	—	ヨコナラ	ヘタヌード	—	—	—	—	1/4	C-153	67-15
5	土師器	甕	2 層	ヨコナラ	ヨコナラ	—	ヨコナラ	ヘタヌード	—	—	—	—	1/2	C-18	66-5
6	土師器	瓶	2 層	ヨコナラ・ハセナラ・シマナラ	ヘタヌード	—	ヨコナラ	ヘタヌード	—	—	—	—	既往2-1-横直	C-20	—
							ヨコナラ	ヘタヌード	—	—	—	—	既往2-2-横直	C-19	67-9

第23図 SI-2出土遺物実測図(2)



番号	種類	直径	高さ	外観概要			内窓概要			法量 (cm)			現存	登録No	可算面積
				上部部	体部	底部	上部部	体部	底部	口径	容積	底径			
1	土師壺	燒	2層上	ココナツ	不明	—	ハラシナ	ハラシナ	—	(14.8)	9.5~	—	現存	C-26	67-12
2	土師壺	焼	2層	ココナツ	ハラシナ	—	ココナツ	—	ハラシナ	16.8	7.8~	—	現存	C-16	67-14
3	土師壺	焼	2層	ココナツ	ハラシナ	→生漆	ココナツ	—	ハラシナ	12.8	13.6	5.9	現存	C-17	67-13
4	土師壺	焼	2層	ココナツ	ハラシナ	—	ココナツ	ハラシナ	—	16.4	23.8~	—	現存	C-21	67-11
5	土師壺	焼	2層上	ココナツ	ハラシナ	—	ココナツ	ハラシナ	—	16.1	17.1~	—	現存	C-25	67-7

第24図 SI-2出土遺物実測図(3)



登録番号	種別	基形	置位	外側観察			内側観察			寸法(cm)			直存	登錄No.	可算部位
				口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	口径	器高	底径			
1	土師壺	壺	地穴1	ヨコナゲ テヌリ 一ヌギナカ	ケズフ	ヨコナゲ ヘラナゲ	不明	17.9	29.4	—	2.2	C-15	67-8		
2	土師壺	壺	2層上	ヨコナゲ	ナア	ヨコナゲ 横掛有目あり	不明	19.3	23.2	6.6	1.2	1.2	C-23	67-10	

第25図 SI-2出土遺物実測図(4)

### SI-3 穫穴住居跡

【平面形・遺存状況・重複】北壁と住居跡の北東部は調査区外で不明であるが、検出した部分の平面形は整った方形を呈す。SD-3・11溝跡に切られる。

【規模・方向】南北軸長は4.1m以上、東西軸長は6.2m、面積24m<sup>2</sup>以上を計る。方向は、南壁がE-12°-N、西壁がN-17°-Wである。

【堆積土】住居廃絶後の堆積土は15~25cmほど残り、住居内の堆積土の大部分は黒褐色ないし暗褐色の砂質シルトである。

【壁・床面】壁はやや外傾して立ち上がる。床面は平坦で、住居のほぼ全面に貼床が認められる。貼床は暗褐色の砂質シルトで3~10cm前後の厚さである。

【柱穴】南壁の東と西の角で2基検出された。柱痕跡はなく、柱を抜き取った後に破損した土器を遺棄している。

【カマド】検出しなかった。

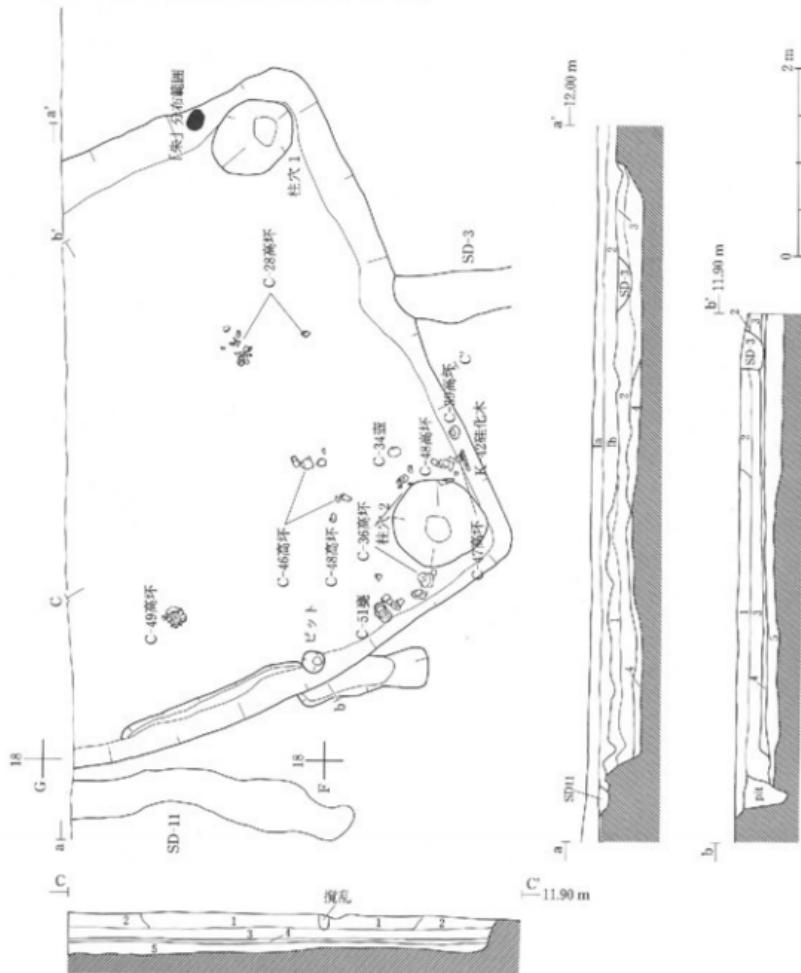
【周溝】西壁の中央部で全長2mを検出した。幅15cm、深さ2~5cmほどである。

【その他の施設】西壁の中央部でピットを1基検出している。

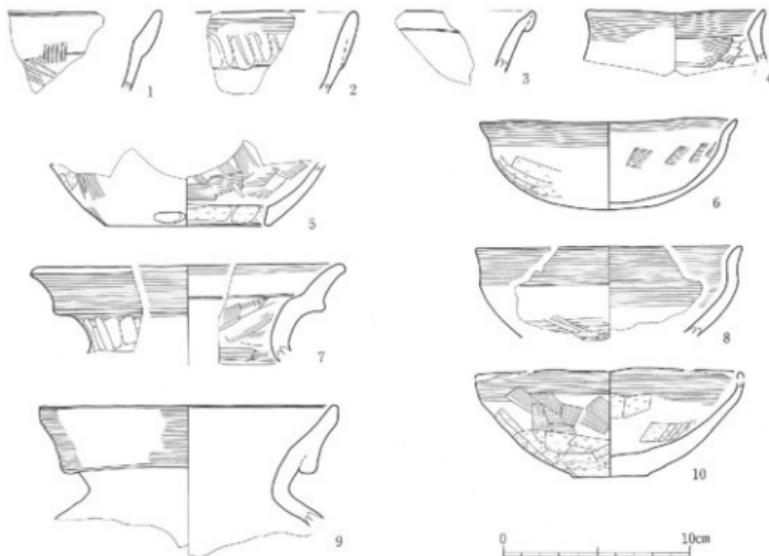
【住居掘り方】5~20cmの掘り方を住居の南半部で確認した。

【出土遺物】堆積上2層中から大量の土師器と弥生土器、土製品が出土している。弥生土器壺(B-14・16・33・36~38・40・42・54・60・90)、壺(B-34・39・43・47・48・65・89)、鉢(B-15・35・44・50・51・91・95)、蓋(B-56)、土師器の壺(C-31・32・61)、高壺(C-28・35~40・42・44・46~49)、壺(C-53~55・57・62)、壺(C-33・34・51・52・121)、鉢(C-64・65)、甑(C-58)、須恵器壺(E-22)、紡錘車(E-18)、土製品(P-3)、手づくね土器(P-4)、石製模造品(K-16・17)、石鎌(K-51)、磁石(K-54)がある。

層位 No.	上色	土質	その他の
I-a	10YR5/2-4/2 黄褐色	粘土質シルト	耕作土
I-b	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	遺物を少量含む
SI-3			
1	10YR5/1 黄褐色	粘土質シルト	黒褐色土をブロック状に含む
2	10YR5/3 黄褐色	粘土質シルト	黒褐色土をブロック状に含む
3	10YR5/4 新褐色	砂質シルト	黄褐色を含む。多くは鐵錆。
4	10YR5/4 黄褐色	砂質シルト	遺物、鉄錆、炭化物を含む。
5	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	発掘力強め方
ピット	10YR5/2 黑褐色	砂質シルト	褐色土が斑状に混入。
SD-3			
1	10YR5/1 黄褐色	シルト	に少い黄褐色が少量まじる

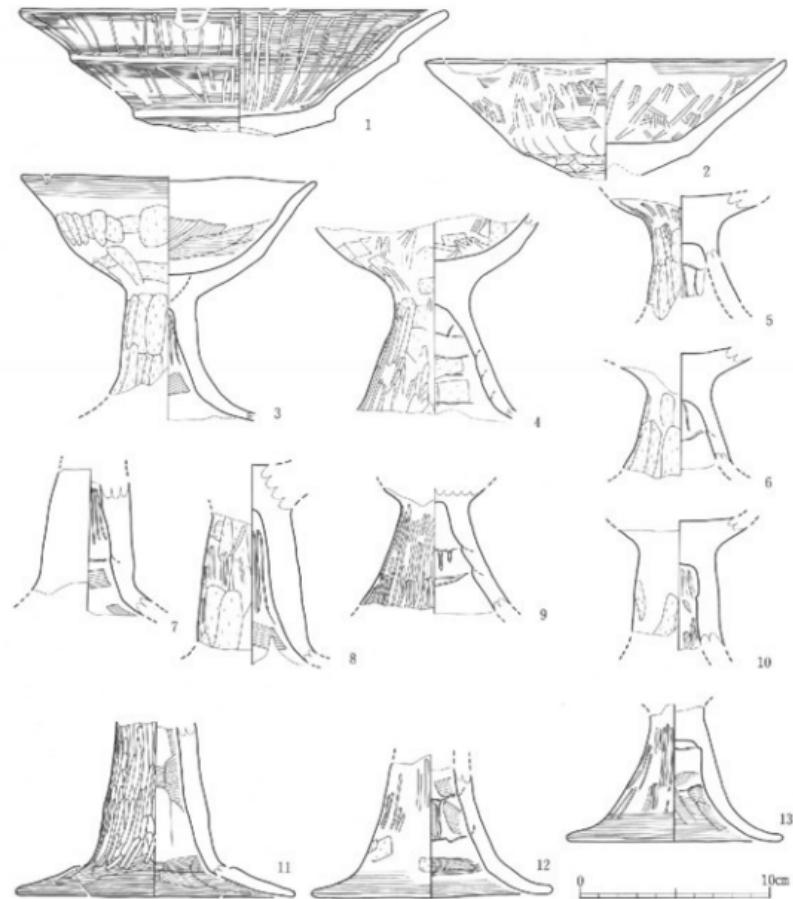


第26図 SI-3竪穴住居跡実測図



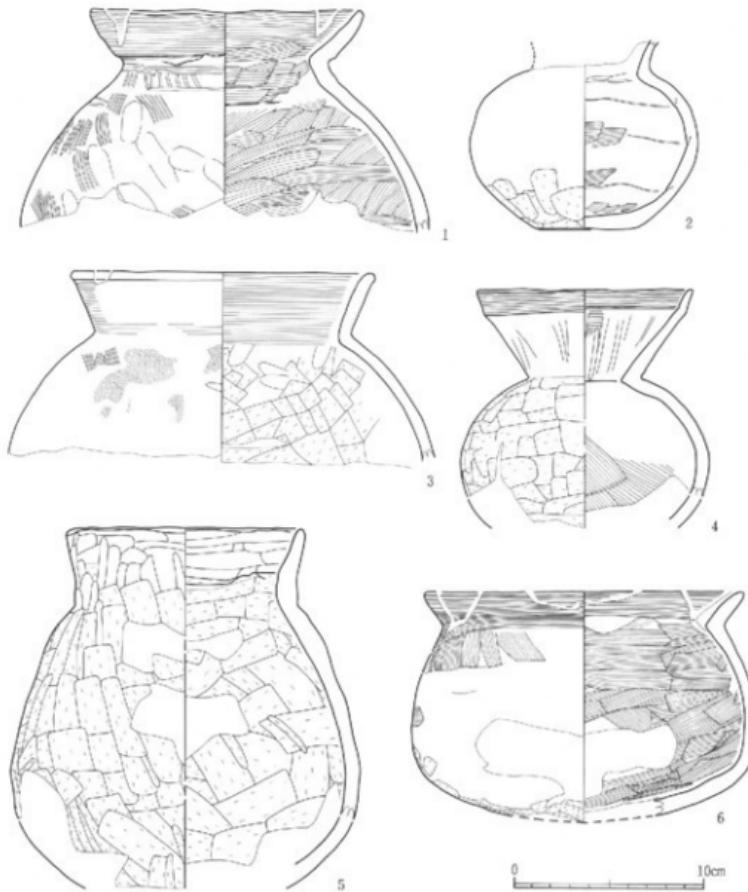
番号	種別	形状	置位	外側面観			内側面観			底面 (cm)			性質	登錄 No.	平面図解
				口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	口縫	裏面	周縁			
1	土器部	鉢?	内面	ハナメ	—	—	ハラナデ	—	—	4.5cm (縁部)	不規	不明	口縁部	C-65	77-1
2	土器部	鉢?	底面	折下端	ナマコナデ	—	ナマ	—	—	—	不規	不明	口縫部	C-64	77-2
3	土器部	甕(?)	2層	不明(内面に凹凸)	—	—	不明(唇縫により)	—	—	—	—	—	口縫部	C-121	77-5
4	土器部	甕	柱穴	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	7.5cm (縁部)	3.5cm	—	口縫部	C-02	60-1
5	土器部	甕	—	タヌリ -ハラナデ	ナマナデ	—	ハラナデ	タヌリ	—	—	4.5cm (縁部)	—	口縫部	C-38	—
6	土器部	片	2層	ヨコナデ	ハラタケスリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ハラナデ	—	13.5cm (縁部)	4.5cm	—	口縫部	C-05	71-2
7	土器部	甕	—	ヨコナデ	ナマ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	—	—	口縫部	C-55	71-19
8	土器部	片	—	ヨコナデ	ミガキ	—	ヨコナデ	—	—	13.5cm (縁部)	5.5cm	—	口縫部	C-61	—
9	土器部	甕	—	ヨコナデ	唇縫部不明	—	削り廻し唇縫のため不明	—	—	13.5cm (縁部)	5.5cm	—	口縫部	C-51	71-18
10	土器部	片	柱穴1	ヨコナデ	ハラナデ -ハラタケスリ	ハラタケスリ	ヨコナデ	ハラタケスリ	—	13.5cm (縁部)	5.5cm	4.2cm	口縫部	C-31	71-3

第27図 SI-3出土遺物実測図(1)



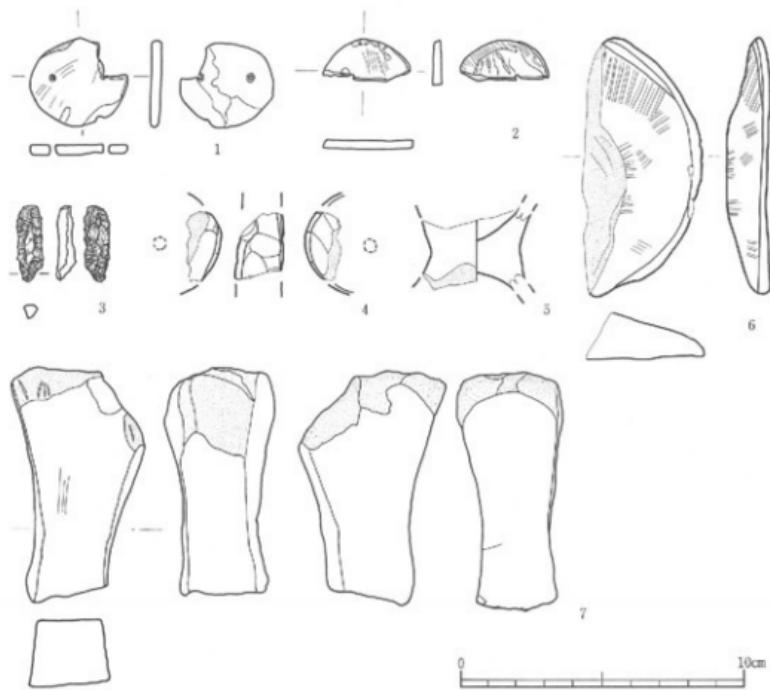
編 號	器 形	著 位	外 面 測 量			内 面 測 量			三 重 (cm)	残 存	登錄 No.	写真圖
			口 徑	体 形	底 部	口 徑	体 形	底 部				
1	土器碗 (深口)	—	口コナギー・ガキ ハラタガリ	ココナギー・ガキ ハラタガリ	—	22.7 cm	6.7 cm	不明	1/2	C-36	71-5	
2	土器碗 (深口)	—	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	19.7 cm	6.0 cm	—	—	C-49	71-6	
3	土器碗 (高口)	柱穴1	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-35	71-4	
4	土器碗 (高口)	柱穴2	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-37	71-7	
5	土器碗 (高口)	柱穴1	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-42	—	
6	土器碗 (高口)	—	ハラタガリ	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-47	71-11	
7	土器碗 (高口)	—	ハラタガリ	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-48	71-15	
8	土器碗 (高口)	二層	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-46	71-9	
9	土器碗 (高口)	—	ハラタガリ	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-29	71-10	
10	土器碗 (高口)	—	ハラタガリ	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-44	—	
11	土器碗 (高口)	柱穴1	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-10	71-12	
12	土器碗 (高口)	柱穴2	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-30	71-13	
13	土器碗 (高口)	柱穴1	ヨコナギー	ハラタガリ	ハラタガリ	15.6 cm	11 cm	—	—	C-38	71-14	

第28図 SI-3出土遺物実測図(2)



編號	種別	形狀	着位	外観調査			内部調査			測量(cm)			性 存	整 理 N	写真番 号
				口縁部	体 部	底 部	口縁部	体 部	底 部	口 縁	容 量	底 径			
1	土器類	壺		ヨコナデ	ハラカズリ	不明	ヨコナデ	ヘラナデ	平明	14.4cm	11.8cm	不明	横置上 横置下	C-54	66-6
2	土器類	小壺		不明	ハラカズリ	ハラカズリ	ハ ラ カ ナ デ	ハ ラ カ ナ デ	平明	10.4cm	9.5cm	5.3cm	横置上 横置下	C-34	71-17
3	土器類	壺	柱穴2	ヨコナデ	ハラカズリ	不明	ヨコナデ	ハラカズリ	平明	11.4cm	9.1cm	不明	横置上 横置下	C-57	66-4
4	土器類	小壺	3柱	ヨコナデ	ハラカズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	—	11.4cm	10.7cm	—	横置左 横置右	C-33	71-10
5	土器類	壺	柱穴2	ナデ	カズリ	—	ナデ	ケ ズ リ	—	12.4cm	10.2cm	—	1/2	C-59	66-8
6	土器類	壺		ヨコナデ	ヘラナデ	ハラカズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	—	16.7cm	13.3cm	—	1/2	C-53	66-7

第29図 SI-3出土遺物実測図(3)



遺物No.	種別	器形	層位	調査	法量(cm)	石材	残存	登録No.	写真図版
1	石製模造品	有孔円板	磨面	擦痕	長×幅 3.3×3.1 厚さ 3.5 孔径 0.1~0.15		一部欠	K-16	75-3
2	石製模造品	有孔円板		擦痕	長×幅 3.0×(1.5) 厚さ 3.0 (1.5)		1/2	K-17	75-9

遺物No.	種別	器形	層位	法量(cm)	石材	備考	登録No.	写真図版
3	石製品	石鏡	磨面	29×0.85×0.6		先端部欠	K-51	76-17
7	石製品	砾石	磨面	8.1×4.6×3.8			K-54	74-14

遺物No.	種別	器形	層位	外 周 測 量			内 周 測 量			寸 量(cm)			残存	登録No.	写真図版	
				口縫部	体 部	底 部	口縫部	体 部	高 部	口 縫	器 高	直 径				
4	圓底器	地盤車		—	—	—	ハラケズリ	—	—	(1.1) (1.2)	1.7	—	1/4	E-16	68-5	
5	三脚石	不明		—	—	—	手取	—	—	—	—	—	—	1/2	P-4	72-8
6	三脚品	不明	2層	(1.8)	(1.9)	(1.8)	(1.8)	(1.9)	1.4cm	—	—	—	—	1/2	P-3	—

第30図 SI-3出土遺物実測図(4)

### SI-5 積穴住居跡

【平面形・遺存状況・重複】調査区の南東角で住居の北東部を検出した。全体の規模・平面形は不明である。SI-6 積穴住居跡を切っている。

【規模・方向】検出した東壁の長さは2.9mで、方向はN-13°-Wである。

【堆積土】2層で、炭化物、焼土を含む、褐色ないし暗褐色の粘土質シルトである。

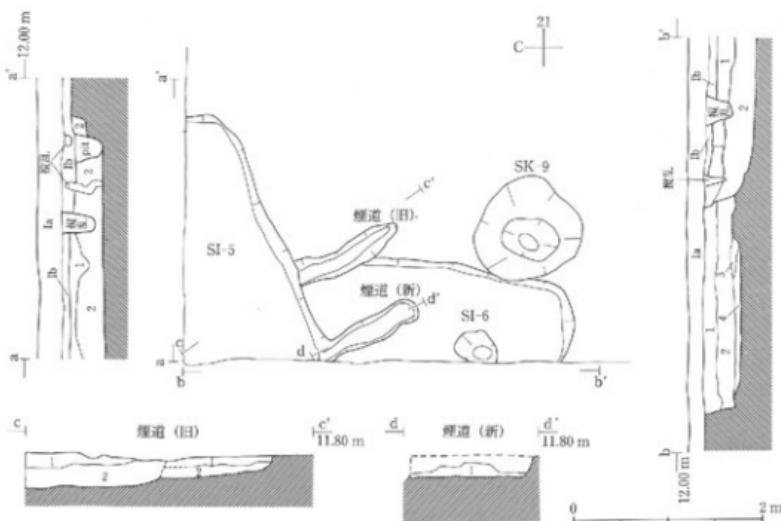
【壁・床面】壁は急に立ち上がる。床面は検出できなかったが、掘り方の底面は平坦である。

【柱穴】検出しなかった。

【カマド】東壁には2基の新旧煙道が認められたが、カマドは確認できなかった。

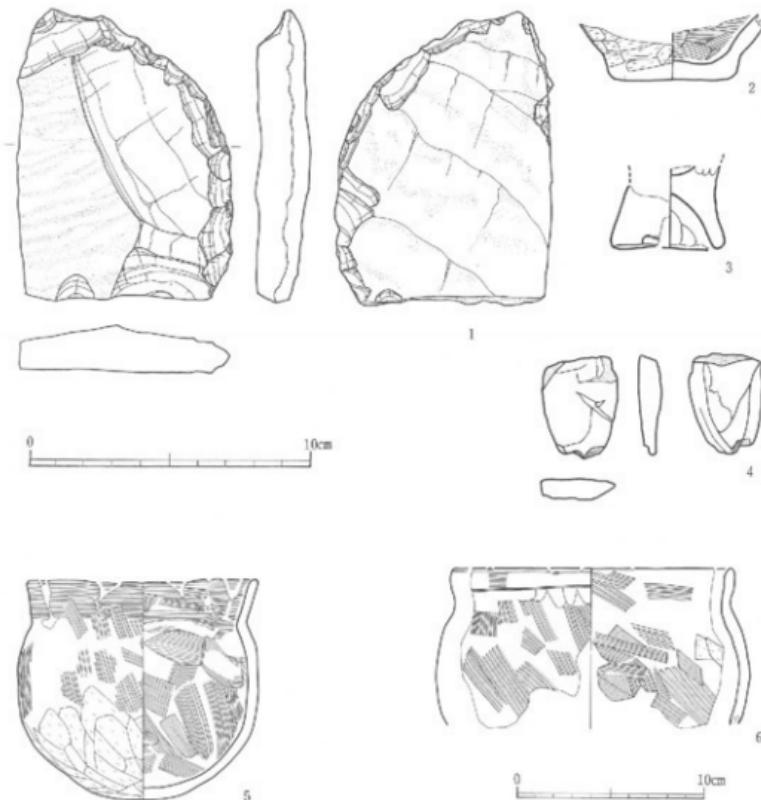
【周溝】検出しなかった。

【出土遺物】出土遺物はない。



層位No.	土色	土質	その他の
SI-5			
1 a	10YR3/2~4/7 茶褐色	耕作土	
1 b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土、炭化物を少量
1	10YR4/4 棕色	粘土質シルト	焼土、炭化物を含む
2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物、遺物を含む
煙道 1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	少量の焼土、炭化物を含む
2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土、炭化物を含む
SI-6			
1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	多量の炭化物と黄褐色の油山土を含む
3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	多量の焼土と少量の炭化物を含む
4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	

第31図 SI-5・6 積穴住居跡、SK-9 土坑実測図



遺物名	種 別	器 形	層 位	外 四 領 動			内 四 領 動			法 量 (cm)		残 存	登録No	写真図版
				口縫部	体 部	底 部	口縫部	体 形	底 部	口 縫 部	施 工 面	露 ほ		
2 土器型 槌				—	ハラケズリ	ハラケズリ	—	ハフナデ	—	—	G240	2.0	断面のみ	C-88 66-12
3 土器型 槌				クッタゲーナト	ハケメ	ヨシナゲーハナメ	ヨシナゲーハナメ	ハクメ	ハクメ	12.2	11.8	—	1/2	C-9 66-9
5 土器型 槌				ハラケズリ	ハケメ	—	ハケメ	ハラケズリ	—	(14.0)	(8.0)	—	1/4	C-8 66-10
3 木製品				断面が正しいチア私鉢あり	断面が正しいチア私鉢あり	断面が正しいチア私鉢あり	断面が正しいチア私鉢あり	断面が正しいチア私鉢あり	断面が正しいチア私鉢あり	3.9	3.0	—	既出のみ	F-1 66-13
遺物名	種 別	器 形	層 位	法 量 (cm)			石 材	圖 号			登録No	写真図版		
1 石器			Pit	10.3×7.5×1.8			安山岩	K-57			K-57	74-13		
遺物名	種 別	器 形	層 位	法 量 (cm)			石 材	残 存	登録No	写真図版				
4 石製模造品		剣型未脱島		長×幅×厚さ 3.5×2.6 0.75			—	2/3	K-18	76-12				

第32図 SI-6出土遺物実測図

### SI-6 穫穴住居跡

【平面形・遺存状況・重複】住居跡の北東部を検出しただけで、平面形は不明である。SI-5 穫穴住居跡に切られている。

【規模・方向】検出した北壁の長さは2.7mで、方向はE-3°-Nである。

【堆積土】暗褐色ないし黒褐色の粘土質シルトで、下層に大量の焼土と炭化物を含む。

【壁・床面】壁は急に立ち上がるが、床面は検出できなかった。

【柱穴】検出しなかった。

【カマド】検出しなかった。

【周溝】検出しなかった。

【出土遺物】弥生土器甕（B-26）、壺（B-27）、土師器甕（C-8・9・88）、手づくね土器（P-1）、石製模造品（K-18）、安山岩製大型石器（K-57）を出土している。

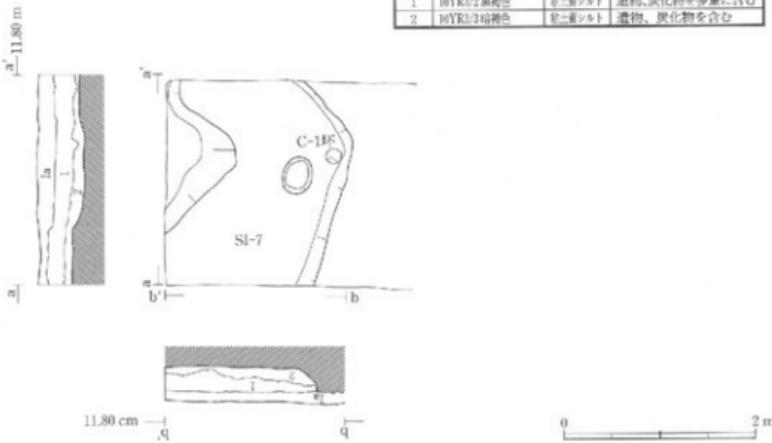
### SI-7 穫穴住居跡

【平面形・遺存状況・重複】調査区の北部で住居の東端を検出した。

【規模・方向】検出した南壁の長さは155cmで、方向はN-28°-Eである。

【堆積土】2層である。遺物、炭化物を含む黒褐色ないし暗褐色の粘土質シルトである。

層位%	土 色	土 質	そ の 他
1 a	10YR3/7-4/7 黒褐色		焼作土
SI-7			
1	10YR3/2 黒褐色	泥-質シルト	遺物、炭化物を多量に含む
2	10YR3/3 暗褐色	泥-質シルト	遺物、炭化物を含む



第33図 SI-7 穫穴住居跡実測図

【壁・床面】壁は、幾分緩やかに立ち上がる。床面は検出できなかった。

【柱穴】検出しなかった。

【カマド】検出しなかった。

【周溝】検出しなかった。

【出土遺物】赤彩された土師器の壺（C-1）、高壺（C-117）を出土している。

#### SI-8 竪穴住居跡

【平面形・遺存状況・重複】調査区の中央部、SI-2 竪穴住居跡に近接して、住居の南西部を検出した。

【規模・方向】検出した南壁の長さは1.7m、西壁は1.8mを計る。方向は、南壁がE-28°-N、西壁がN-32°-Wである。

【堆積土】1層は遺物を含む黒褐色粘土質シルトである。2層はにぶい黄褐色の砂質シルトで、底面には砂が多い。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がる。床面は検出できなかった。西側中央で10cmほどの深さに落ち込む窪みがある。

【柱穴】検出しなかった。

【カマド】検出しなかった。

【周溝】検出しなかった。

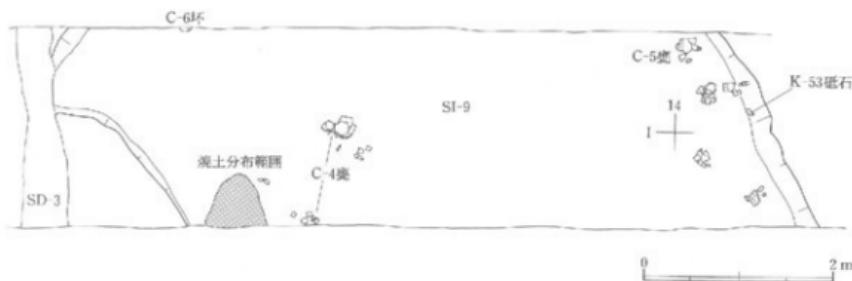
【出土遺物】石製模造品（K-19・37）を出土している。

#### SI-9 竪穴住居跡

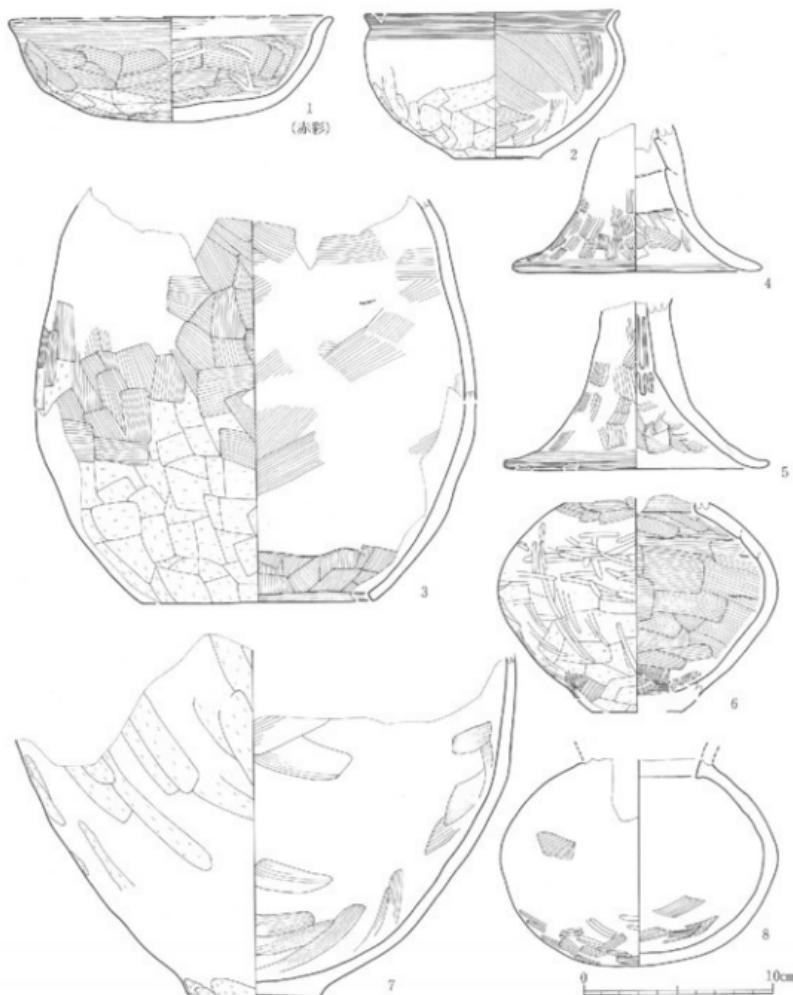
【平面形・遺存状況・重複】調査区の北部で住居の中央部を検出した。SD-3・4 溝跡に切られる。

【規模・方向】検出した東壁の長さは1.8m、西壁のは2.7mを計る。方向は、東壁がN-16°-W、西壁がN-13°-Wである。

【堆積土】遺物、炭化物を含む黄褐色砂質シルトの単層である。



第34図 SI-9竪穴住居跡実測図



番号	種別	形	施	外観観察			内面調査			寸法(cm)	性質	登録番号	参考文献			
				口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部							
1	土器	杯	SI-7	口コナフ	ハラナフ	ハラナフ	口三才戸	ハラトゾミガタ	17.4cm	5.6cm	実物	C-1	66-31			
2	土器	杯	SI-9	ココナフ	ハラケズリ	ココナフ	ハラナフ	ハラナフ	13.4cm	7.9cm	1.5cm	同上	C-6	—		
3	土器	杯	SI-9	—	ハラナフ	ハラナフ	ナザ	ナザ	—	22.5cm	10.5cm	13.1cm	同上	C-7	66-18	
4	土器	杯	SI-9	—	(モザイク)	ハラナフ	—	(モザイク)	—	—	—	—	同上	C-2	66-15	
5	土器	杯	SI-9	—	(モザイク)	ハラナフ	—	(モザイク)	—	—	—	—	同上	C-3	66-16	
6	土器	小盤	SI-9	—	リニア	リニア	リニア	リニア	リニア	9.5cm	14.1cm	13.1cm	同上	C-24	66-20	
7	土器	盆	SI-9	—	リニア	リニア	リニア	リニア	リニア	11.5cm	8.4cm	2.2cm	同上	C-4	66-19	
8	土器	小皿	SI-9	—	ハラナフ	ハラナフ	—	ハラナフ	ナザ	—	13.4cm	6.9cm	0.8cm	同上	C-10	66-17

第35図 SI-7・8・9出土遺物実測図(1)

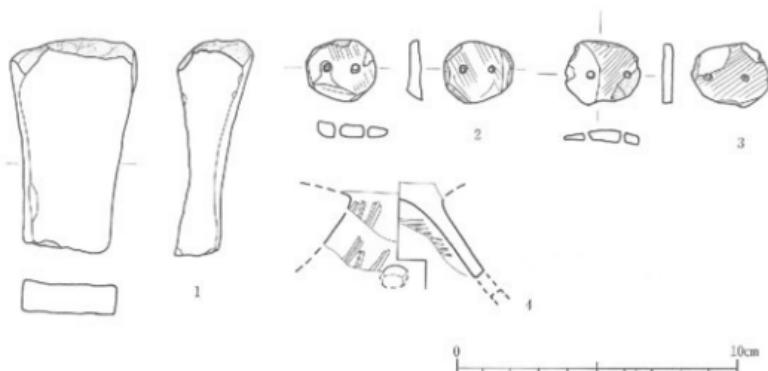
【壁・床面】4~6 cm ほどの高さの壁で、床面は平坦である。

【柱穴】検出しなかった。

【カマド】検出しなかったが、西壁に接して径60~80cmの範囲で焼土がまとまって検出される部分があり、近くにカマドが存在するものと考えられる。

【周溝】検出しなかった。

【出土遺物】弥生土器壺 (B-66)、壺 (B-88)、土師器の壺 (C-6)、高壺 (C-2・3)、甕 (C-4)、壺 (C-24・50)、鏡 (C-75)、磁石 (K-53) を出土している。



遺物No	種別	器形	遺構	法 直(cm)	石材	備考	登録No	写真図版		
1	石製品	磁石	SI-9	7.5×4.3×3.7			K-53	74-15		
遺物No	種別	器形	遺構	測 定	法 直(cm)	石材	残 有	登録No	写真図版	
2	石製陶造品	有孔円板	SI-8	長×短 約2.4×2.2	0.4	0.2~0.3	完形	K-37	75-10	
3	石製陶造品	有孔円板	SI-8	幅 約2.7×2.3	0.4	0.2~0.25	一部欠	K-19	75-2	
遺物No	種別	器形	遺構	外 形 测 定	内 部 测 定	法 直(cm)	残 有	登録No	写真図版	
4	土解剖	柱穴	SI-7	口径 約3.5cm	体 壁 約3.5cm	云 量 約3.5cm	口部壁 体 壁 地 面 口部壁 云 量 地 面 径 (3.5)	SI-7	C-117	65-11

第36図 SI-7・8・9出土遺物実測図(2)

## 6. 穫穴遺構

### SI-1 穫穴遺構

【平面形・遺存状況・重複】調査区の東部で検出した。検出部分は半円形を呈す。SB-1 摺立柱建物跡を切り、SK-2・3・5 土坑に切られている。

【規模・方向】南北軸長は16m以上、東西軸長は11m以上を計る。

【堆積土】黒色ないし黒褐色粘土質シルトの2層からなる。

【壁・底面】深さ10cmほどで、底面は平坦であるが、調査区北東角付近では1b層の落ち込みが深くなり、確認できない。

【出土遺物】弥生土器鉢（B-12・13）、軒平瓦の破片（G-13・14）、青磁（J-1・3）、手づくね土器（P-7）、石製模造品（K-1～4・20）を出土している。

### SI-4 穫穴遺構

【平面形・遺存状況・重複】調査区の東側南辺部で検出した。平面形は隅丸方形を呈す。SD-23 溝跡を切る。

【規模・方向】南北軸長は3.3m以上、東西軸長は2.0m、面積6.6m<sup>2</sup>以上を計る。方向は、南北軸がN-20°-Eほどである。

【堆積土】黒褐色の粘土質シルトである。

【壁・底面】壁は急に立ち上がり、深さは10cmほどである。底面はほぼ平坦である。

【柱穴】数基のピットがみられるが、関係は不明である。

【出土遺物】青磁皿（J-2）を出土している。

### SI-10 穫穴遺構

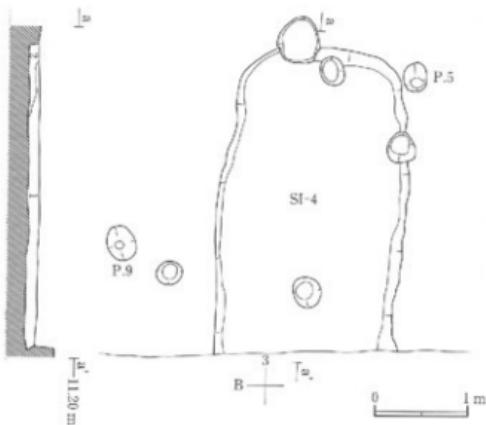
【平面形・遺存状況・重複】調査区の東部、SI-1 穫穴遺構の底面で検出した。L字形の段差を呈す。SD-13・14・15・18・19・20 溝跡、SK-3 土坑に切られている。

【規模・方向】南北長は9.0m、東西長は5.7m以上を計る。

【堆積土】褐色粘土質シルトの2層からなる。

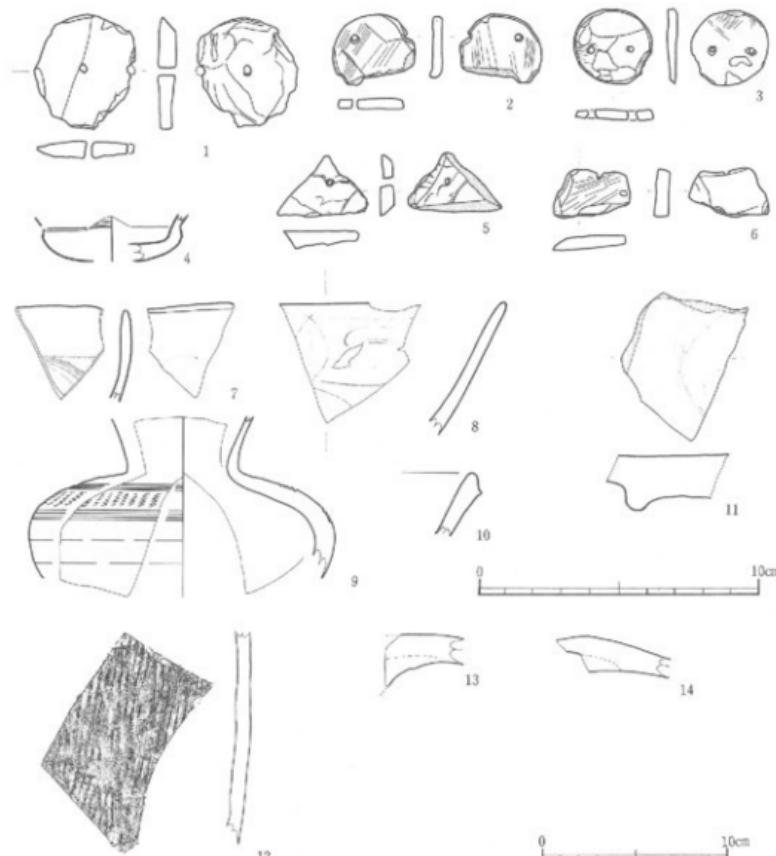
【壁・底面】深さ5～15cmほどの段差で、底面は平坦であるが、南東部付近では凹凸が大きくなる。

【出土遺物】須恵器甌（E-5）、壺（E-6・17）を出土している。



測定No	土色	土質	その他の
SI-4			
1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土が斑状にまじる
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土が斑状にまじる。酸化鉄まじり

第37図 SI-4竪穴遺構跡実測図



遺物名	種別	器形	層位	測量	法 直 (cm)			石材	残存	登録No	写真図版
					長×幅	厚さ	孔 径				
1	石製板造品	有孔円板	SI-1 2層		3.9×3.3	0.6	0.3			K-3	75-13
2	石製板造品	有孔円板	SI-1 1層 推測		2.8×(2.3)	0.3	0.1		2/3	K-20	75-6
3	石製板造品	有孔円板	SI-1 推測		2.7×2.6	0.3	0.2		一部欠	K-1	75-1
5	石製板造品	(有孔円板)	SI-1		(3.0)×(2.1)	0.5	0.23		1/4	K-2	75-18
6	石製板造品	(有孔円板)	SI-1 1層		(2.7)×(7.6)	0.4	0.15			K-4	75-19

遺物名	種別	器形	層位	口径	底径	高さ	色 調	文様・特徴	施毛	年代	登録No	写真図版
7	青磁盤	楕	SI-1 2層	—	—	—	10Y7/2灰白色	表面は無花文、裏面は無花文	施毛無	J-1	73-7	
8	青磁盤	楕	SI-1 1層	—	—	—	5G-Y6/1緑灰色	表面は無花文、裏面は無花文	施毛無	J-3	73-9	
11	青磁盤	楕	SI-4 P1	—	—	—	10Y7/2灰白色	内面に刷毛文	施毛無	J-9	73-8	

遺物名	種別	器形	層位	外 因 素			内 因 素			法 直 (cm)	残 存	登録No	写真図版
				口縁部	体 部	底 部	口縁部	体 部	底 部				
4	土器品	市	SI-1	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	1/3	P-7
9	家應器	鍋	SI-10 E5	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	E-5	75-14
10	家應器	鍋7	SI-10	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	1/3-1	E-6
12	前輪	車	SI-10	平行車き当付	—	—	トゲケシ	—	—	—	—	E-17	75-18

遺物名	種別	器形	層位	特 性		登録No	写真図版
				凸	凹		
13	瓦	軒平瓦	SI-1 E5	ナデ	ナデ	G-14	74-9
14	瓦	軒平瓦	SI-1 E5	ナデ	ナデ	G-13	74-8

第38図 SI-1・4・10出土遺物実測図

## 7. 土坑

### SK-1 土坑

調査区の北西部で一部が検出された。平面形は不整円形を呈し、長軸270cm、短軸88cm以上、深さ44cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は3層の黒褐色ないし暗褐色粘土質シルトからなり、底面は砂層である。土師器高坏（C-98）、壺（C-97）が出土している。

### SK-2 土坑

調査区の北東部、SI-1 竪穴遺構の底面で一部を検出した。平面形は半円形を呈し、長軸116cm、短軸52cm以上、深さ44cmを計る。断面形は台形を呈し、堆積土は3層の黒褐色粘土質シルトで、1層は大量の黄褐色土を斑状に含み、底面には酸化鉄層の集積がみられる。SD-9溝跡を切っている。出土遺物はない。

### SK-3 土坑

調査区の東辺で一部を検出した。平面形は円形を呈し、直径44cm以上、深さ30cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は2層からなる。SI-1・10 竪穴遺構を切っている。出土遺物はない。

### SK-4 土坑

調査区中央やや東側で検出した。平面形は略円形を呈し、直径96～114cm、深さ22cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は2層からなる。土師器壺（C-102）を出土している。

### SK-5 土坑

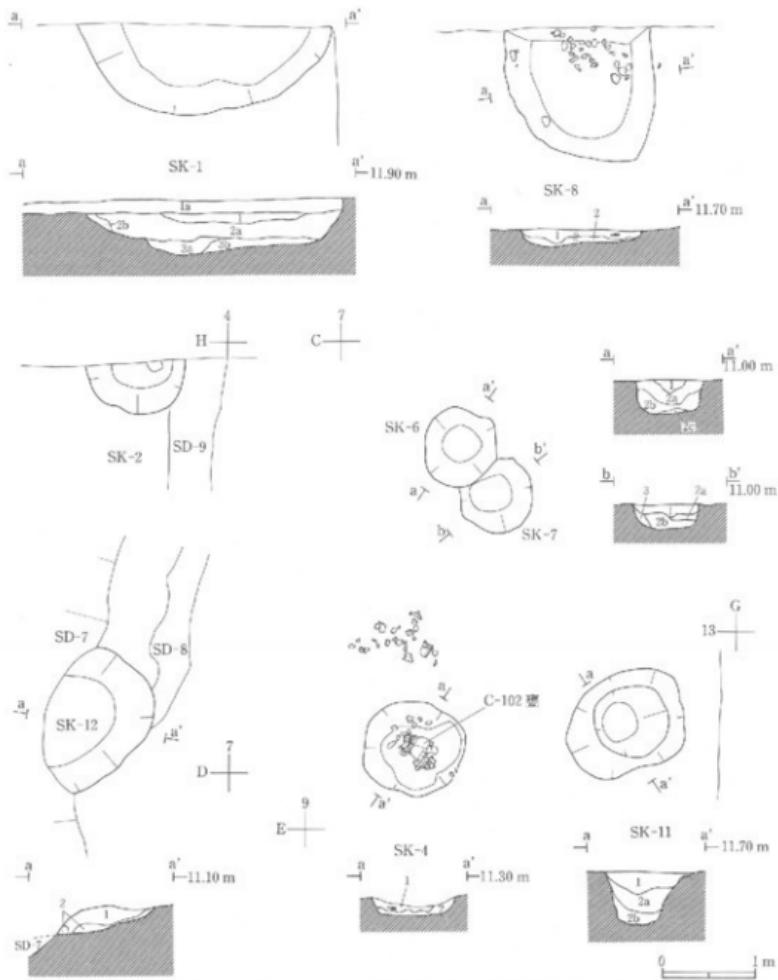
調査区東部で検出した。平面形は不整円形を呈し、長軸294cm、短軸232cm、深さ68cmを計る。断面形は台形を呈し、堆積土は4層からなり、上部は褐色粘土質シルトで黒褐色土を斑状に含み、底部では黒褐色土と黄褐色土が縞状の互層をなしている。SI-1 竪穴遺構・SD-9・12 溝跡を切っている。土師器壺（C-95・96）、磁器碗（J-5）を出土している。

### SK-6 土坑

調査区東部で検出した。平面形は不整円形を呈し、直径は76～88cm、深さ39cmを計る。断面形は台形を呈し、堆積土は黒褐色ないし暗褐色粘土質シルトで2層からなる。SK-7 土坑を切っている。出土遺物はない。

### SK-7 土坑

調査区東部で検出した。平面形は略円形を呈し、直径は80cm、深さ34cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は3層からなり、褐色粘土質シルトを主体とし、炭化物や焼土を多く含む。SK-6 土坑に切られる。出土遺物はない。



### **SK-8 土坑**

調査区中央南辺で一部を検出した。平面形は不整梢円形を呈し、軸長は140～150cm、深さ22cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は2層からなり、暗褐色ないし黒褐色の砂質シルトである。弥生土器甕（B-11・23）、土師器高坏（C-94・99）を出土している。

### **SK-9 土坑**

調査区南西角で検出した。平面形は不整円形を呈し、直径は96～116cm、深さ44cmを計る。断面形は堀り鉢形を呈し、堆積土は黒褐色粘土質シルトで、焼土や炭化物を多く含む。弥生土器甕（B-5・8・45・52・85）、壺（B-7・9・10）、鉢（B-1～3・6・53・64）、高坏（B-4）、土師器甕（C-122）、石器（K-46）を出土している。

### **SK-11 土坑**

調査区中央北辺で出土した。平面形は不整梢円形を呈し、長軸140cm、短軸100cm、深さ60cmを計る。断面形は台形を呈し、堆積土はにぶい黄褐色ないし黒褐色の砂質シルトである。土師器甕（C-124）を出土している。

### **SK-12 土坑**

調査区の東部で検出した。平面形は不整円形を呈し、長軸160cm、短軸102cm、深さ32cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は暗褐色砂質シルトで焼土や炭化物を含む。SK-8を切り、SD-7に切られる。出土遺物はない。

### **SK-13 土坑**

調査区の西側北辺で一部を検出した。平面形は半円形を見し、直径は90cmほどで、深さ10cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は単層の褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

### **SK-14 土坑**

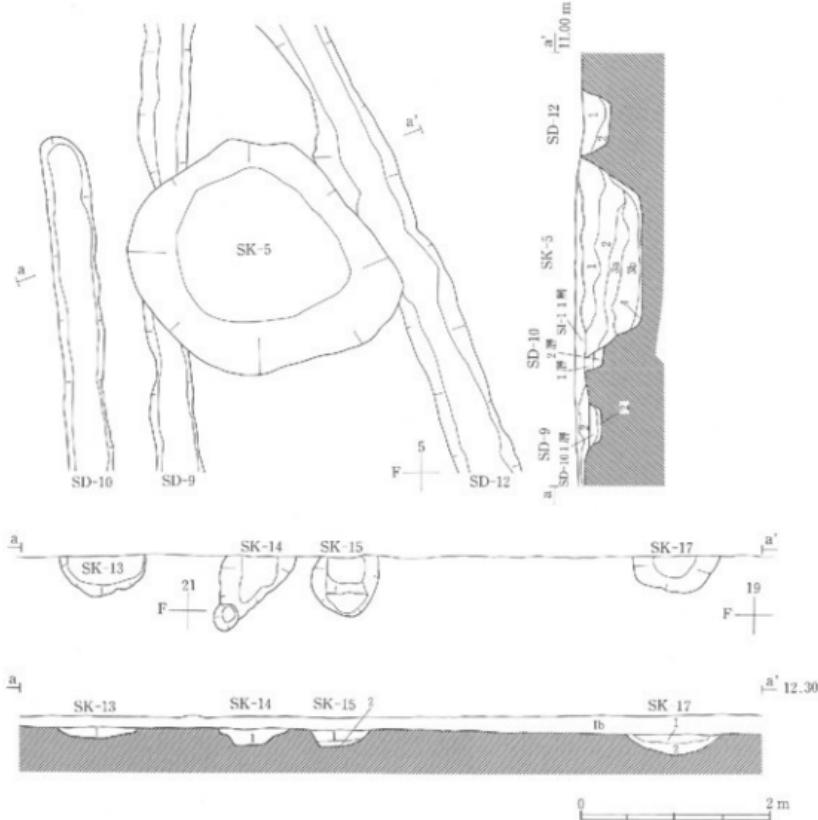
調査区の西側北辺で一部を検出した。平面形は不整形を呈し、長軸94cm以上、短軸60cm、深さ20cmを計る。断面形は舟底形を見し、堆積土は単層の褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

### **SK-15 土坑**

調査区の西側北辺で一部を検出した。平面形は不整円形を呈し、直径は66cmほどで、深さ18cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は2層の暗褐色ないし褐色粘土質シルトである。ロクロ土師器坏（D-19）が出土している。

### **SK-16 土坑**

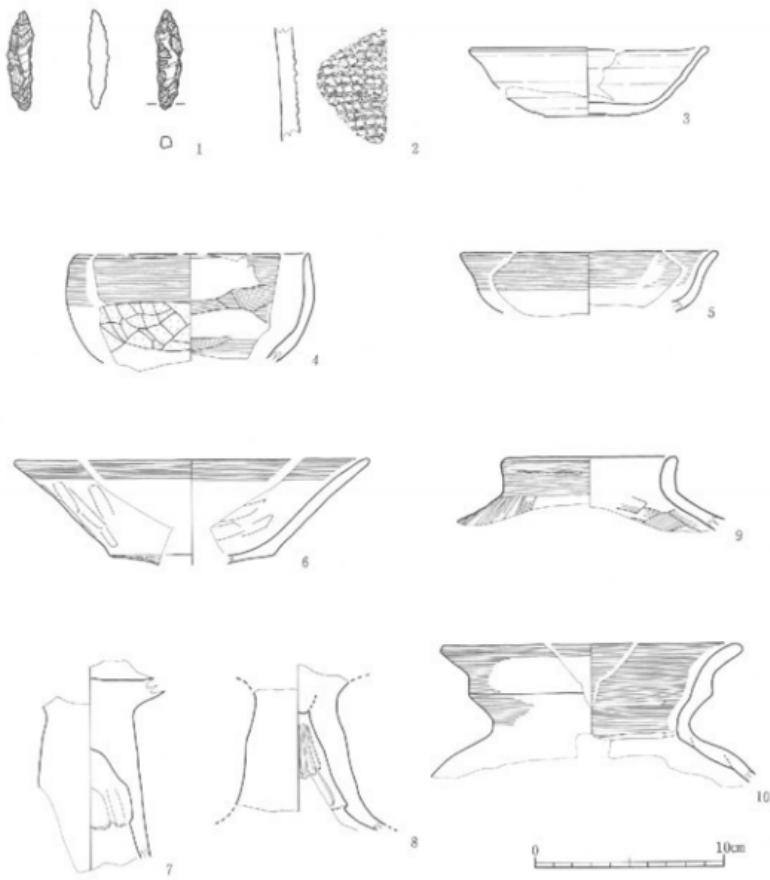
調査区の中央北辺で一部を検出した。平面形は不整形を呈し、長軸は180cmほどで、深さ32cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は黒褐色粘土質シルトとにぶい黄褐色砂質シルトからなる。SI-2 穴住居跡を切っている。出土遺物はない。



部位 No.	土 色	土 质	その 他
1 b	10YR6/2 黄褐色	粘土	
SK-5			
1	10YR6/5 黄色	粘土質シルト	薄褐色の土質シルト。無機物質不純物を含む。
2	10YR6/6 黄色	粘土質シルト	薄褐色の土質シルト。無機物質不純物を含む。
3a	10YR6/5 黄褐色	粘土質シルト	薄褐色の土質シルト。無機物質不純物を含む。
3b	10YR6/5 黄褐色	粘土質シルト	薄褐色の土質シルト。無機物質不純物を含む。
4	5 YR6/2 黄オーブ	粘土	薄褐色の土質シルト。無機物質不純物を含む。

部位 No.	土 色	土 质	その 他
SK-17			
1	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	炭化鉄、炭土、骨片を多く含む。
2	10YR4/4 黄色	砂質シルト	炭化鉄、骨片を含む。
SD-1			
1	10YR6/6 黄褐色	シルト	酸化鉄、マンガン鉱を多く含む。
2	10YR4/4 黄色	粘土質シルト	黄褐色上の鉄を下層に含む。
SD-9			
1	10YR6/6 黄褐色	粘土質シルト	マンガン鉱を多く含む。
2	10YR4/4 黄色	粘土質シルト	天白色火山灰をわずかに含む。
SD-10			
1	10YR6/8 黄褐色	粘土質シルト	無機物質シルトを含む。
2	10YR4/4 黄色	粘土質シルト	天白色火山灰を含む。
SD-12			
1	10YR6/2 黄褐色	粘土質シルト	天白色火山灰を含む。
2	10YR4/4 黄色	粘土質シルト	黄褐色シルトを多く含む。

第40図 土坑実測図(2)



第41図 SK-1・5・8・9・11・15出土遺物実測図

遺物No	種類	基形	部位	外側測量			内側測量			寸法(cm)			残存	登録No	参考文献
				口幅	体部	底	口幅	体部	底	口幅	底面	底径			
1	石製品	石器	SK-9	3.5±0.5±0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	小切片	C-124	60-10
2	土器物	瓶	SK-11	—	磨子テキ	—	—	—	—	—	—	—	K-46	76-15	
3	土器物	盆	SK-15	口	ク	ロ	ロ	ク	ロ	(12.50)	(3.4-3.7)4.45-4.6	1/2	D-19	60-1	
4	土器物	盆	SK-5	ヨコナメ	ヘラケツフ	—	ヨコナメ	ヘラケツフ	—	(6.5)	6.2~	—	C-58	60-2	
5	土器物	盆	SK-5	ヨコナメ	ヨコナメ	—	ヨコナメ	ヨコナメ	—	(13.0)	3.4~	—	C-59	60-8	
6	土器物	盆	SK-5	ヨコナメ	ヨコナメ	—	ヨコナメ	不規	—	(18.8)	9.8~	—	C-59	60-9	
7	土器物	高脚	SK-5	—	不明	—	—	—	—	—	—	—	脚部2/3	C-61	60-22
8	土器物	高坪	SK-1	—	不明	—	—	—	—	—	—	—	脚部3/4	C-58	60-1
9	土器物	便	SK-9	ノゾマツ	—	毛毛豆	—	ヘラナメ	—	(9.4)	—	—	1/4	C-122	60-3
10	土器物	盆	SK-1	ヨコナメ	ヨコナメ	—	ヨコナメ	ヨコナメ	—	(15.8)	—	—	1/4	C-92	60-4

### SK-17 土坑

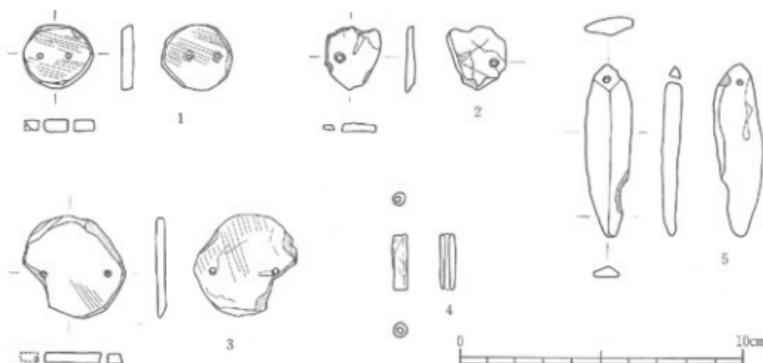
調査区の西側北辺で一部を検出した。平面形は不整形を呈し、直径は66cmほどで、深さ24cmを計る。断面形は舟底形を呈し、堆積土は褐色ないし暗褐色の砂質シルトで、炭化物や焼土、骨片を含む。出土遺物はない。

### 8. 性格不明遺構

#### SX-1 性格不明遺構

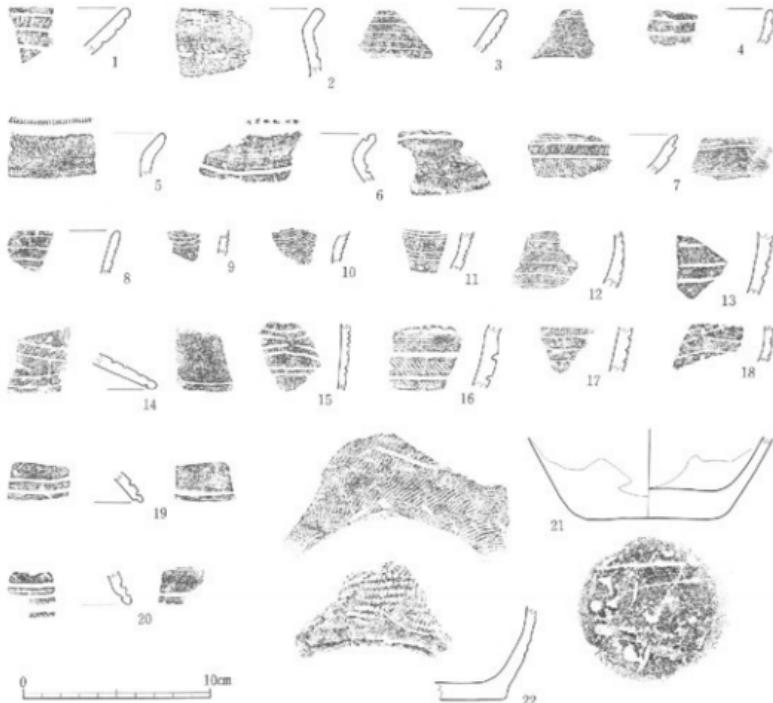
調査区東側で検出した。SD-23 溝跡が北から流れ込み、屈曲して南へ流出する。上端幅が5~6mに広がった南西角の部分で、底面は凹凸が著しく、酸化鉄が固く集積している。深さは均一でなく15~35cmを計る。堆積土1・2層の灰褐色粘土層に遺物を大量に含んでいる。

出土遺物には、弥生土器壺（B-68）、管玉（K-29）、石製模造品（K-26・27・39）がある。



遺物 No	種別	概形	時代	調査	寸法 (cm)			石材	性質	番号	写真回数
					長×幅	厚さ	孔径				
1	石製模造品	舟丸刀鋸	1期	照葉	2.5×2.2	0.4	0.15	電鋸	K-29	25-4	
2	石製模造品	舟丸刀鋸		照葉	0.9×1.9	0.3	0.2	G29	K-27	25-17	
3	石製模造品	舟丸刀鋸		照葉	3.6×3.4	0.3	0.15~0.2	電鋸	K-25	25-14	
4	石製模造品	管玉			2.0×0.5	0.15~0.2	0.2	電鋸	K-29	26-2	
5	石製模造品	舟丸刀鋸			6.1×2.1	0.6	0.25	電鋸	K-39	26-7	

第42図 SX-1出土遺物実測図



編 號	直 徑	肚 調	底 形	部 位	施灰・調整		商 号	寫真 No.	施灰・調整		商 号	寫真 No.
					外 面	内 面			外 面	内 面		
1	B-13	SD-1	深	口縫部	粗圓灰，無			77-1				
2	B-69	SD-7	腹	口縫部	乙狀，斜橫灰 -1.5%			77-2				
3	B-27	SD-2	腹	口縫部	甲狀E-L灰	無E,L		77-3				
4	B-29	SD-2	深	口縫部	粗圓灰，無			77-4				
5	B-96	SD-26	腹	口縫部	180°切削，無			77-5				
6	B-67	SD-2	腹	口縫部	粗圓灰，無	無E,L		77-6				
7	B-24	SD-2	深	口縫部	粗圓灰，無	無E,L		77-7				
8	B-93	SD-5	深	口縫部	180°切削+L灰 E	無E		77-8				
9	B-13	SD-1	腹	口縫	粗E-L灰			77-9				
10	B-23	SD-2	腹	肚	直圓灰+L灰			77-10				
11	B-62	SD-6	腹	口縫	直圓灰+L灰	無E,L		77-11				
12	B-81	SD-2	腹	口縫	180°切削+L灰 E	無E,L		77-12				

第43図 弥生土器実測図(1)

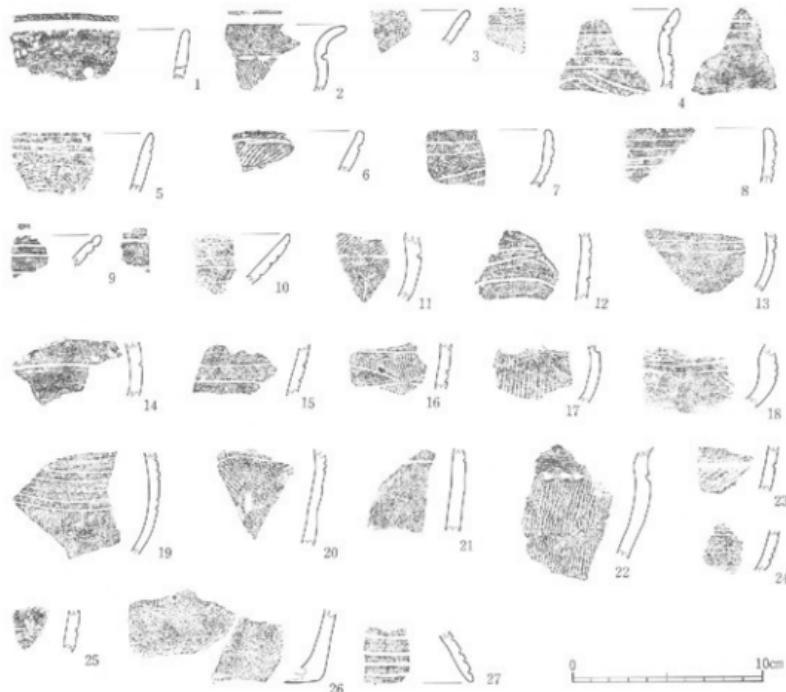


圖 號	出 處	出 土 地 點	層 位	形 狀	測文・測量		備 考	寫真 No.
					外 面	內 面		
1	B-33	SI-01	新瀬	變	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-38	
2	B-37	SI-01	新瀬	變	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-21	
3	B-50	SI-01	變?	口部?	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-22		
4	B-38	SI-01	新瀬	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-31		
5	B-39	SI-01	新瀬	變?	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-23	
6	B-35	SI-01	新瀬	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-24		
7	B-31	SI-01	新瀬	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-25		
8	B-05	SI-01	新瀬	變	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-36	
9	B-44	SI-01	新瀬	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-27		
10	B-15	SI-01	新瀬	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-28		
11	B-34	SI-01	新瀬	體部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-29		
12	B-54	SI-01	新瀬	體部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-30		
13	B-03	SI-01	新瀬	變?	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-35	
14	B-48	SI-01	新瀬	變?	口部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-37	

圖 號	出 處	出 土 地 點	層 位	形 狀	測文・測量		備 考	寫真 No.
					外 面	內 面		
15	B-36	SI-01	新瀬	變	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-39	
16	B-06	SI-01	新瀬	體部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-38	
17	B-14	SI-01	新瀬	體部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-39	
18	B-89	SI-01	新瀬	體部	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-40	
19	B-47	SI-01	新瀬	變	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-32	
20	B-05	SI-01	新瀬	變	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-33	
21	B-90	SI-01	新瀬	變?	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-34	
22	B-42	SI-01	新瀬	變	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-35	
23	B-49	SI-01	新瀬	變?	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-42	
24	B-31	SI-01	新瀬	變?	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-43	
25	B-36	SI-01	新瀬	變?	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-49	
26	B-09	SI-01	新瀬	變	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-39	
27	B-56	SI-01	新瀬	變	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	1.05×0.45cm 1.05×0.45cm	77-50	

第44図 弥生土器実測図(2)

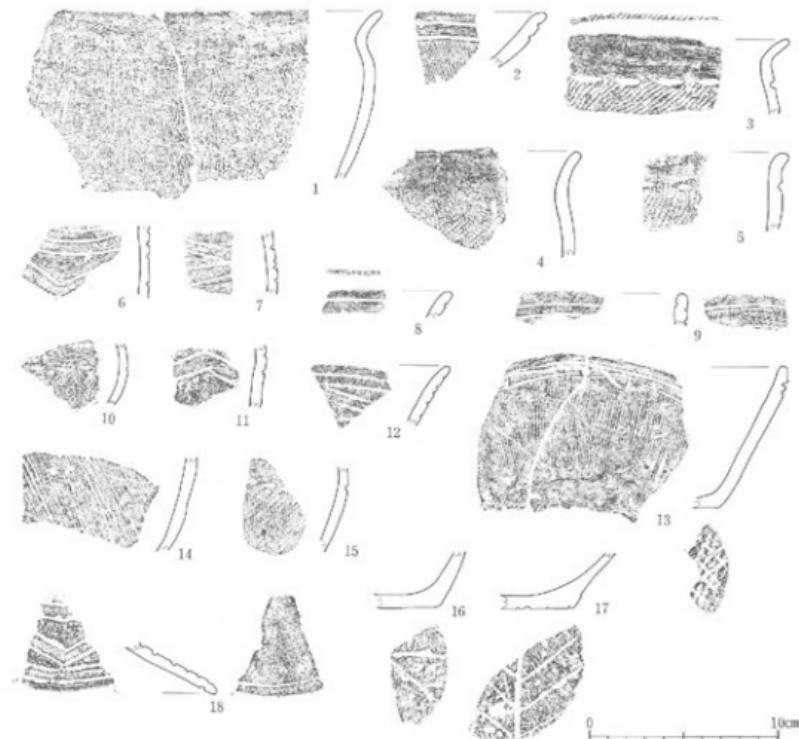


図 番 号	立地	出土地	層位	形態	部位	範文・説明		備考	写真 No.
						外 面	内 面		
1	B-52	SK-9	裏	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁				78-28
2	B-5	SK-9	裏?	口縁	口縁	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁		77-44
3	B-23	SK-9	1層	裏	口縁 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁	1.ガラ	78-32
4	B-11	SK-9	裏	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁		78-34
5	B-45	SK-9	裏	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁	1.ガラ	77-45
6	B-7	SK-9	裏	口縁	口縁	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縁		77-46
7	B-9	SK-9	裏	体部	体部	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縫		77-43
8	B-53	SK-9	裏?	口縁	口縁	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縫	1.ガラ	77-50
9	B-44	SK-9	裏?	口縁	口縁	口縁一側面 (裏:三重輪 縁:二重輪)	口縫		77-32
10	B-8	SK-9	裏	体部	体部	口縫	口縫		77-47
11	B-10	SK-9	裏?	体部	体部	口縫	口縫	1.ガラ	77-48
12	B-68	SK-41	裏?	口縁部	口縁部	口縫	口縫		77-53

図 番 号	立地	出土地	層位	形態	部位	範文・説明		備考	写真 No.
						外 面	内 面		
13	B-3	SK-9	裏?	口縫	口縫	口縫	口縫	1.ガラ	78-30
14	B-5	SK-9	裏?	体部	体部	口縫	口縫	1.ガラ	78-38
15	B-55	SK-9	裏	体部	体部	口縫	口縫		77-54
16	B-1	SK-9	裏?	口縫	口縫	口縫	口縫	1.ガラ	78-35
17	B-2	SK-9	裏?	体部	体部	口縫	口縫	1.ガラ	78-49
18	B-4	SK-9	高砂	体部	体部	口縫	口縫	1.ガラ	77-53

第45図 弥生土器実測図(3)

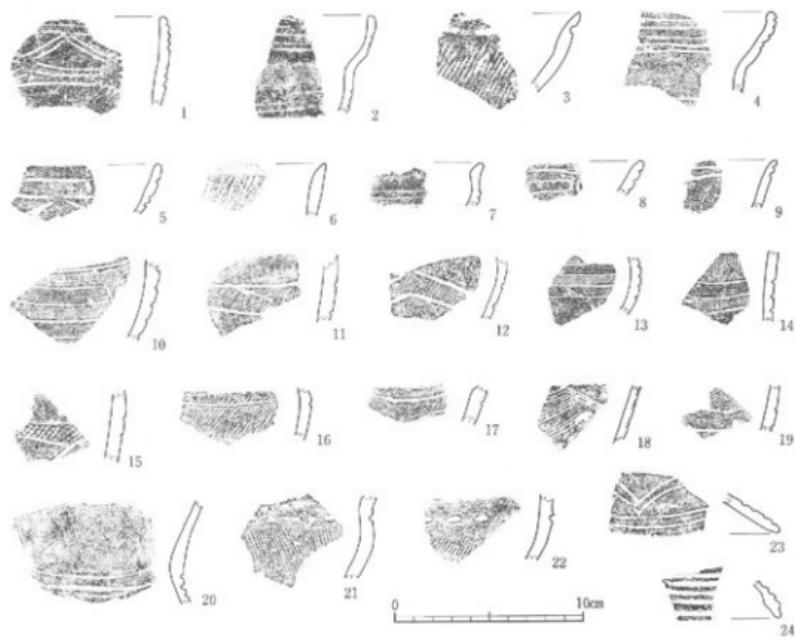


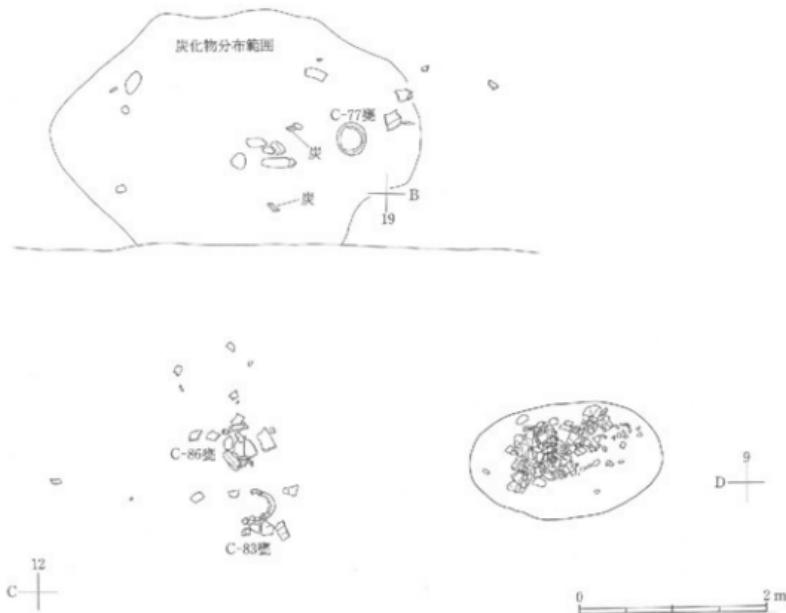
图 号	器 物	形 状	器 类	部 位	施文・刻绘		编 号	写真 No.
					外 面	内 面		
1	B-17	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-1	
2	B-72	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-2	
3	B-77	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-3	
4	B-24	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-4	
5	B-33	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-5	
6	B-78	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-7	
7	B-80	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-8	
8	B-47	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-9	
9	B-97	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-10	
10	B-71	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-11	
11	B-75	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-12	
12	B-30	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-14	
图 号	器 物	形 状	器 类	部 位	施文・刻绘		编 号	写真 No.
					外 面	内 面		
13	B-18	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-16	
14	B-22	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-17	
15	B-88	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-18	
16	B-94	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-19	
17	B-73	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-19	
18	B-31	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-21	
19	B-97	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-22	
20	B-29	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-37	
21	B-55	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-5	
22	B-87	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-26	
23	B-45	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-27	
24	B-19	口沿	器	颈部	施文A-1 施文A-2		78-11	

第46図 弥生土器実測図(4)



図版	登録号	社種	部位	器種	部位	施文・調型		備考	写真No
						外 面	内 面		
1	B-96		口唇	壺		変形I字文、ミガキ	ミガキ		78-28
2	B-28		口唇上	鉢?	口縁部	LR 諸文→平行直線文、ミガキ	ミガキ		78-12
3	B-83		表模	壺	口縁部	LR 諸文→平行直線文、ミガキ			78-13
4	B-97		口唇上	鉢	口縁部	沈織文	ミガキ		78-14
5	B-84		表模	鉢?	体部	織文・沈織文	ケズリ		78-15

第47図 弥生土器実測図(5)



第48図 遺物集中出土状況図

第5表 章 錄 遺 物 一 覧 表

種別 遺物	C 非クロト上部器						D ロクロト跡原	E 瓶形器	F 丸瓦	G 平瓦	I 南器	J 磁器	K 石製品	N 金銀製品	O 自然遺物	P 土製品		
	环	高环	甕	小型壺	亞	壺	その他	环	甕				石製模造品	石器	砥石	珪化木		
SA 1										5	11・12・13・ 14							
SI-1		82	123				把手18		越5・10		13・14・ 15(軒平 丸)	1・3	1・2・3・ 4・20				7	
SI-2	10・11・12・13・ 14・68		15・17・18・ 19・20・22・ 23・27・69・ 70・123	25・26	16・21		鉢67		甕11				5・6・7・ 8・9・10・ 11・12・13・ 14・15・55	41・44	5	2・5		
SI-3	29・31・32・59・ 61・66	28・35・36・37・ 38・39・40・41・ 42・43・44・45・ 46・47・48・49・ 63	15・51・53・ 54・55・57・ 60・71	33・34	52・62・ 64・121	58・65			筋 甕 丸 18・甕22				16・17・51	54	42・43	6	3・4	
SI-4												2						
SI-5		120																
SI-6			8・9	88				甕20					18	57			1	
SI-7	1	117				24		甕12・21										
SI-8								甕15					19・37			2		
SI-9	6	2・3・5	4	50	24	75			7	越5・10 甕6・17					53			
SI-10																		
SD-2		56・79・80・81 129	20・84・126・ 25				把手91	1・3・4・5・ 9・10・11・12・ 14・15・16・17・ 18・29・21	6	环1 甕14	1・2・ 3・4・ 6・8		21	47・48		7		
SD-3																		
SD-5																		
SD-6	127	92				2			甕7			11		50				
SD-7		89							甕2・16	1(軒丸)	7・9・10・ 17	10	22		1・4	2		
SD-9		115							高环4									
SD-12	30	72・73・74	125						甕5					23・45・56				
SD-13									7					24				
SD-23		116							高环4									
SK-1		98	97															
SK-4			102						甕13									
SK-5	95・96									13		5						
SK-8		94・99												46				
SK-9			122															
SK-15			124															
SK-16						19												
SK-17																3		
SX-1		100	101						高环4 甕19		8			25・36・27・ 28・29・39・ 40				
1脚	7・104・107・ 108・109・110	78・85・93・103・ 106・111・112	76・77・83・ 86・90・114・ 128		105・ 119	鉢113	8・13	越8・10 环9		5・7・ 9・10・ 12・16	1・2・3・ 4・5・6・ 7・15・16	4・6・7・8・ 9・12・13・14・ 15・16・17・18・ 19・20	30・31・32・ 33・34・35・ 36・38・49	52		3	1	6

## VI. 出土遺物について

21次調査で出土した遺物のうち、竪穴住居跡から出土した土師器、溝跡出土のロクロ土師器、須恵器を中心に述べる。

### 1. 土師器

#### 1) 非ロクロ土師器

##### 壺

出土した壺を、体部から口縁部の形状を中心に分類すると次のようになる。

1類：体部は内湾して立ち上がり、体部最大径より上方で一度くびれて口縁部で外反するもの。くびれ部分は明瞭な段または稜を有するものと不明瞭なものとがある。ほぼ大半は丸底である。

外面調整は、口縁部はヨコナデで、体部はヘラミガキ、ヘラケズリ、ヘラナデと様々である。内面調整は、口縁部にヨコナデ、体部にヘラミガキ、ヘラナデがみられる。

最大径の位置で1類をさらに細分すると、

1a類：最大径が体部にあるもの。図示できたものは3点で、上げ底風の底部をもつものもある（C-6）。器高があり、鉢または小型の壺の形状をとるが、壺として分類した。

1b類：最大径が口縁部、または体部でほぼ同じもの。図示できたものは1点である。

1c類：最大径が口縁部にあるもの。図示できたものは5点で、内2点の内面には体部から底部にかけて放射状のヘラミガキが施される。

2類：体部は内湾して立ち上がり、体部最大径より上方でくびれずに、口縁部で外反するもの。くびれの具合は様々で、丸底である。外面調整は、口縁部はヨコナデで、体部はヘラミガキ、ヘラケズリ、ヘラナデと様々である。内面調整は、口縁部にヨコナデ、体部にヘラミガキ、ヘラナデがみられる。図示できたものは3点である。

3類：体部は内湾して立ち上がるものの、底部の確認できた2点は平底である。外面調整は、口縁部はヨコナデで、体部はヘラケズリ、ヘラナデである。内面調整は、口縁部にヨコナデ、体部にヘラケズリ、ヘラナデがみられる。図示できたものは3点である。

4類：体部は緩やかに立ち上がり、口縁部で直立ないし内傾するもの。丸底である。

外面調整は、口縁部はヨコナデもしくはヘラミガキで、体部はヘラケズリである。内面調整は、口縁部にヨコナデ、ヘラケズリ、体部に放射状のヘラケズリがみられる。図示できたものは2点である。

		細分基準	遺物No
1類	Ia類	最大径が体部	C-6・14・110
	Ib類	最大径が口縁部、または体部でほぼ同じ	C-61
	Ic類	最大径が口縁部	C-7・109
2類			C-1・10・95
3類			C-31・96・108
4類			C-12・107
		計	14

第6表 土師器环分類表

### 高环

図示できた高环で、环部と脚部が接合できた全形のわかる資料は2点(C-35・37)のみで、他は环部11点、脚部22点の部分資料である。

环部の形態には、丸底と平底の2種類がある。

A類：丸底のもので、环底部から内湾気味に緩やかに立ち上がった後に口縁部まで外半し、底部と体部の境に段・稜をもたない。

外面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ、接合部にヘラミガキを施す。内面調整は、体部はヘラケズリないしへラナデ、ヘラミガキである。

B類：平底のもので、体部の稜の有無で2種類がある。

环底部はほぼ水平で、脚部との接合部分に角をもち、口縁部までほぼ直線的に外半する。

このうち1点だけ、体部中段に稜をもつものがある(C-36)。

外面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラミガキ、ヘラナデ、接合部にヘラケズリを施す。

内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデ、ヘラミガキである。

内外面の調整に放射状のヘラミガキを施すものも3点みられる(C-36・56・1111)。

脚部は、その形状より3種類に分類できる。

1類：柱状部が円柱状を呈し、裾部で急に開くもので、内面の「えぐれ」が浅いもので、外面調整はヘラケズリである。

2類：柱状部が环部との接合部からやや中膨らみで開き、中空のものである。外面調整はヘラケズリである。内面調整は、柱状部ヘラナデで、内面にしほり目の残るものも認められる。裾部のわかるものはない。

3類：柱状部が环部との接合部から円錐状を呈し、緩やかに裾部に続くものである。外面調

整は、柱状部はヘラミガキ、ヘラケズリ、撫部はヨコナデである。内面調整は、柱状部のヘラナデで、内面にしづり目の残るものも認められる。撫部はヨコナデである。

4類：柱状部の開きが3類よりも緩やかで、脚部の高さが低く、1ないし2段の複数の円窓をもつものである。調整は、器面の状態が悪く外面の一部にヘラミガキが施されている。

この坏部と脚部の形状の分類をもとに、出土した高坏35点を表にすると次のようになる。

脚部	坏部	A類(丸底)	B類(平底・稜無)	B類(平底・稜有)	不明
1類(円柱脚)					C-73・80
2類(中太脚)					C-44・46・48・81・106
3類(円錐脚)	C-35・37・42・47				C-2・3・28・38・39・40・72・74・98・122
4類(円窓脚)					C-79・112・117
不明	C-104	C-49・78・85・93・99・103・113			
不明(放射状ミガキ)		C-56・111	C-36		
計		5	9	1	20

第7表 土器高坏分類表

### 甕

出土した甕は、24点が図示できた。器高によって、25cm以上を大型、18cm以下を小型と分け、体部の形状から球形とやや長胴のものとに分類した。さらに最大径の位置と口縁部の形態で3～4類に細分した。

#### 大型

1類：体部が球形で、最大径が体部中央にある。口縁部は「く」字状に屈曲して外反する。外面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリで、一部ヘラミガキがみられ、内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデ、ハケメである。

2類：体部がやや長胴で、最大径は体部中央にある。口縁部は「く」字状に屈曲して外反する。外面調整は、口縁部はヘラナデ、体部にはヘラケズリ、ヘラミガキがみられ、内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデで、一部ヘラミガキがみられる。

#### 中型

1類：体部が球形で、最大径が体部中央にある。口縁部は「く」字状に屈曲して外反する。

外面調整は、口縁部はヨコナデ、体部にはハケミがみられ、内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリもしくはヘラナデである。

2類：体部がやや長財で、最大径が体部中央にある。口縁部は「く」字状に屈曲して外反する。外面調整は、口縁部はヨコナデ、体部上半はヘラナデ、下半はヘラケズリがみられ、内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデである。

3類：体部がやや長財で、最大径が体部下半にある。口縁部は緩やかに屈曲して直立気味に立ち上がる。外面調整は、全面にヘラケズリがみられ、内面調整もヘラケズリである。1点だけの出土で特異な風貌を呈している。

#### 小型

1類：体部が球形で、最大径は口縁部ないし体部中央で、ほぼ同じである。口縁部は短く「く」字状に屈曲して外反する。外面調整は、口縁部はヨコナデ、頸部にはハケメが残り、体部はヘラケズリ、一部ヘラミガキである。内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ、ヘラナデ、ヘラミガキである。

2類：体部が球形で、最大径は体部上半にある。口縁部は短く「く」字に屈曲して外反する。外面調整は、口縁部はヨコナデ、頸部から体部にはハケメが残り、体部はヘラケズリ、ヘラナデ、一部ヘラミガキである。内面調整は、口縁部はヨコナデ、ヘラケズリ、体部はヘラケズリ、ヘラナデ、ヘラミガキである。

3類：体部が下膨れの偏平な球形で、最大径は体部下半にある。口縁部は短く「く」字状に屈曲して外反する。外面調整は、口縁部はヨコナデ、頸部から体部はヘラナデ、体部下半はヘラケズリである。内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデである。この器形は、鉢または壺として分類される報告例もある。

4類：口縁部が直立し、最大径は体部にある。外面調整は、口縁部はヨコナデ、頸部から体部はハケメである。内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデである。

大きさ	体部形状	最大径	遺物No(C-)	点数
大型 器高25cm以上	1類(体部球形)		4・15・19・22・77・102	6
	2類(体部長財)		21・75	2
中型 器高18~25cm	1類(体部球形)		54・57・84・90	4
	2類(体部長財)		20	1
	3類(口縁部直立)		55	1
小型 器高18cm以下	1類(体部球形)	口縁部と体部	9・17・18・26	4
	2類(体部球形)	体部上半	8・83・123	3
	3類(体部偏平)	体部下半	53	1
	4類(口縁部直立)	体部	62・94	2
			計	24

第8表 土師器甌分類表

このほか、体部下半にタタキ目を残す壺の破片がある。

### 壺

壺類は、その器高が18cmを境として、大型と小型のものに分けられる。大型のものは中型の壺と判別が困難であるが、球形の体部最大径が頸部径の2倍以上のもの、頸部が明瞭なものは壺と設定することとし、単純に外反する口縁部のものは甕とした。

### 大型

1類：複合口縁のもの。口縁部を折り返し、段を形成している。

外面調整は、口縁部はヨコナデで、頸部は不明である。

破片のため、器形は鉢となる可能性があるが、折り返し口縁部のものが4点ある。

2類：粘土を貼り付けて、口縁部に突帯状に段を付けているもの。

外面調整は、口縁部はヨコナデである、内面調整は、口縁部はヨコナデ、頸部にかけてはヘラナデである。

3類：体部から直立する頸部をもち、急に外反し、口縁部に続くもの。

外面調整は、口縁部はヨコナデ、頸部にかけてヘラナデ、頸部にヘラミガキ、体部ヘラナデである。内面調整は、口縁部はヨコナデ、頸部から体部にかけてはヘラナデである。

### 小型

図示できたものは5点ある。いずれもソロバン玉形の体部を呈し、口縁部は直線的ないし、外反気味に外傾し、口端付近でやや直立する。底部は、丸底、平底、上げ底と様々である。外面調整は、口縁部から頸部はヨコナデ、ヘラミガキで、体部はヘラケズリ、ヘラナデが主で、ヘラミガキ、ハケメもみられる。内面調整は、口縁部はヨコナデ、口縁部から頸部はヨコナデ、ヘラミガキで、体部はヘラナデである。

大きさ		遺物No	点数
大型	1類	C 9+ (C 64・65・67・121)	1 (5)
	2類	C-52・97	2
	3類	C-16	1
小型		C-24・25・33・34・50	5
		計	9 (13)

第9表 土師器壺分類表

### 甕

出土した甕は、全形のわかる3点と体部下半の破片1点の、4点である(C-23・58・75・105)。

器高は20~25cmほどで体部はやや長胴の砲弾形を呈し、口縁部は外反する。最大径は口縁部もしくは体部中央にあってほぼ同じである。4点とも無底である。外面調整は、口縁部はヨコナデ、体部上半はハケメもしくはヘラナデで、下半部はヘラケズリである。内面調整は、口縁部はヨコナデ、体部下半にかけてヘラナデ、孔部はヘラケズリ、もしくはヘラナデで、底部から体部に放射状にヘラミガキを施されるものもある(C-105)。

## 2) ロクロ土師器

### 壺

図示できたのは19点である。

高台の有無、調整技法、内面黒色処理の有無で分類すると次のようになる。

高台の有無	器面調整	大きさ	遺物番号	点数
壺	内面ヘラミガキ+内黒処理	大型	D-2・12・13・14・16・(17)	5(6)
		小型	D-1・8・18・20	4
	内外面ロクロ調整のみ	大型	D-9・10・19・21	4
		浅い	D-11	1
高台付壺	外面全面ヘラミガキ	大型	D-15	1
内面ヘラミガキ+内黒処理・底部が高台よりも下がる	外面ロクロ調整のみ	小型	D-3・4・5	3
			計	18(19)

第10表 ロクロ土師器壺分類表

### 甕

図示できたのは2点である。

ともにやや長胴の体部を有する甕である。

D-7は、広口で器高との差が小さい。底部は回転糸切り無調整で、内外面の器面調整はロクロ調整である。

D-6は、前述の甕よりもやや器高があり、内外面の器面調整はロクロ調整で、外面体部下半にヘラケズリを施している。底部は不明である。

全形を図示できなかった資料のうち、体部外面にタタキ目の施された甕の破片がある。

SI-1・SI-2・SD-7・SD-12・SK-11・SX-1などから出土しており、格子状叩きの後、内面磨消しを施したものである。

## 2. 須恵器

### 坏

図示できたものは SD-5 出土の坏 E-7 の 1 点だけである。坏として図示したが、蓋である可能性もあり、TK-208 併行とみられる。金山窯産の可能性もある。

他に SI-10 から出土した坏（稜碗）E-9 と、SD-2 出土の回転糸切り底の E-1 がある。

### 高坏

図示できたものは SD-9 出土の E-4 1 点だけである。脚部に円窓と隆線が巡り、遠見塚出土例に類似する。大蓮寺 I 型式とみられるが、胎土は異なるようである。

### 龜

E 5 は、SI-1 と SI-10 から出土した破片で同一個体である。沈線が TK-216 とは趣が異なり、TK-208 とみられる。

I 層出土の E-8 は、TK-216 である。

### 甕

SD-7 出土の E-2 と SI-10 出土の E-6 は、薄手で口縁外部に隆線と波状沈線が施されており、口縁部につまみ出し隆線と沈線をもち、平行叩き目のある E-14 (SD9・SD12・SX1 出土) は、内面調整の搔き目の変化・釉のかかり具合・器厚の薄さから小型の横瓶の可能性があるが、ともに奈良時代末から平安時代のものである。

多くの遺構 (SK4・SK5・SX1・SI1・SI2・SI7・SI10・SD7・SD8・SD9・SD12・SD23) から出土している E-11 は、典型的な大蓮寺窯跡出土甕と同じく、平行叩き・内面磨消し調整を有し、胎土は内外両面ともセビア色で、胎土がサンドイッチ状を呈するなど特徴が類似しているが、胎土中の白色粒子は大蓮寺窯跡出土品にはない点が指摘できる。時期的には大蓮寺窯跡併行期とみたい。

E-12 (SI6・SI8・SD2・SD7・SX1 出土) は器形が甕とみられるが、体部に釉がかかり、横穴出土のフラスコ状瓶に類似している。

### 3. 石製模造品

SI-2 壁穴住居跡からは、石製模造品や管玉、小玉が大量にまとまって出土しており、祭祀に強く関わる遺構とみられる。その出土一覧を次表11に示す。

第11表 石製模造品一覧表

種別 遺構	石 製 模 造 品										石材	勾 玉	管 玉	小 玉				
	門 板					劍 形												
	2 孔	單 孔	製品(部分)	未 製 品	單 孔	製品(部分)	未 製 品	細身	太身									
SI-1	3	1・20	2・4								2点							
SI-2		7			6	5・11	13	48	15?	7・8・9・12 11点	55	14	10a・10b					
SI-3	16		17								1点							
SI-5											6点 (大型)							
SI-6							18											
SI-7											22							
SI-8		19・37																
SD-2		21									18点							
SD-6											4点							
SD-7			22								1点							
SD-9											1点							
SD-12		45	56				23				2点							
SD-13		24																
SX-1	25	26	27	28・40		39					3点	29						
I層	30	35・38		33	32	36・49	31				12点		34					
計	4	10	1	5	3	1	3	4	4	I 異様5+破片 61点	1	2	3					

数字は登録# イタリック体は出土数(計)と石材破片数

#### 4. 弥生土器

SK-9 土坑・SI-3 穴穴住居跡からは、弥生土器がまとまって出土している。次表12に示す。

第12表 弥生土器集計表

出 土 遺 構	登 錄 遺 物(B-)	破片点数	出土総数
S I - 1	12・13	5	7
S I - 2	21・25・41・55	20	24
S I - 3	14・15・16・33・34・35・36・37・ 38・39・40・42・43・44・47・48・ 49・50・51・54・56・60・65・89・ 90・91・95	88	115
S I - 5	93	12	13
S I - 6	26・27	18	20
S I - 7		5	5
S I - 8		2	2
S I - 9	66・88		2
S D - 2	57・58・63・67・69・74・76・79・ 80	10	19
S D - 3	82	4	5
S D - 6	62・70	4	6
S D - 12		1	1
S K - 8	11・20・23	2	5
S K - 9	1・2・3・4・5・6・7・8・ 9・10・45・52・53・64・85	17	32
S X - 1	68	2	3
I	7~10区	19	1
	B~D区	22	2
	E~G区	59	1
	B~D区	17・46・73・77・78・81・92・94	8
II	E~G区	18	2
	H~I区	61	1
	B~D区	24・28・29・30・31・32・72・75・ 86・87・97	36
III	E~G区	71	1
	その他	83・84・96	12
計		97	251
			348

## VII. 遺構の変遷

21次調査の遺構の変遷を、出土遺物、遺構の重複からみると、次の5段階に大別でき、その中でも2～3時期の小期に細分できる。

### I (第一段階) 弥生時代中期（梯形圓式期）

遺物は多く出土しているが、最も弥生土器を出土するSK-9土坑からは土師器も出土しており、弥生時代の遺構を特定することはできなかった。

### II (第二段階) II a 古墳時代前期（塩釜式期）

複合口縁壺や円窓脚をもつ高環など、塩釜式期の遺物も出土しているが、この時期の遺構を特定することはできなかった。

### II b 古墳時代中期（南小泉式期～引田・住社式期）

7軒の竪穴住居跡がある。直接的な重複はSI-5とSI-6の一箇所だけであるが、住居の方向や規模、炉の形態から、より細分化できるものと考えられる。

SI-2からは、一括土器や祭祀遺物である石製模造品、珪化木の出土があり、高環を全く出土しないことが特徴的である。SI-3は、高環の出土が目立つ。SI-7の赤彩環は、放射状ミガキが施されている。

### III (第三段階) III a 平安時代中期

内黒クロ土師器环を出土するSD-6があり、溝の途切れ部分は「屋敷地」の「入口」であろうか。

### III b 平安時代後期

高台付のロクロ土師器环が特徴的なSD-2は、「屋敷地」の鬼門に当たる方角のコーナー部から馬齒を出土しており、III a期の屋敷地の規模が拡大したものと考えられる。円窓をもつ脚部や放射状ミガキの环部をもつ古墳時代の高環や、石製品も出土しているが、遺物はロクロ土師器が中心で、高台付环とロクロ調整後外面をヘラケズリする壺が特徴的である。これまでの調査で最大の平瓦が出土している。

調査区東部の溝跡群（SD-9・10・12・13・23）は、南北方向で、比較的深く、堆積土中に灰白火山灰が混入する。平安時代のロクロ壺を出土する。

SK-7土坑はSK-6に切られ、炭化物や焼土を検出している。

### III b' 平安時代後期

やや北偏する東西方向の小溝状遺構群（SD-14・15・16・17）は烟痕であろう。

### III b "平安時代後期

東西方向の小溝状の遺構群（SD-18・19・20・21）である。

このほか、詳細な時期は不明であるが、古代に属する遺構として、III b"の溝群を切る SD-22 や、SK-12 に切られる SD-8 がある。

### IV (第四段階) IV a 鎌倉時代前期？

SI-10 穹穴遺構がある。SI-1 と遺構プランが類似しており、中世に分類したが、詳細は不明である。

SI-1 の底面で検出した SB-1 堀立柱建物跡も、詳細は不明である。

### IV a' 鎌倉時代後期

12~13世紀の龍泉窯系青磁を出土する遺構である。SI-1 からは割花文碗、SI-4 からは割花文皿を出土する。

### IV b 南北朝~室町時代

SD-7 溝跡からは、11c 以降の特徴を有す灰釉陶器長頸瓶 I-17、12~13世紀の常滑壺 I-9、13~14世紀の白石窯系壺 I-10 を出土している。

SA-1 柱穴列からは、運元炎焼成から酸化炎焼成への傾向となる13世紀前半の常滑高台付鉢 I-11、体部に叩き痕のある13~14世紀の白石窯系壺 I-12、在地系の壺 I-13・14 を出土している。

### V (第五段階) V a 江戸時代

SK-2・5 土坑がある。磁器を出土しており、SI-1 を切っている。

### V b 江戸時代以降

SK-3 がある。I b 層下部からの掘り込みである。

このほか、詳細な時期は不明であるが、SD-3・4・5 がある。

## VIII. まとめ

南小泉遺跡第21次調査では、次のことが判明した。

- 1) 古墳時代中期・南小泉式期から引田・住社式期の堅穴住居跡7軒を検出した。
- 2) 平安時代の溝跡、小溝状遺構群を検出した。
- 3) 鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物跡1棟、柱穴列1列、堅穴遺構3基、溝跡1条を検出した。
- 4) 弥生時代の遺構は不明であるが、弥生土器、石器を出土した。

## 引用・参考文献

第1表「南小泉遺跡次数別調査成果一覧」に掲載の文献

- 赤羽一郎 (1984) : 「常滑焼 中世窯の様相」 ニューサイエンス社  
氏家和興 (1957) : 「東北土器の形式分類とその編年」『歴史』第14編 東北史学会  
奥津春生 (1973) : 「大仙台園の地盤・地下水」 宝文堂  
白鳥良一 (1980) : 「多賀城出土土器の変遷」『研究紀要』VII 宮城県多賀城跡調査研究所  
田邊啓三 (1981) : 「須恵器大成」 角川書店  
寺島文隆・飯村均 (1987) : 「八郎窯跡群」 福島県猪川町教育委員会  
藤沼邦彦 (1976) : 「宮城県地方の中世陶磁器窯跡(予察)」『研究紀要』第2巻 東北歴史資料館  
中村 浩 (1990) : 「須恵器」 柏書房  
横崎彰一・齋藤孝正 (1973) : 「猿投窯編年の再検討について」愛知県陶磁資料館『研究紀要』2

# 写 真 図 版



写真1 遺跡航空写真



写真2 調査区全景（調査前・東より）



写真3 調査区全景（東より）



写真4 調査区西半部（北東より）



写真5 SA-1柱穴列 西1柱穴（東より）

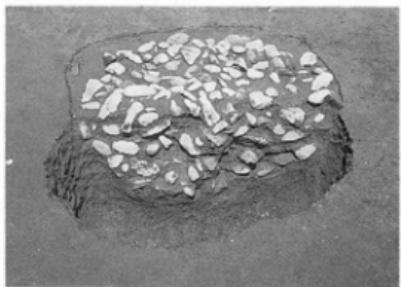


写真6 SA-1柱穴列 西1柱穴断面（南より）

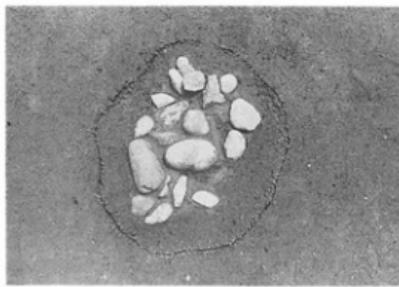


写真7 SA-1柱穴列 西2柱穴（西より）

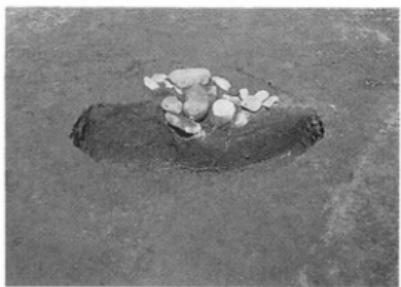


写真8 SA-1柱穴列 西2柱穴断面（南より）

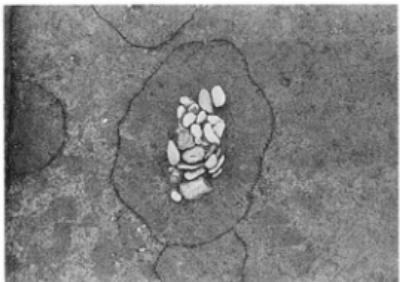


写真9 SA-1 柱穴列 西3柱穴（西より）

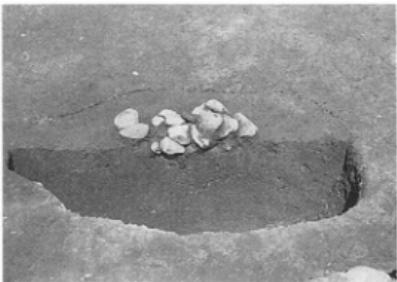


写真10 SA-1 柱穴列 西3柱穴断面（南より）



写真11 SI-2 竪穴住居跡（北西より）



写真12 SI-2 竪穴住居跡遺物出土状況（西より）

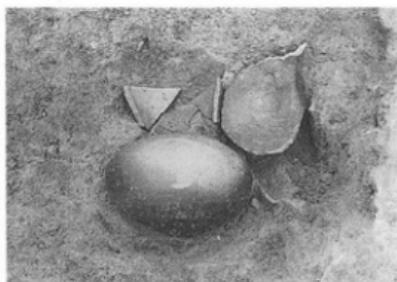


写真13 SI-2 竪穴住居跡土器  
小型壺（C-33）出土状況（東より）



写真14 SI-2 積穴住居跡遺物出土状況（南西より）



写真15 SI-2 積穴住居跡遺物出土状況（東より）



写真16 SI-2 積穴住居跡菅玉（K-14）  
出土状況（西より）



写真17 SI-2・8 積穴住居跡・SK-16 土坑  
断面（南より）



写真18 SI-3 積穴住居跡（北西より）



写真19 SI-3 竪穴住居跡南東部遺物出土状況(西より)



写真20 SI-3 竪穴住居跡柱穴 1 遺物出土状況(東より)

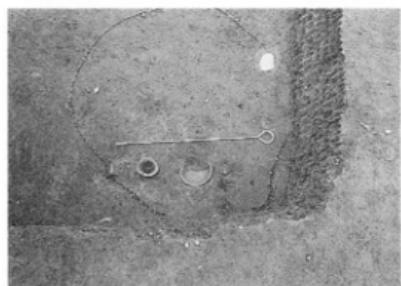


写真21 SI-3 竪穴住居跡柱穴 2 検出状況(西より)



写真22 SI-3 竪穴住居跡柱穴 2 遺物出土状況(西より)



写真23 SI-3 竪穴住居跡(西より)



写真24 SI-5・6 壺穴住居跡・SK-8 土坑（東より）

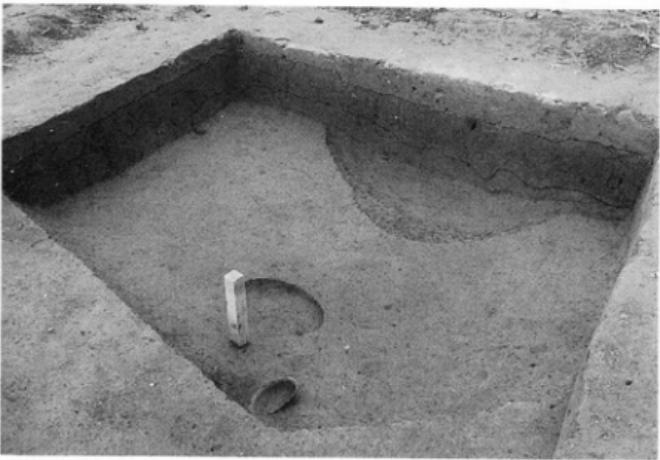


写真25 SI-7 壺穴住居跡（東より）



90

写真26 SI-7 壺穴住居跡 土師器环（C-1）  
(赤彩) 出土状况（西より）



写真27 SI-9 壺穴住居跡遺物出土状況(南より)



写真28  
SI-9 竪穴住居跡（西より）



写真29 SI-1 竪穴遺構検出状況（西より）

写真30  
調査区東部（北より）



写真31  
SI-4 竪穴造構  
(北より)



写真32  
SI-4 竪穴造構断面  
(西より)

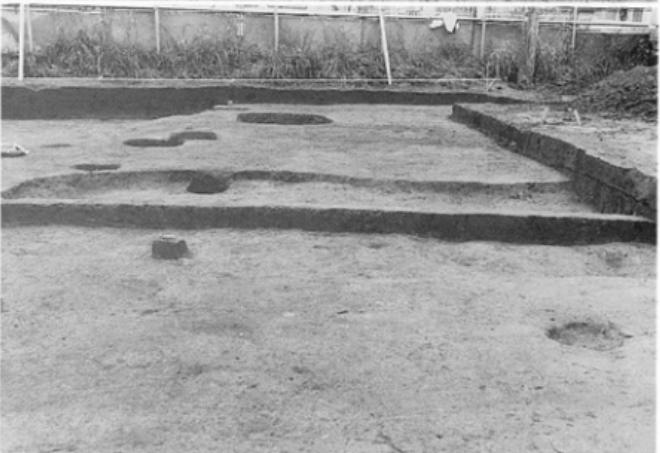




写真33  
調査区西半部SD-2  
溝跡検出状況  
(東より)



写真34  
SD-2 溝跡西半部  
(東より)

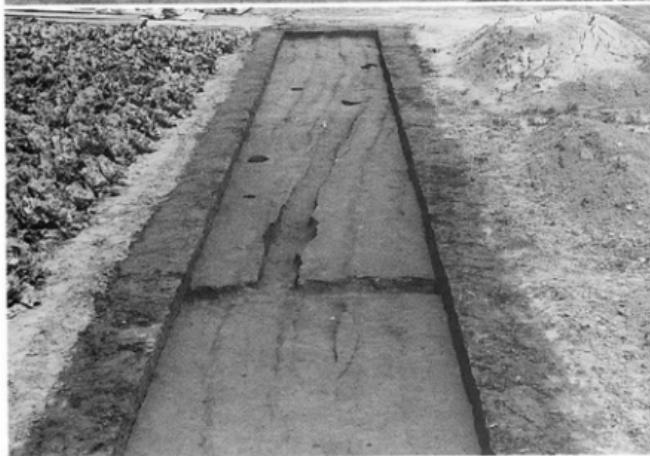


写真35  
調査区北トレンチ  
SD-3・4溝跡  
(西より)



写真36 SD-6 溝跡断面（東より）



写真37 SD-7 溝跡断面（南より）



写真38 SD-7 溝跡（北より）



写真39  
SD-9・10 溝跡断面  
(南より)



写真40  
SD-9・12 溝跡合流部  
断面(北より)



写真41  
SD-12 溝跡断面  
(北より)

写真42  
SD-23 溝跡断面  
(南より)



写真43  
SD-23 溝跡断面  
(調査区南東角・  
北より)

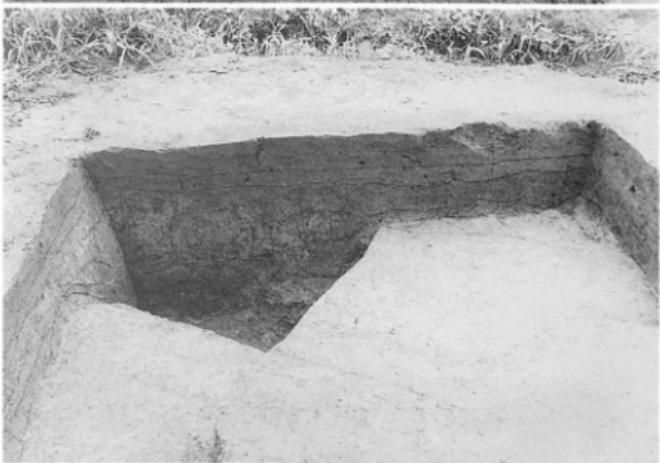


写真44  
SX-1 性格不明  
遺構断面  
(西より)



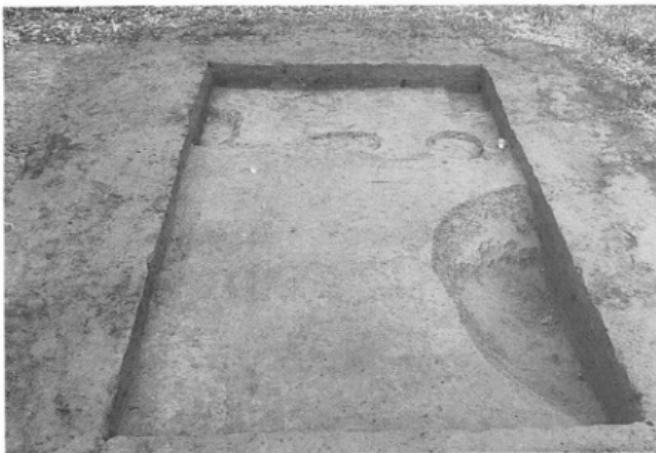


写真45  
調査区北西トレンチ  
全景 (SK-1 土坑・  
東より)



写真46  
SK-1 土坑断面  
(南より)

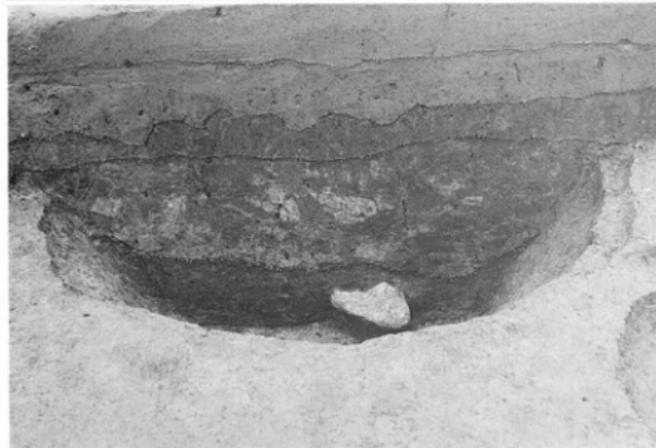


写真47  
SK-2 土坑  
(南より)

写真48  
SK-2 土坑・SD-9  
・10溝跡断面  
(南より)

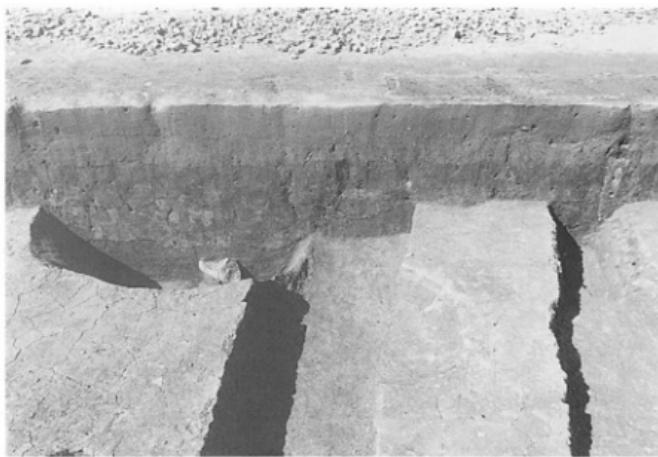


写真49  
SK-4 土坑遺物  
出土状況 (西より)

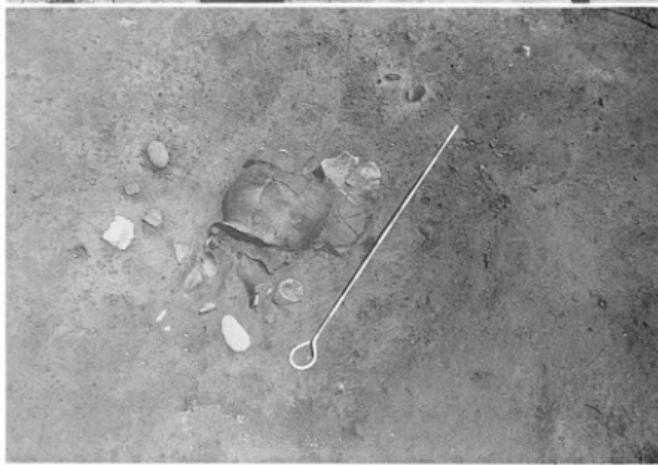
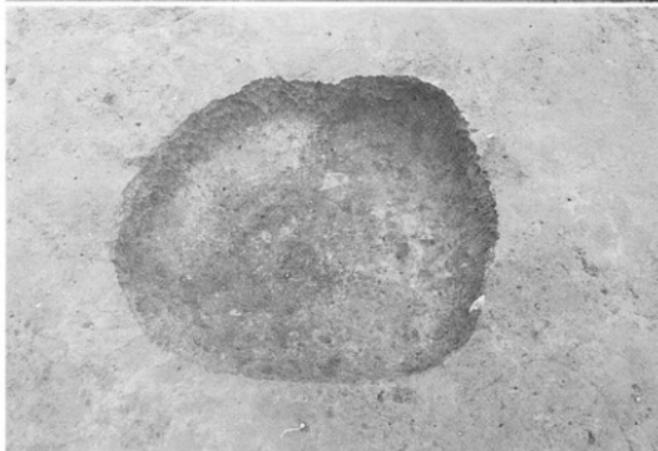


写真50  
SK-4 土坑  
(南より)



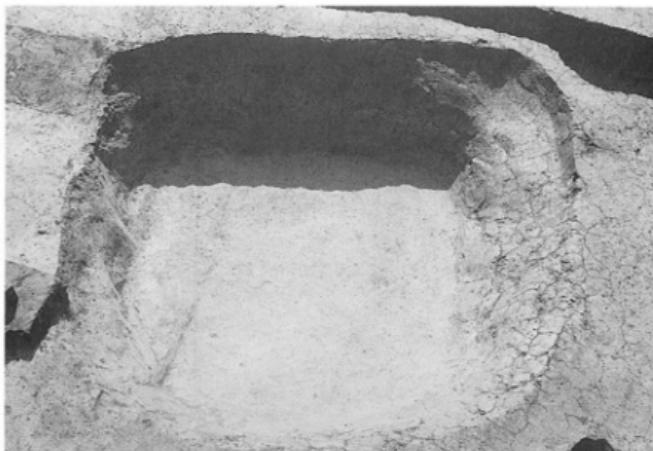


写真51  
SK-5 土坑  
(東より)

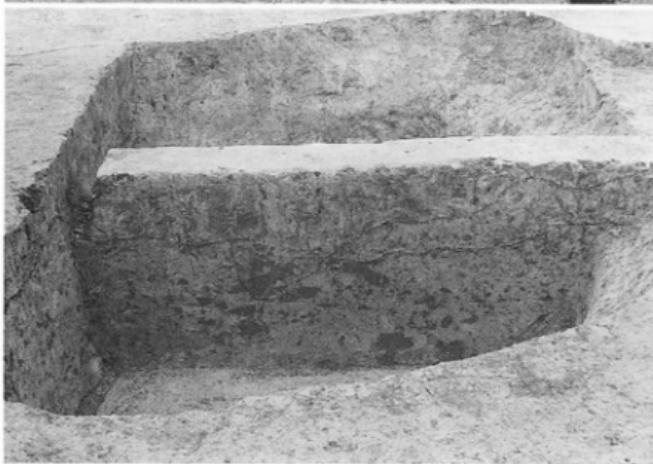


写真52  
SK-6 土坑断面  
(東より)

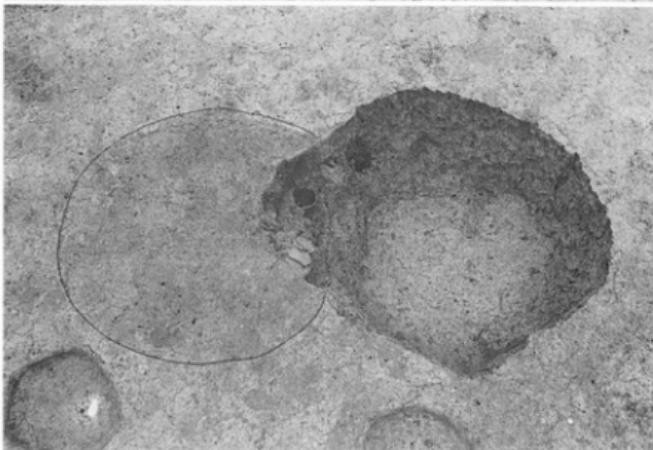


写真53  
SK-6 土坑完掘・  
SK-7 土坑検出状況  
(東より)

写真54  
SK-6・7 土坑  
(東より)

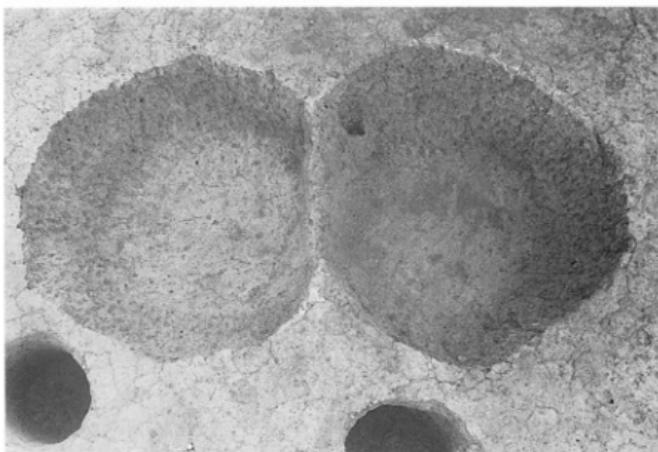


写真55  
SK-6 土坑断面  
(東より)



写真56  
SK-7 土坑断面  
(北より)



写真57  
SK-8 土坑  
(北より)



写真58  
SK-11 土坑  
(北より)



写真59  
SK-12 土坑断面  
(南より)



写真60  
SK-17 土坑  
(南より)



写真61  
B-19区 遺物・礫  
出土状況 (北より)



写真62  
D-9区 遺物出土  
状況 (北より)





写真63  
D-22区 遺物出土状況  
(西より)



写真64  
体験学習事前指導風景



写真65  
体験学習風景

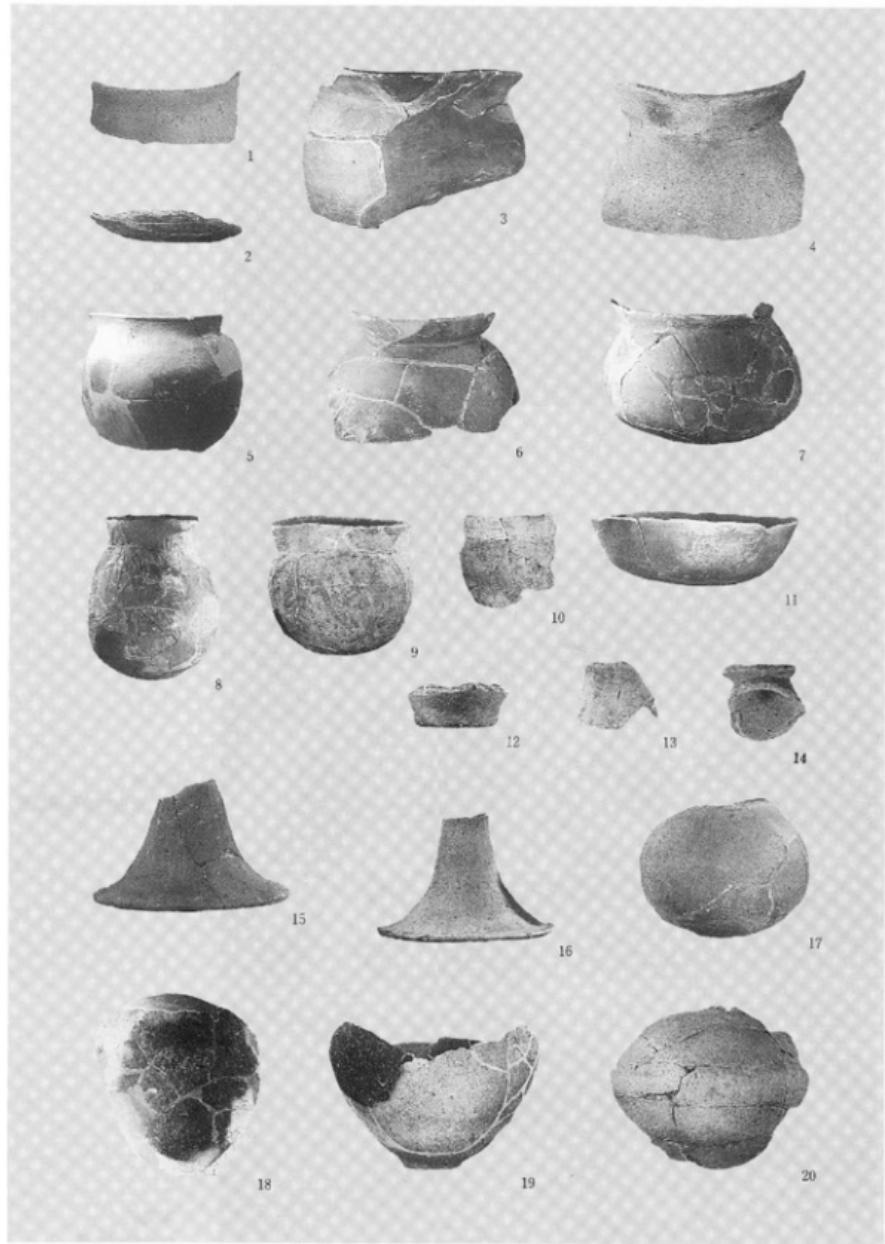


写真66 遺物写真(1)

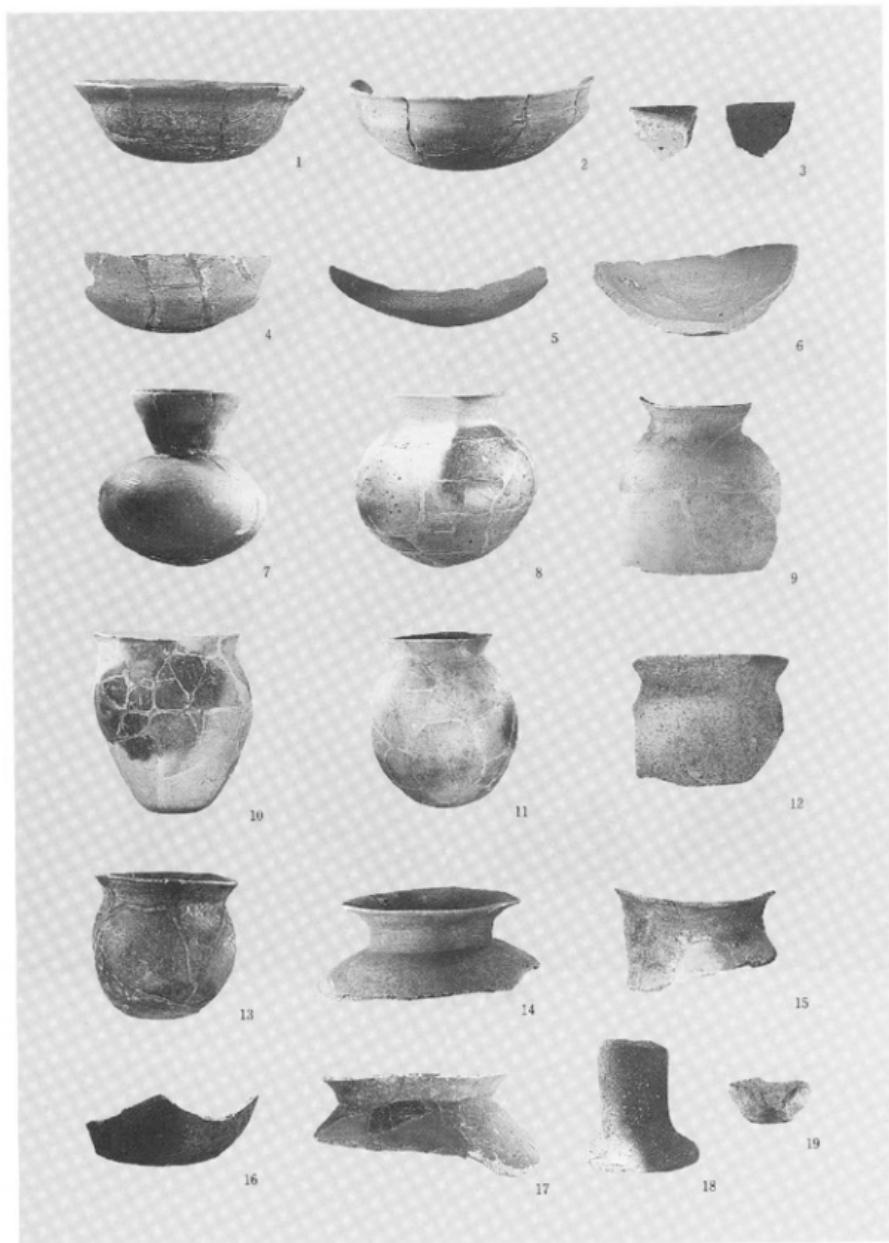


写真67 遺物写真(2)

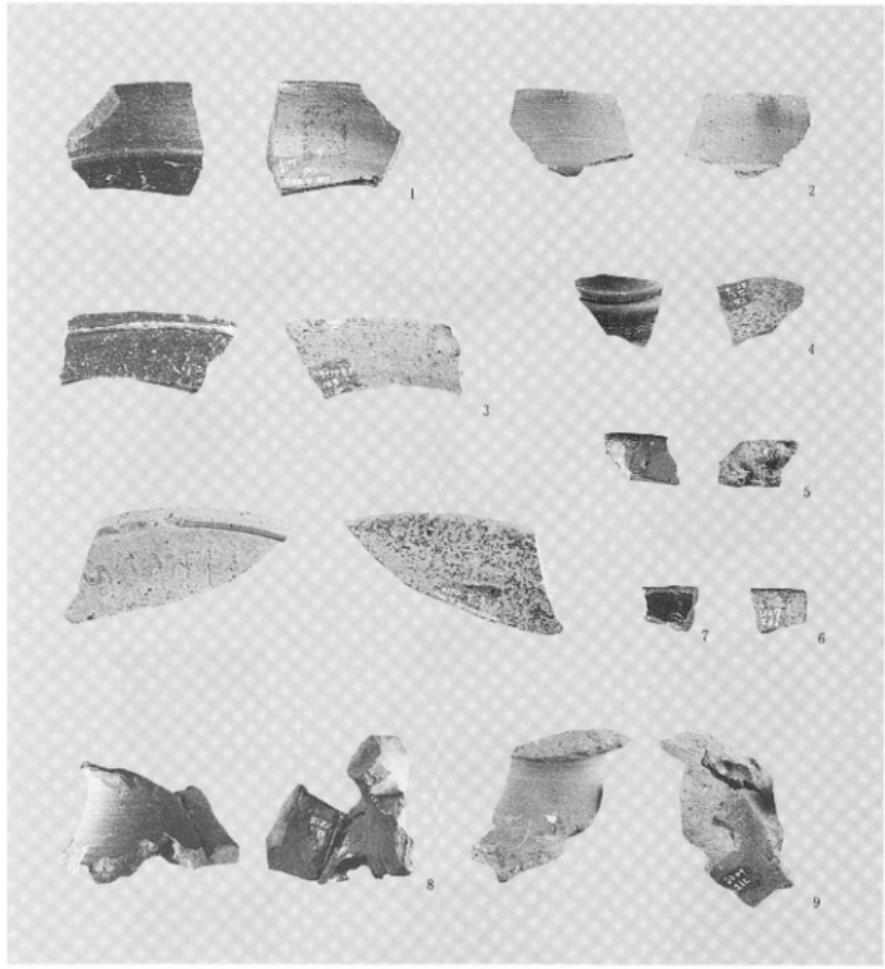


写真68 遺物写真(3)

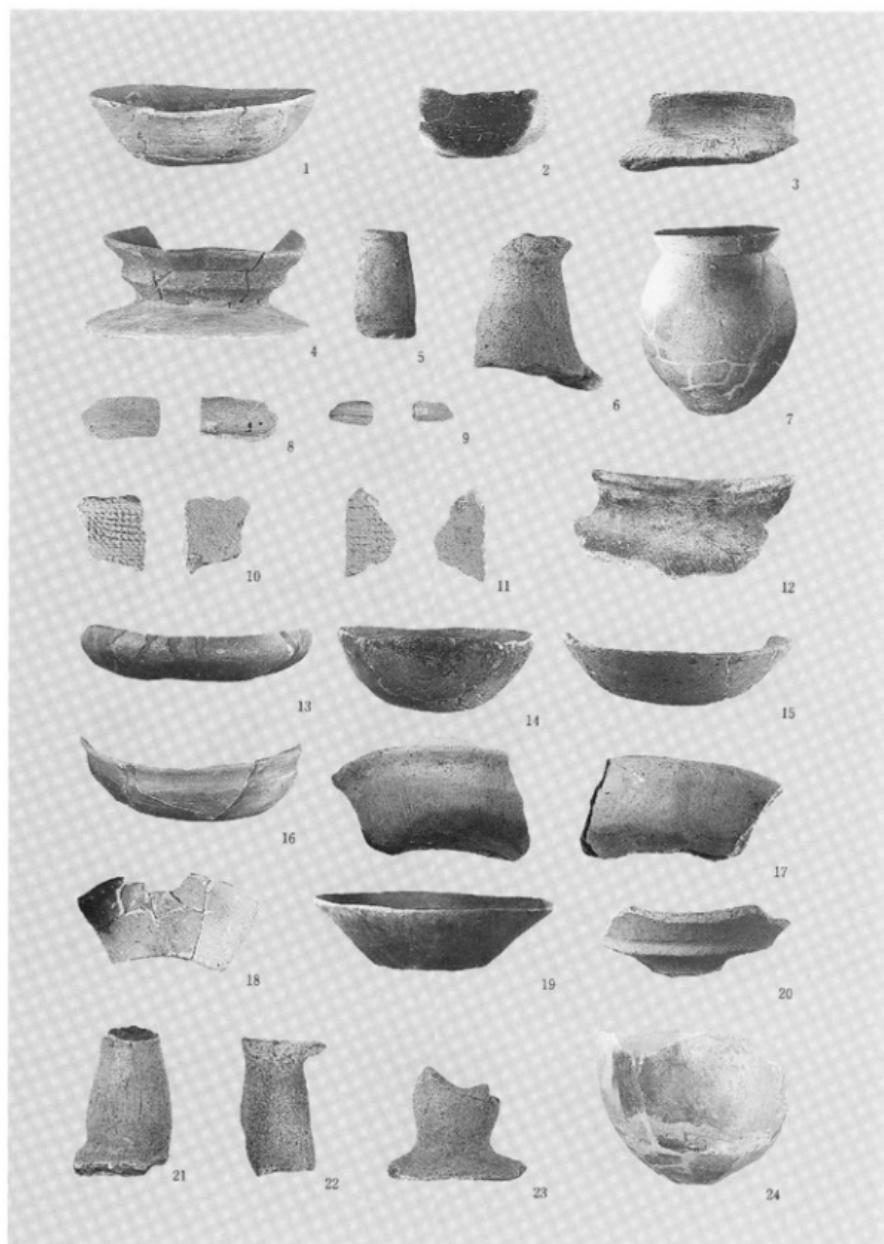


写真69 遺物写真(4)

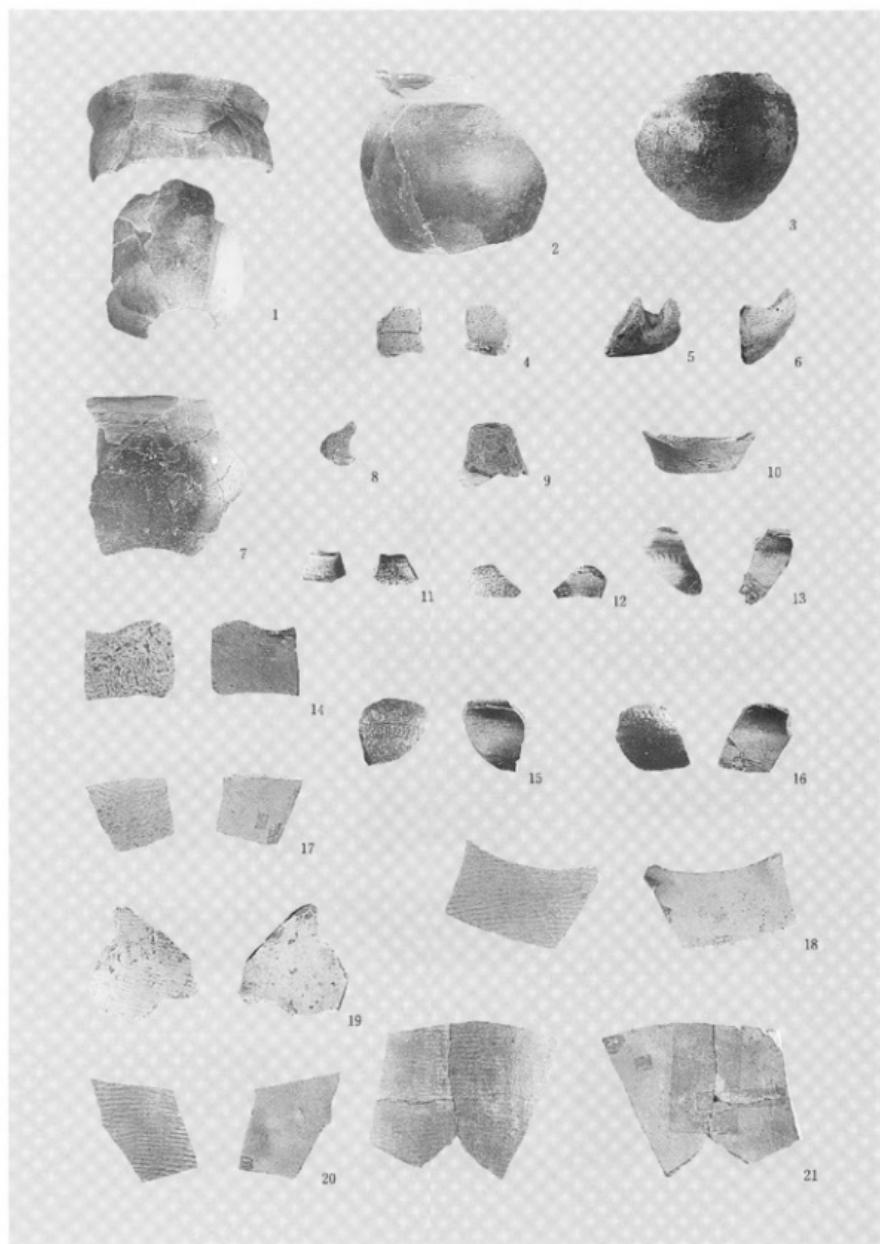


写真70 遺物写真(5)

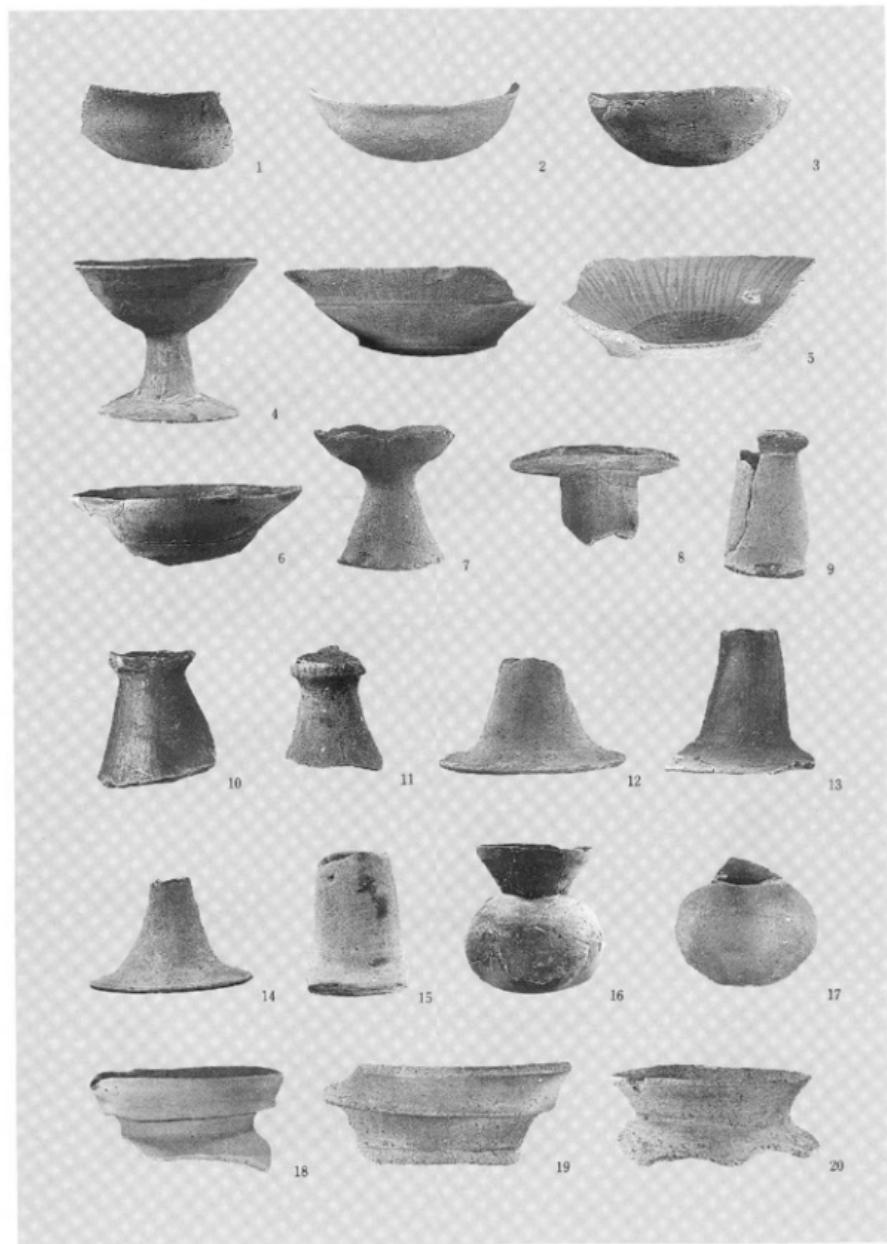


写真71 遺物写真(6)

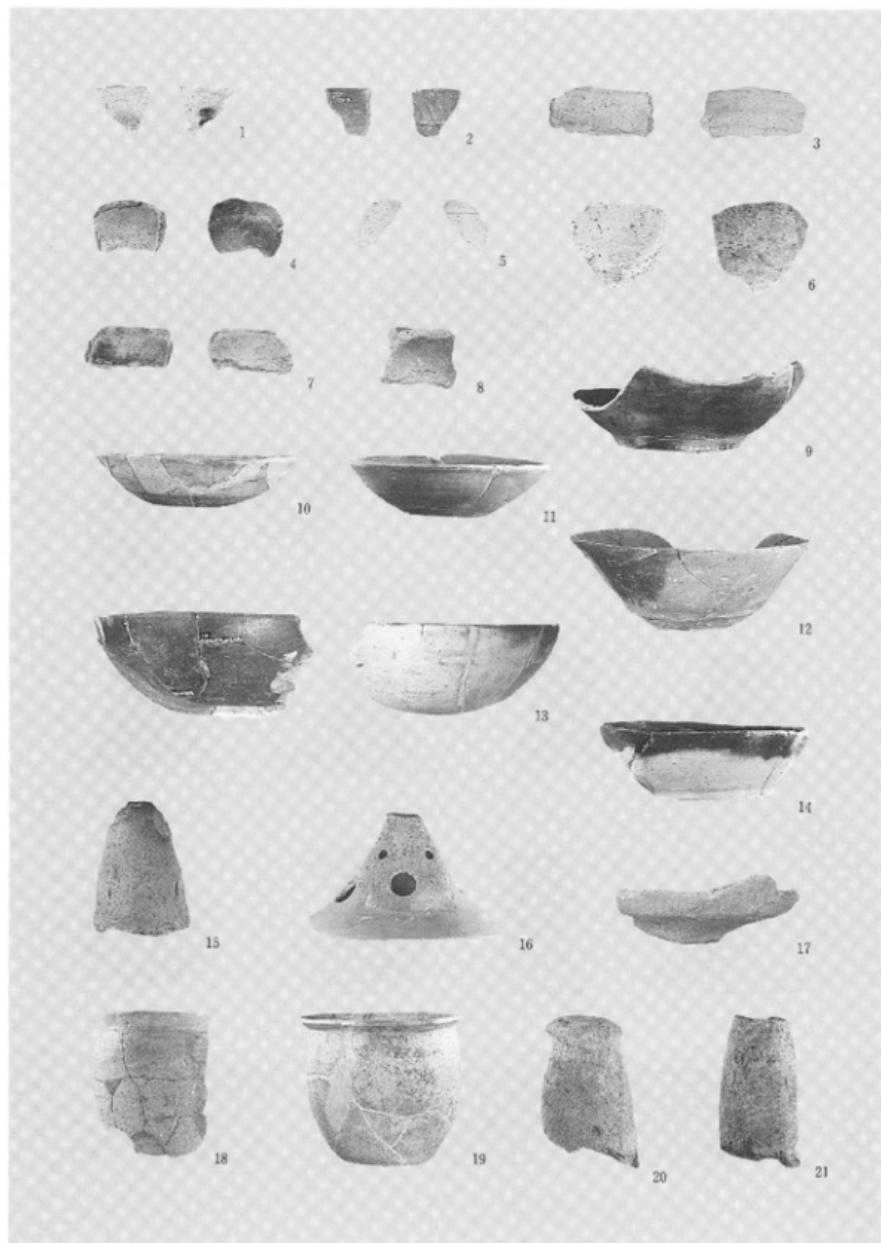


写真72 遺物写真(7)

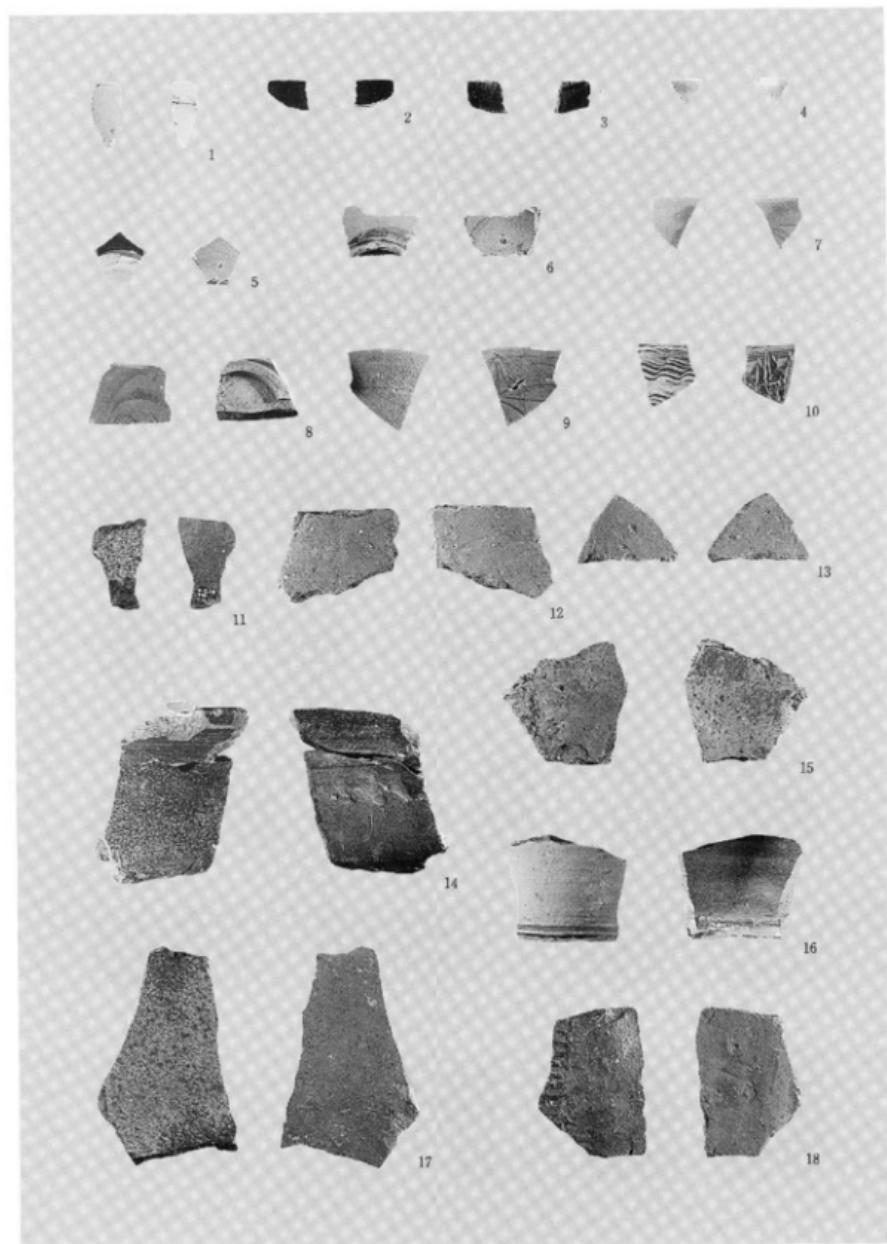


写真73 遺物写真(8)

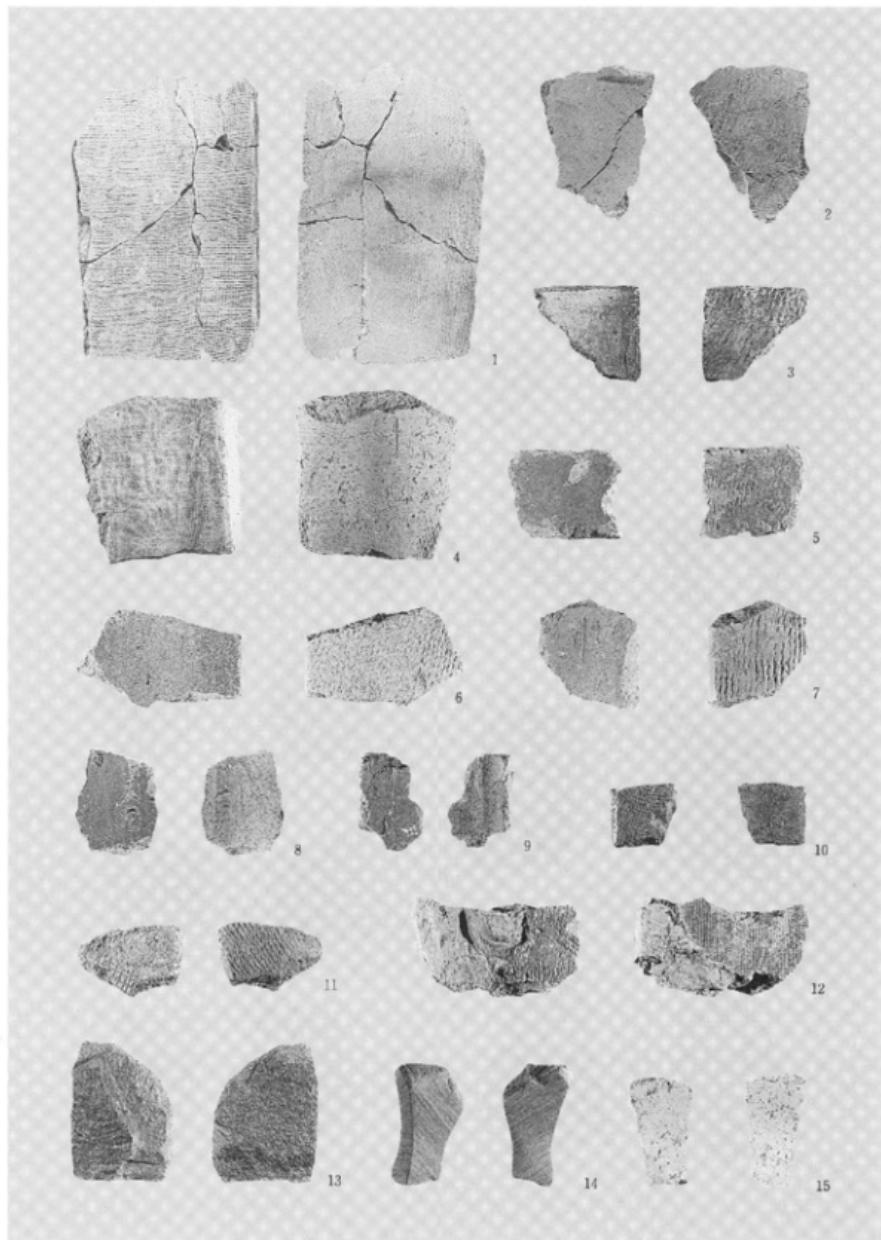


写真74 遺物写真(9)

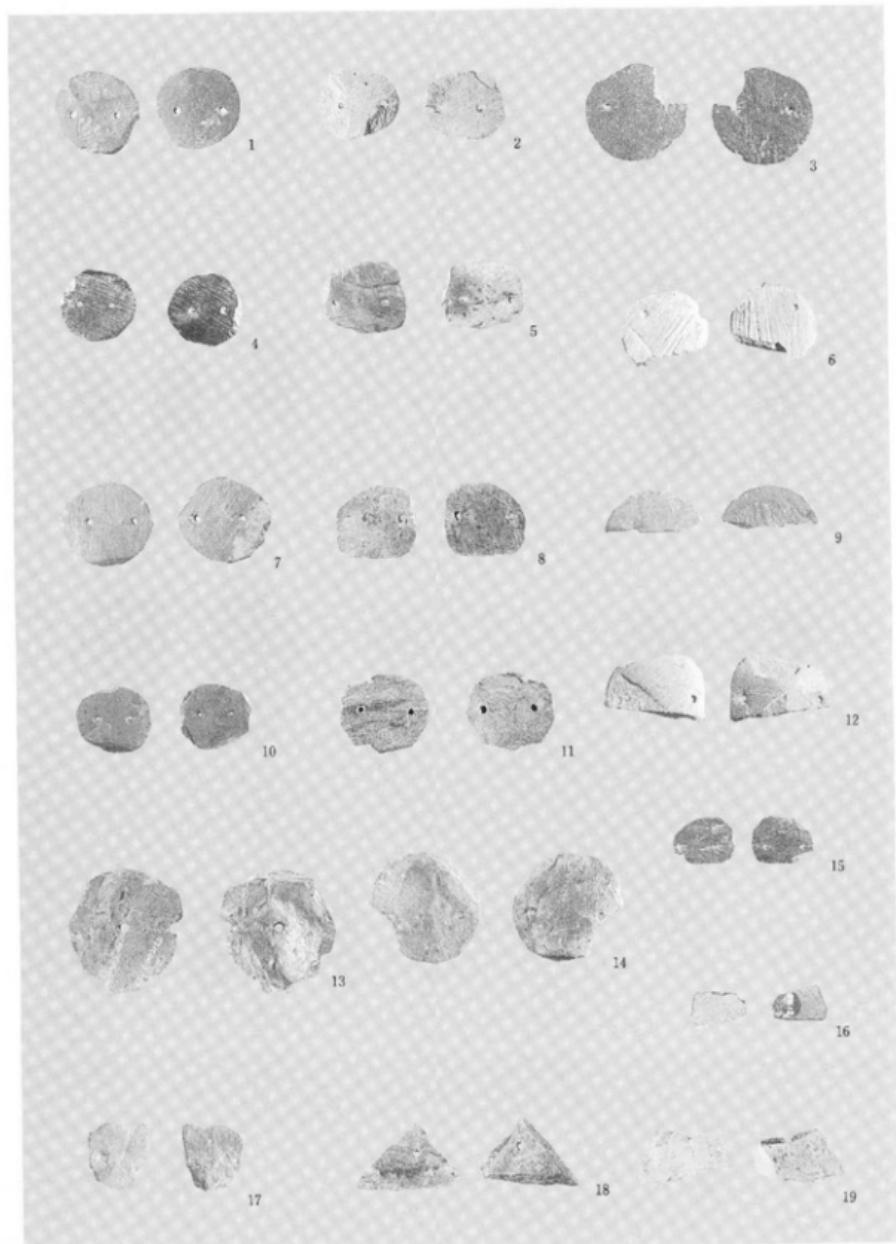


写真75 遺物写真

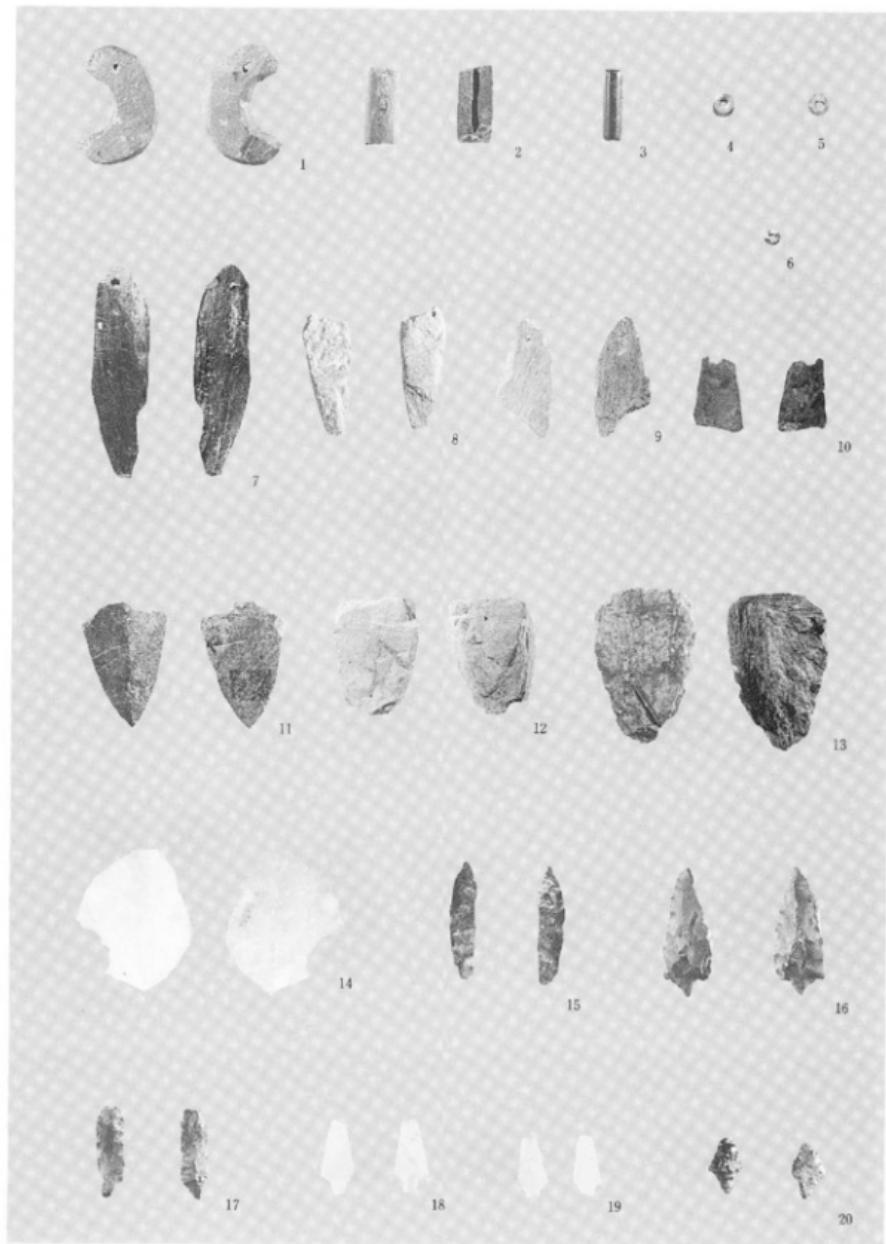


写真76 遺物写真11

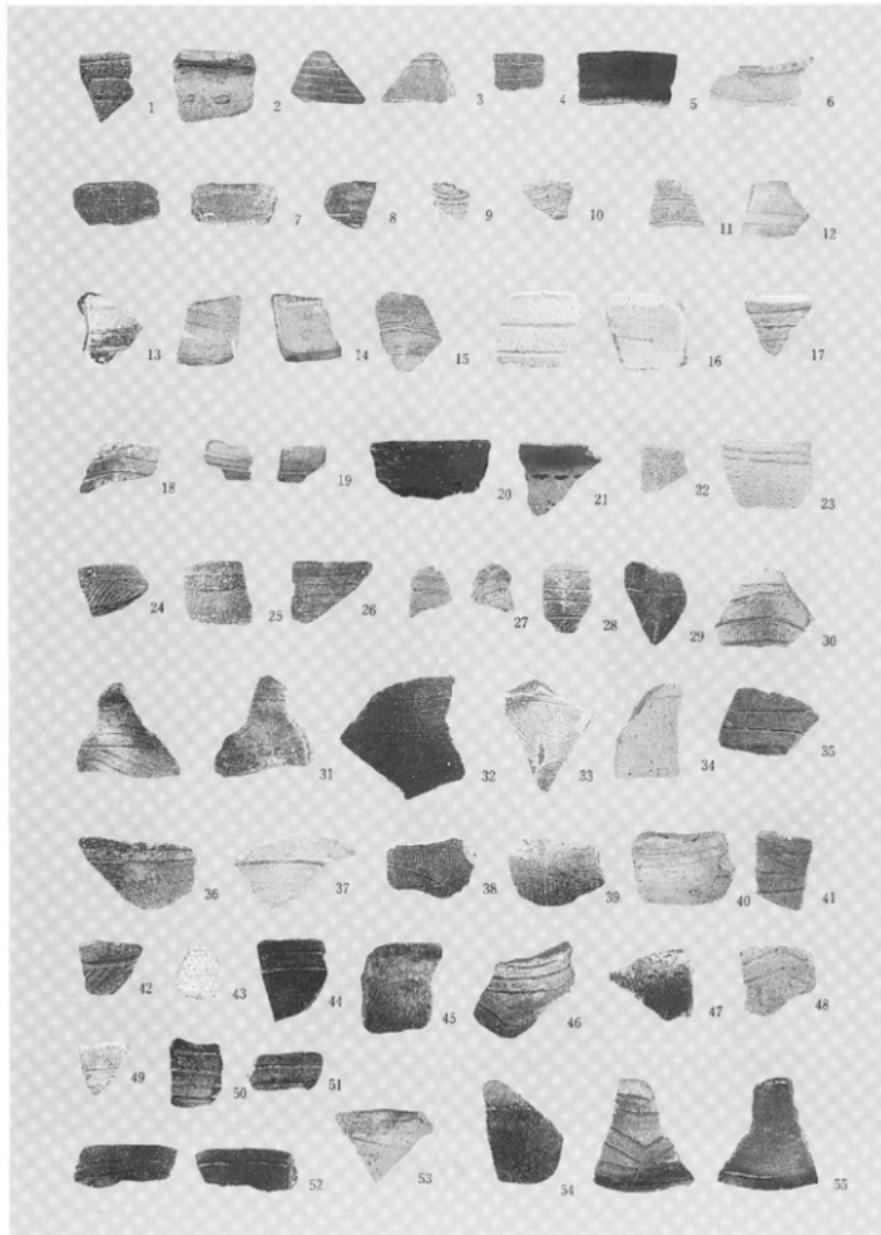


写真77 遺物写真(2)

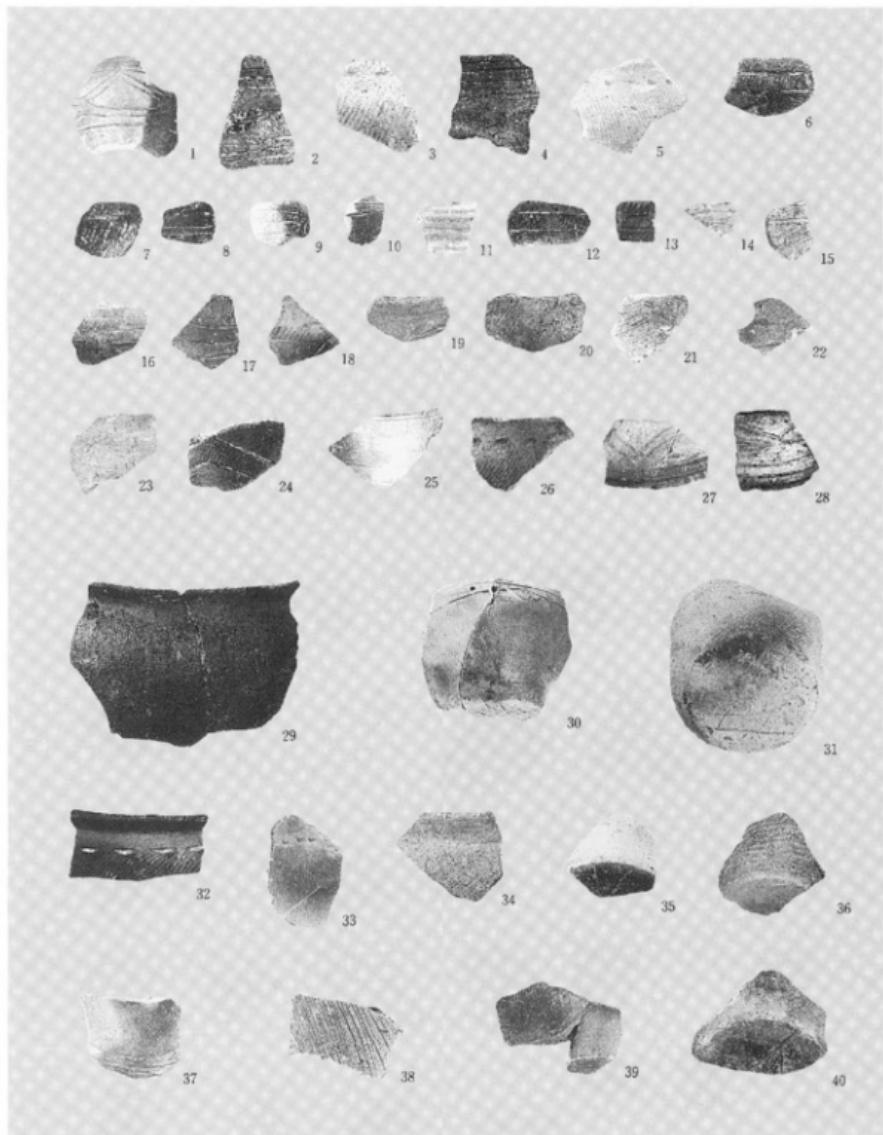


写真78 遺物写真(1)

---

---

仙台市文化財調査報告書第164集

## 南小泉遺跡

平成4年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町3-7-1

仙台市教育委員会文化財課

印刷 ㈱東北プリント

仙台市青葉区立町24-24 TEL263-1166

---

